

潮江南地区防災計画



潮江南防災連合会

作成：令和4年度

潮江南地区防災計画 目次

第1章 はじめに	3
第2章 潮江南地区における災害に向けた備えと対策	
第1節 住宅の倒壊対策・家具転倒防止	6
第2節 津波避難の考え方と津波避難場所	8
第3節 津波避難ビルと避難経路の状況	12
第4節 災害に向けた備えとコミュニティ	16
第3章 災害時の対応と避難所運営に関する潮江南地区の取り組み	
第1節 潮江南小学校避難所開設訓練	22
第2節 土佐塾中学・高等学校避難所開設訓練	25
第3節 地域による避難所運営について	28
第4節 長期避難に対応して	30
第5節 地域の復興に向けたコミュニティ	32
第4章 復興に向けた取り組み	
第1節 事前復興対策について	34
第2節 災害復興住宅について	35
第3節 戸建て住宅における復興対策	36
第4節 復興に向けた法的対応	37
第5節 コミュニティの大切さ	39
第5章 潮江南地区における課題と取り組み	
第1節 避難行動の課題	41
第2節 避難場所の課題	42
第3節 避難行動要支援者対策の課題	43
第4節 課題の解決に向けた取り組み	44
第6章 検討経緯	56
第7章 補足説明	60
第1節 想定される地震と津波の被害	
・ 高知市全体の被害想定	60
・ 潮江南地区の被害想定	64
第2節 潮江南地区の概要	
・ 地形・地質的な特徴	69
・ 社会環境	71
第8章 補足資料	75

地区防災計画とは

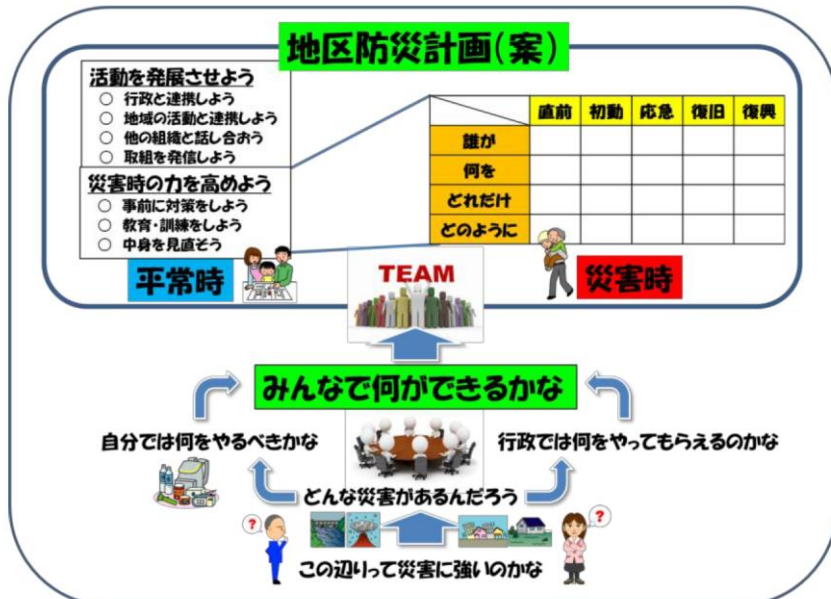
『地区防災計画』は、平成25年に災害対策基本法の改正により創設された制度です。我が国の防災計画は国レベルの防災基本計画と都道府県及び市町村レベルの地域防災計画があり、それぞれのレベルで防災活動が実施されています。

一方で、東日本大震災において、自助、共助及び公助がうまくかみあわないと大規模広域災害後の対策がうまく働かないことが強く認識されました。

市町村の行政機能が麻痺するような大規模広域災害が発生した場合には、まずは自分自身で自分の命や身の安全を守ることが重要であり、その上で、地域コミュニティでの相互の助け合いが重要となってきます。

その教訓を踏まえて、平成25年の災害対策基本法改正では、地域コミュニティにおける共助の推進のために「地区防災計画制度」が新たに創設されました。

地区防災計画は、地域住民が主体となって作成し、行政に提案する計画であり、従来の国→都道府県→市町村のトップダウン型であった防災計画に、地域特性や現況をよく知る住民主体のボトムアップ型を加え、地区の防災力を強化していこうとするものです。



地区防災計画作成のイメージ（出典：内閣府「地区防災計画ガイドライン」）

潮江南地区では、地域の防災活動をより一層向上させるため、令和2年度から『潮江南地区防災計画』の策定を開始しました。

計画策定に当たっては、潮江南防災連合会が主体となり、潮江南地区の住民や、潮江南小学校の教員・児童、高知市など多くの方の参加を得ながら、現状の確認、課題の見直し、そして課題解決に向けた具体的事業案の検討などの取り組みを行い、事前にできることや今後取り組んでいくことなどを計画として落としこみました。

また、特定のアドバイザーとして、高知大学地域協働学部の大槻知史教授らにご参加いただき、アドバイスをいただきました。



潮江南地区防災計画とは

潮江南地区防災計画は、潮江南地区に住む地域住民が考える『自分のまちで災害が起きたときの行動やその事前の備えについての計画』になります。

1. 潮江南地区防災計画のポイント

この計画のポイントは、内容を『まちに住んでいるみんなで考えた』という点にあり、想定される災害に対して、地域の特性や実情に応じた計画であること及び今後における地域の課題やその解決策を整理することで、防災活動の指針となることから、地域全体における自分たちで災害に備える力や住民同士で助け合う力の向上に繋げていくことを目的としています。

2. 潮江南地区防災計画の策定経緯

本計画策定にあたり、まず、令和2年4月から潮江南地区の現状や課題に関する情報収集を目的として、無作為に抽出された校区内の住民1,300人および潮江南小学校にもご協力いただき、保護者の方々にもアンケート調査を実施し、446人の方から回答をいただきました。

次に、より多くの意見収集及び今後の計画策定に参加する住民を増やすことを目的として、地域に対する意見を自由に出し合うワークショップ『第1回潮江南地域フォーラム(令和2年10月25日開催)』を行いました。

その後、アンケート調査や第1回潮江南地域フォーラムで出てきた意見を踏まえて、潮江南地区における課題やその解決のために今から何をすべきか、またそのために何を行っていくべきか、という具体的な計画の内容を検討するために、『第2回潮江南地域フォーラム(令和3年10月24日開催)』・『第3回潮江南地域フォーラム(令和4年8月7日開催)』・『検討会(令和4年11月29日開催)』を行いました。

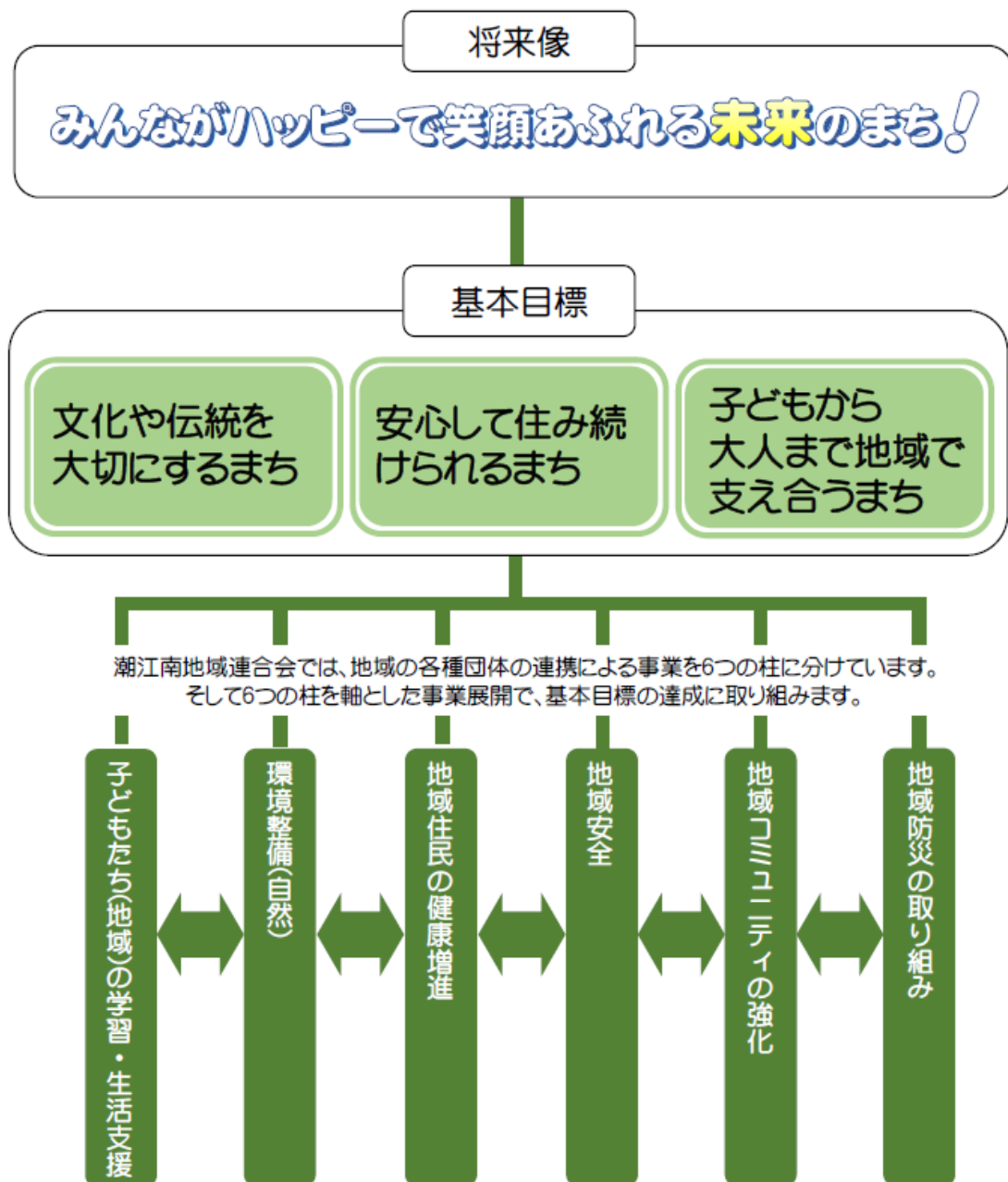
最後に、アンケート調査や各ワークショップで出た課題や意見を踏まえ、地区の防災計画をまとめた本冊子の最終確認のため、最終検討委員会(令和5年1月17日開催)』を行い、策定に至りました。検討経緯の詳細については、『第6章検討経緯』をご参照ください。



3. 潮江南地区のコンセプト

潮江南地区をどういう“まち”にしたいかというコンセプトは、『みんながハッピーで笑顔あふれる未来のまち』になります。

潮江南地区では、6つの柱（「子どもたち(地域)の学習・生活支援」「環境整備(自然)」「地域住民の健康増進」「地域安全」「地域コミュニティの強化」「地域防災の取り組み」）を軸として、基本目標（「文化や伝統を大切にするまち」「安心して住み続けられるまち」「子どもから大人まで地域で支え合うまち」）の達成、そして、『みんながハッピーで笑顔あふれる未来のまち』の実現に向けて、地域の各種団体の連携による事業展開を進めていきます。



次の章からは、潮江南地区における防災面での課題やそれに対する取り組み及び備えについて紹介をしていきます。

第1節 住宅の倒壊対策・家具転倒防止

高知県が平成25年5月に公表した「南海トラフ巨大地震による被害想定」によると、高知市における地震及び津波などによる建物被害は、半壊と全壊を合わせて約104,000棟の倒壊が想定されています。特に、揺れによる建物の全壊・半壊棟数は、全体のおよそ6割を占めており、揺れによる建物被害が大きいと予想されています。

しかし、建物の耐震化など揺れへの対策を行うことで、全壊被害を6分の1以下にまで減少させることが可能です。

高知市における地震及び津波による建物被害の想定(出典:「南海トラフ巨大地震による被害想定(資料2)」)

被害の要因	全体棟数(棟)		半壊棟数(棟)
	現状	対策後	現状
液状化	340	-	1,400
揺れ	32,000	5,000	29,000
急傾斜地崩壊	260	-	230
津波	16,000	-	22,000
地震火災	2,800	-	-
合計	52,000	5,000	52,000

※四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

同様に、高知市では、約12,420人の死者、約12,080人の負傷者が出ることが想定されています。そして、死者のほとんどは津波が被害の要因となっていますが、負傷者・重傷者の約9割は建物の倒壊が被害の要因となると想定されています。

しかし、下表のとおり、建物の倒壊対策を行うことで、死者数は1割程度に、負傷者数は3割以下に減少させることができると考えられています。

高知市における地震及び津波による建物被害の想定(出典:「南海トラフ巨大地震による被害想定(資料2)」)

被害の要因	現状			対策後		
	死者数(人)	負傷者数(人)	重傷者数(人)	死者数(人)	負傷者数(人)	重傷者数(人)
建物の崩壊	2,100	11,000	6,300	270	3,000	1,700
急傾斜地崩壊	40	40	20	-	-	-
津波	10,000	840	290	590	0	0
火災	280	200	60	-	-	-
ブロック塀等の倒壊	若干数	若干数	若干数	-	-	-
合計	12,420	12,080	6,700	860	3,000	1,700

※四捨五入の関係で合計が合わない場合があります。

これらのデータから、建物の耐震化等の事前の揺れ対策は、災害時に命を守ることに非常に効果があることが分かります。

事前にできる揺れ対策の例として、家具の転倒防止や住宅の耐震化が挙げられます。

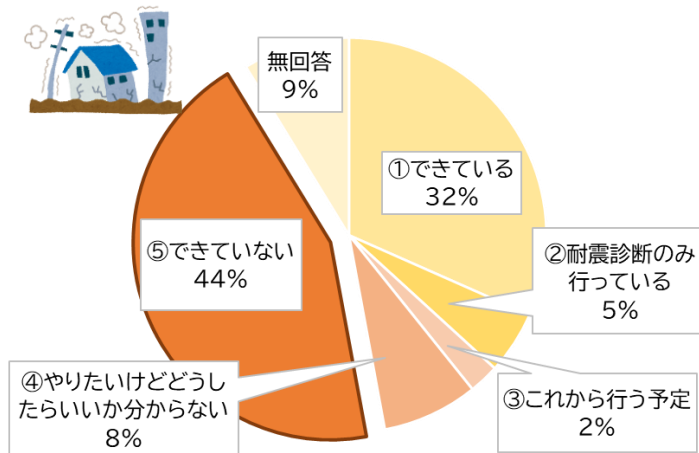
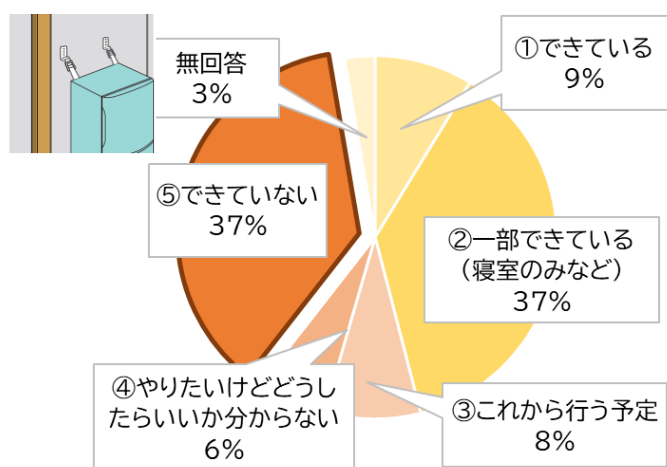
令和2年度に潮江南地区に居住する住民を対象にアンケート調査を行い、その中で、自宅の家具転倒防止対策および耐震化に関する調査も行いました(詳細は、第8章 補足資料「潮江南地域に関するアンケート」参照)。

家具の転倒防止については、『できている』または『一部できている』という回答が全体の46%なのに対し、『できていない』『やりたいけどどうしたらいいかわからない』『これから行う予定』との回答が51%と半数を超えました。

住宅の耐震化についても、同様に『できていない』『やりたいけどどうしたらいいかわからない』『これから行う予定』との回答が54%と、対策ができていないと考えられる回答が半数以上を占めました。

家具の転倒防止対策はできていますか？

ご自宅の耐震化はできていますか？



潮江南地区の住民を対象とした揺れ対策に関するアンケート結果(令和2年度実施)

高知市では、家具の固定についての補助制度や耐震診断・耐震化についての補助金などの制度が用意されています。こうした制度の周知・活用が、事前の揺れ対策の助けになります。各補助制度・補助金の詳細については、高知市ホームページを参照しましょう。

【家具等の転倒防止対策について】(高知市地域防災推進課ホームページ)

https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/kagutentoubou_si.html



【住宅の耐震化・耐震診断について】(高知市建築指導課ホームページ)

https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/58/whtaishinkaisyu_2905.html



第2節 津波避難の考え方と津波避難場所

今後30年以内に約70～80%、40年以内に約90%の確率で発生するとされている南海トラフ地震では、発生した場合、高い確率で津波も発生すると想定されていますが、津波からの避難は、できるだけ早く、少しでも高いところへ逃げるのが基本となります。

地震発生時は、建物被害等による逃げ遅れや、道路被害等による避難速度の低下など、様々な状況が想定されます。そのため、より安全な避難行動を行うにあたっては、事前に複数の津波避難場所を検討しておくことが重要です。

潮江南小学校区内の緊急避難場所は、大きく分けると、筆山や鷲尾山、宇津野などの自然地形の高台と高知市が指定した津波避難ビルがあります。ただし、逃げ遅れた場合には、最後の手段として、指定されたビル以外の建物など、少しでも高いところへ逃げる必要もあります。

潮江地区では広域的な地盤変動により地盤が沈下し、浸水が長期化するおそれがあるため、筆山などの自然地形の高台への避難は、長期浸水による孤立者を減らす対策にも繋がります。指定避難所である土佐塾中学・高等学校への移動も可能になります。

ただし、潮江南小学校区における自然地形の高台では、高知県が定める急傾斜地崩壊危険区域に指定されていることから、がけ崩れや地すべりなどの土砂災害の危険が考えられる場所もあるため、避難場所の確認を行う必要があり、また、地区における津波避難ビルの数を増やすことも望まれます。

【緊急避難場所・避難所の定義】

● 緊急避難場所とは

津波などから一時的に避難し、身の安全を確保するための自然地形の高台や津波避難ビルなどを言います。

津波避難ビル



頑丈な高いビルなど、津波から避難できる建物

自然地形の高台

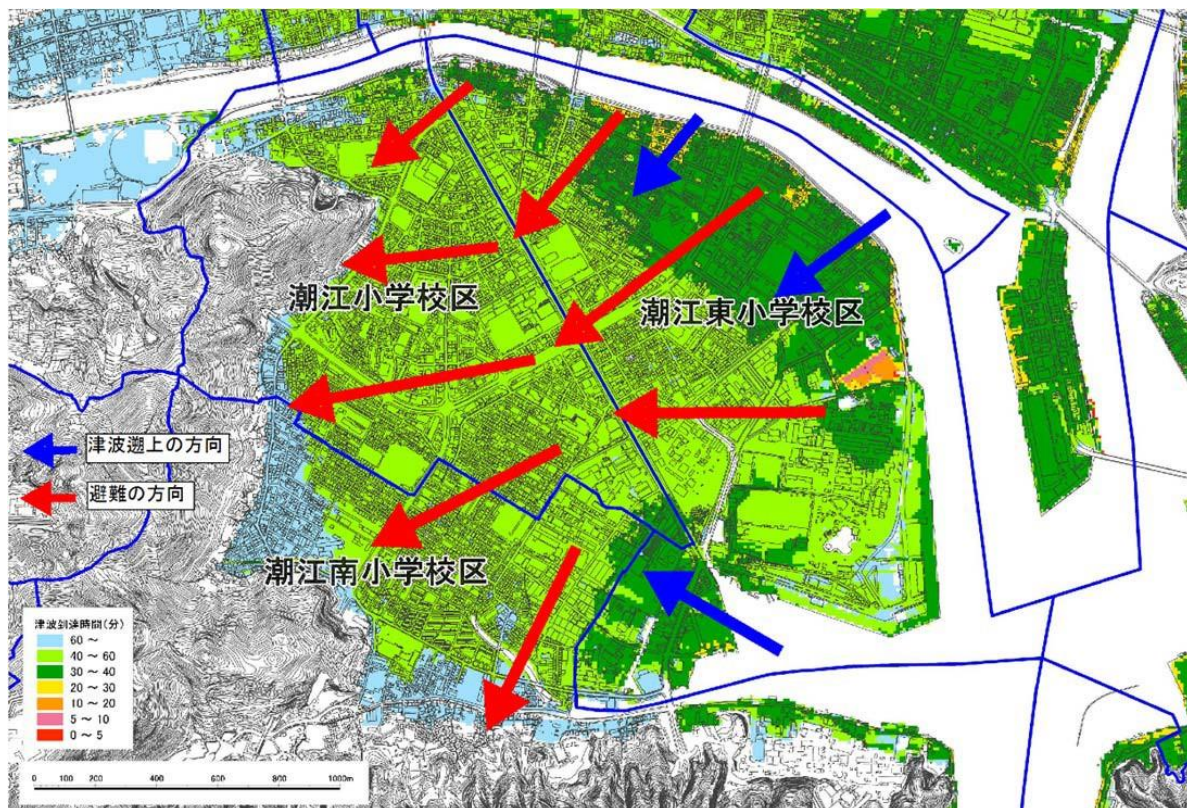


山の上など、川や海から離れた高い場所

● 避難所とは

災害によって自宅が全壊した場合や水や電気などが使用できない場合に、一定期間生活を送る建物等のことです。潮江南小学校区では、潮江南小学校と土佐塾中学・高等学校の2か所が指定されています。

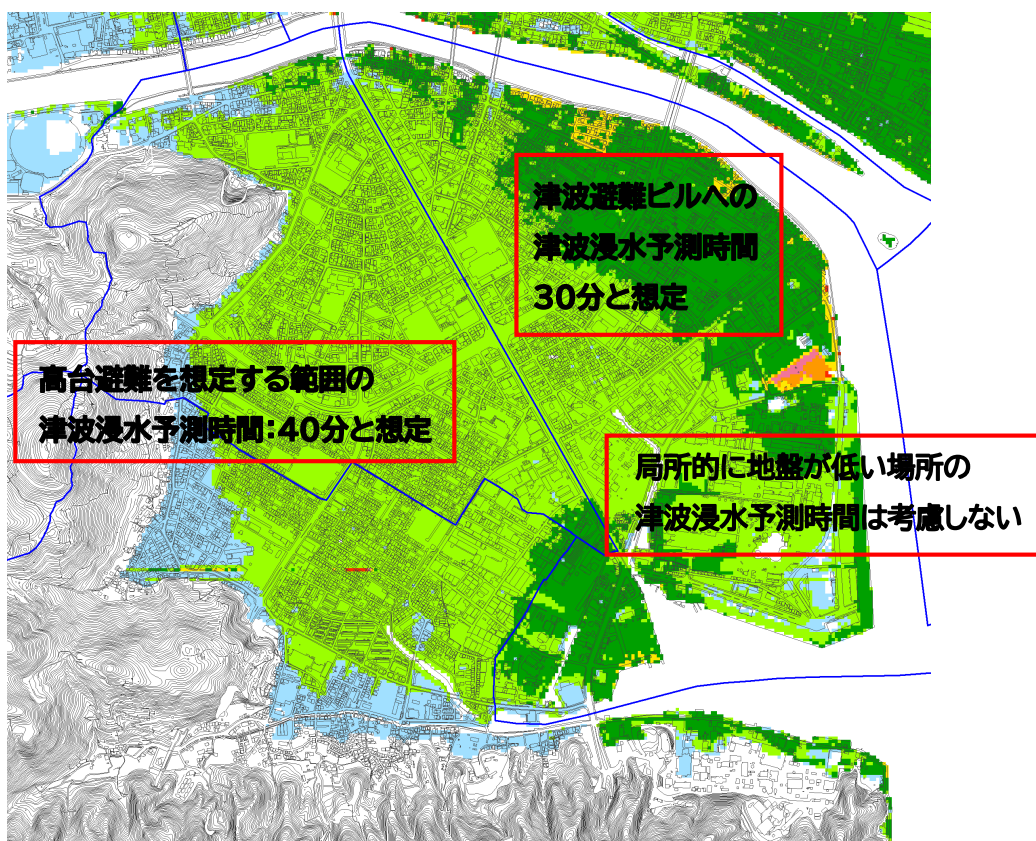
緊急避難場所を選定するにあたっては、津波浸水の予測時間や浸水の方向、津波避難場所までの距離などを考慮する必要があります。潮江中学校区内で想定される津波遡上と避難行動の方向を次ページの図に示しています。



潮江中学校区で想定される津波遡上と避難行動の方向(出典:高知市「潮江南小学校区津波避難計画書」)

津波からの避難については、津波浸水予測時間の想定から避難行動の根拠となる「避難可能時間」と「避難可能距離」が算出できます。

平成26年度に策定された「潮江南小学校区津波避難計画書」の考え方に基づくと、潮江南地区の「避難可能時間」と「避難可能距離」は以下(P.9~11)のように算出されます。



津波浸水予測時間の設定(出典:高知市「潮江南小学校区津波避難計画書」)



自然地形の高台への避難

※ 子どもや成人、高齢者、障がい者などによって移動可能距離に差があります。

避難開始までに必要な時間 + 高所への移動時間 $A = 10 + 5$ 分

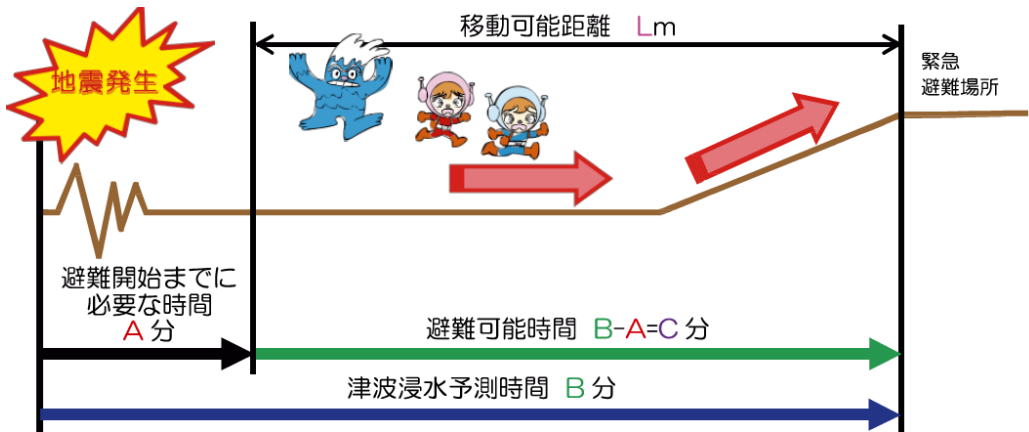
津波浸水予測時間 $B = 40$ 分 避難可能時間 $C = 25$ 分

避難速度 0.6 (m/秒)

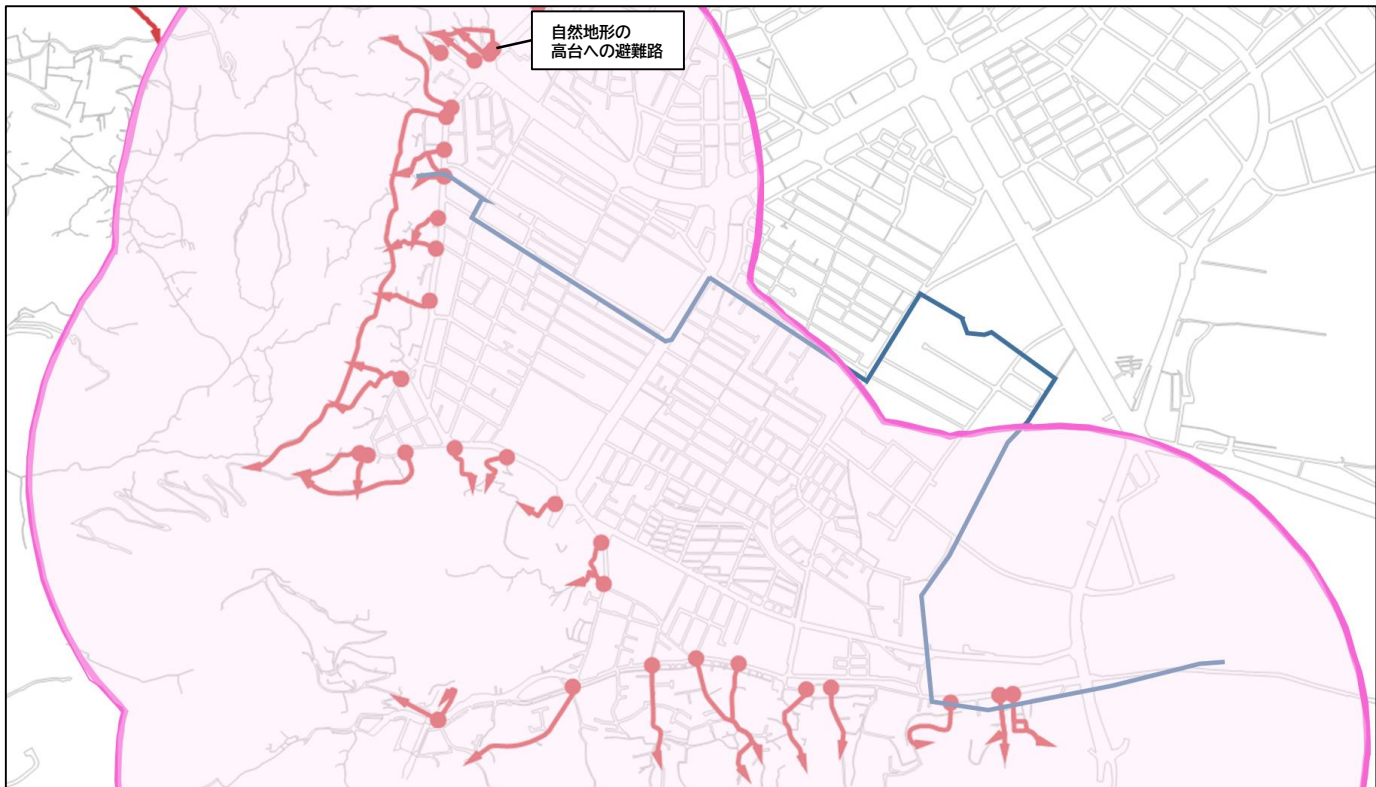
移動可能距離 $L = 0.6 \times 25 \times 60 = 900$ m (道のり)

移動可能範囲の円(半径) $R = 900 / 1.5^* = 600$ m (直線距離)

* : 津波避難実態調査による
避難距離と直線距離の比



避難可能距離の算出について(出典:高知県「地域津波避難計画点検マニュアル」)



自然の高台まで避難可能な範囲(ピンクで囲まれた部分)を示したもの

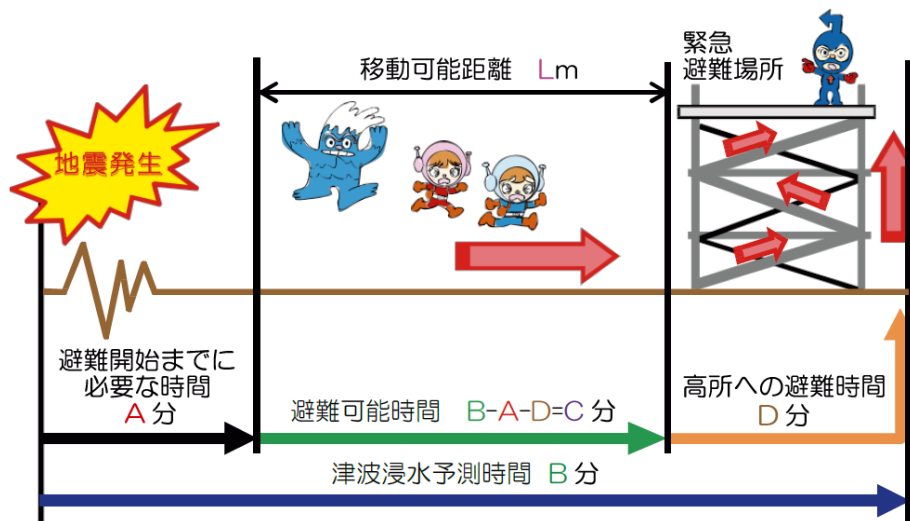


避難ビル等への避難

※ 子どもや成人、高齢者、障がい者などによって移動可能距離に差があります。

避難開始までに必要な時間	A=10分	津波浸水予測時間	B=30分
高所への垂直避難	D=5分	避難可能時間	C=15分
避難速度	0.6(m/秒)		
移動可能距離	L=0.6×15×60=540m(道のり)		
移動可能範囲の円(半径)	R=540/1.5=360m(直線距離)		

* : 津波避難実態調査による避難距離と直線距離の比



避難可能距離の算出について(出典:高知県「地域津波避難計画点検マニュアル」)



各津波避難ビルまで避難可能な範囲(円で囲まれた部分)を示したものの

第3節

津波避難ビルと避難経路の状況

平成24年度に実施した潮江小学校区・潮江南小学校区津波避難路整備方針検討会などで検討した箇所を基本として津波避難経路の整備が行われました。また、平成25年度は、潮江南小学校区津波避難計画に係る検討会等を通じて、潮江南防災連合会が主体となって、候補ビルへの交渉を行いました。



こうした取り組みにより、高知市指定の津波避難ビルは7か所、自然地形の高台に上がるための避難路が23か所整備されました。令和5年1月現在、潮江南小学校区には計30か所の避難場所があることとなります。

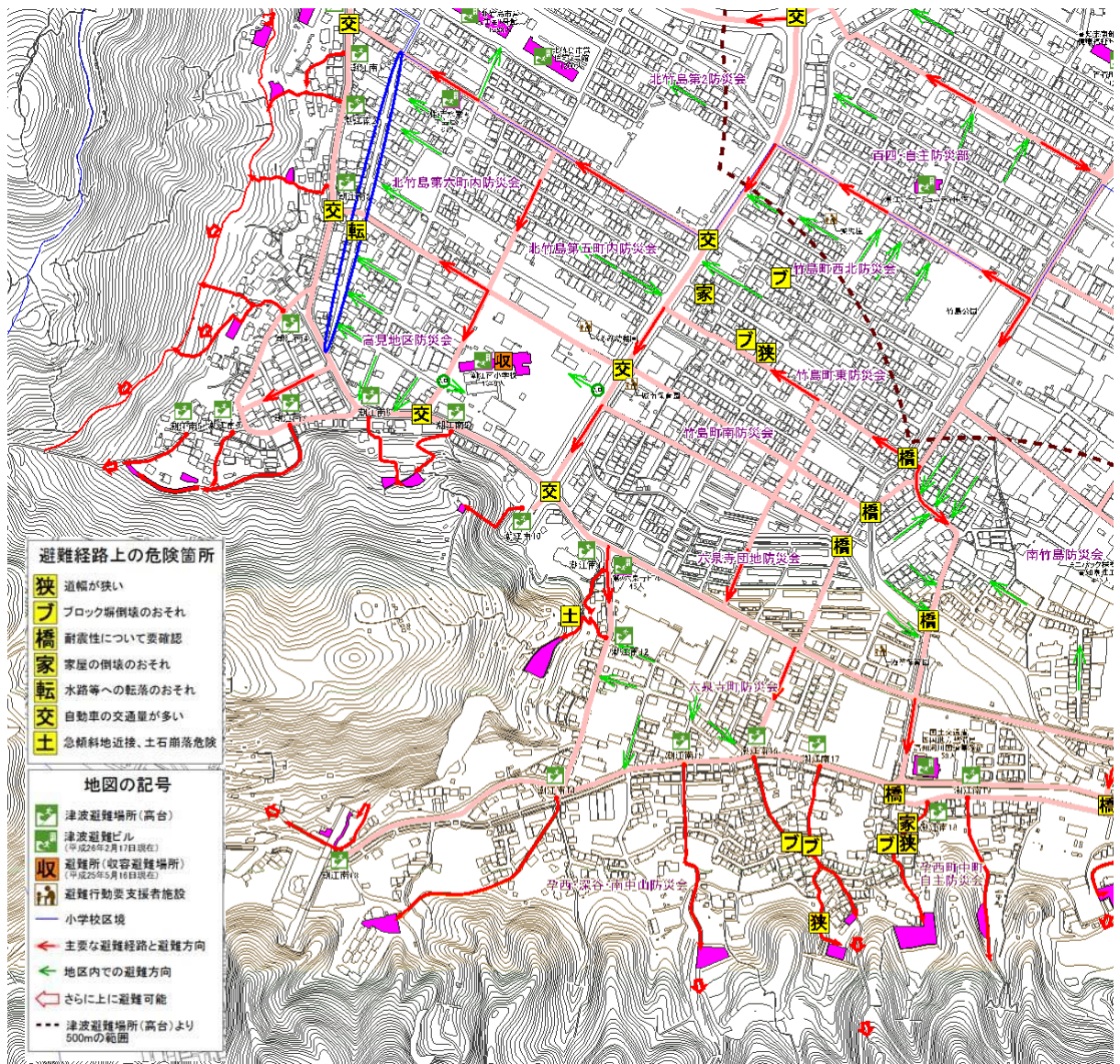


潮江南小学校区の津波避難ビル指定状況(令和4年度時点)

また、平成24年度から平成26年度にかけて、津波避難経路についての検討も行われました。地区内の人家から緊急避難場所に至る全ての経路を津波避難経路とし、そのなかで、避難行動が集中する主要な津波避難経路として以下のような経路を選定しました。

- 【主要な津波避難経路の選定】**
- 緊急避難場所への最短経路
 - 津波遡上方向へ向かわない
 - 道路幅員 6m 以上(目安)の広い道路
 - 閉塞等のリスクが少ない経路

こうして選出された避難経路について、現地確認・ワークショップを実施し、経路上の危険箇所について落とし込みを行った避難行動支援マップが作成されています。



主要な津波避難経路の選定(出典:高知市「避難行動支援マップ(平成27年度)」)

津波避難は、事前に避難場所や避難経路を把握しておくことでより円滑に進められます。

令和2年度に潮江南地区の住民を対象に行ったアンケートでは、津波避難場所についての調査も行いました(詳細は、第8章補足資料「潮江南地域に関するアンケート」参照)。

全体的な避難傾向として、潮江南地区における北側の町は『潮江南小学校』、南側の町は『河川国道事務所』『自然の高台』へ避難すると考えているという回答が多くありました。対して、回答数が0の津波避難ビルも3つあり、避難場所によって想定避難者数の偏りが見受けられます。

最も回答が多かったのは『潮江南小学校』で、その理由として『自宅との距離が近いから』というものが多数でした。しかし、住んでいる町名と照らし合わせた際、中にはそれよりもより近い避難場所がある可能性がある回答もありました。また、気になる回答として、実際には津波避難ビルの指定を受けていない建物を避難場所としている回答もありました。

潮江南地区の住民を対象とした津波避難場所に関するアンケート結果(令和2年度実施)

		建物										
		校区内津波避難ビル					校区外津波避難ビル			自宅	避難場所が不明	
		潮江南小	河川国道	六泉寺ビル	マルパ	パルエ-8	北竹島市営	アスパル	潮江中	自宅	詳細不明	指定外ビル
(各ビル収容人数⇒)	1,699人	50人	45人	3,469人	100人	2,480人	1,645人	1,921人	-	-	-	
町名	全回答	潮江南小	河川国道	六泉寺ビル	マルパ	パルエ-8	北竹島市営	アスパル	潮江中	自宅	詳細不明	指定外ビル
①竹島町	99	57	2	-	1	1	1	1	-	1	7	2
②南竹島町	39	10	1	-	1	-	-	-	-	2	7	1
③六泉寺町	96	33	7	2	-	-	-	-	-	3	8	-
④深谷町	13	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤孕西町	53	4	2	1	-	-	-	-	-	1	2	1
⑥孕東町	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
⑦南ノ丸町	11	1	-	-	2	1	-	-	-	5	-	-
⑧南中山	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑨北中山	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑩高見町	52	24	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
⑪北高見町	12	5	-	-	-	-	-	-	-	2	0	-
⑫北竹島町	60	34	-	-	-	-	5	-	1	1	7	-
⑬その他	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	446	172	12	3	4	2	6	1	1	15	35	4

自然の高台		
竹島公園 命山	山	きめていない わからない (無回答)
2	13	23
1	9	18
-	31	27
-	7	5
-	30	14
-	1	0
1	1	4
-	-	-
-	2	2
-	14	13
-	6	2
-	21	11
-	2	2
4	137	121

気になる回答(一部抜粋)

住居 → 行先	理由	考えられる可能性
南竹島町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから ・避難所も兼ねているから ・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある ・「避難所である」という理由で距離のある避難場所を選んでいる
北高見町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから ・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある(山など)
孕西町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから	・近い避難場所がある可能性がある(山など)
深谷町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから	・近い避難場所がある可能性がある(山など)
南ノ丸・竹島町 → 河川国道事務所	・避難所も兼ねているから	・近い避難場所がある可能性がある ・避難所の指定はされていないビル
竹島町 → 北竹島市営	・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある
北竹島町 → 潮江中学校	・防災マップで確認したから	・近い避難場所がある可能性がある

※1 自然の高台の回答は、『筆山』『高見山(血ヶ峰)』『鷲尾山』『宇津野山』等の回答の集計です。

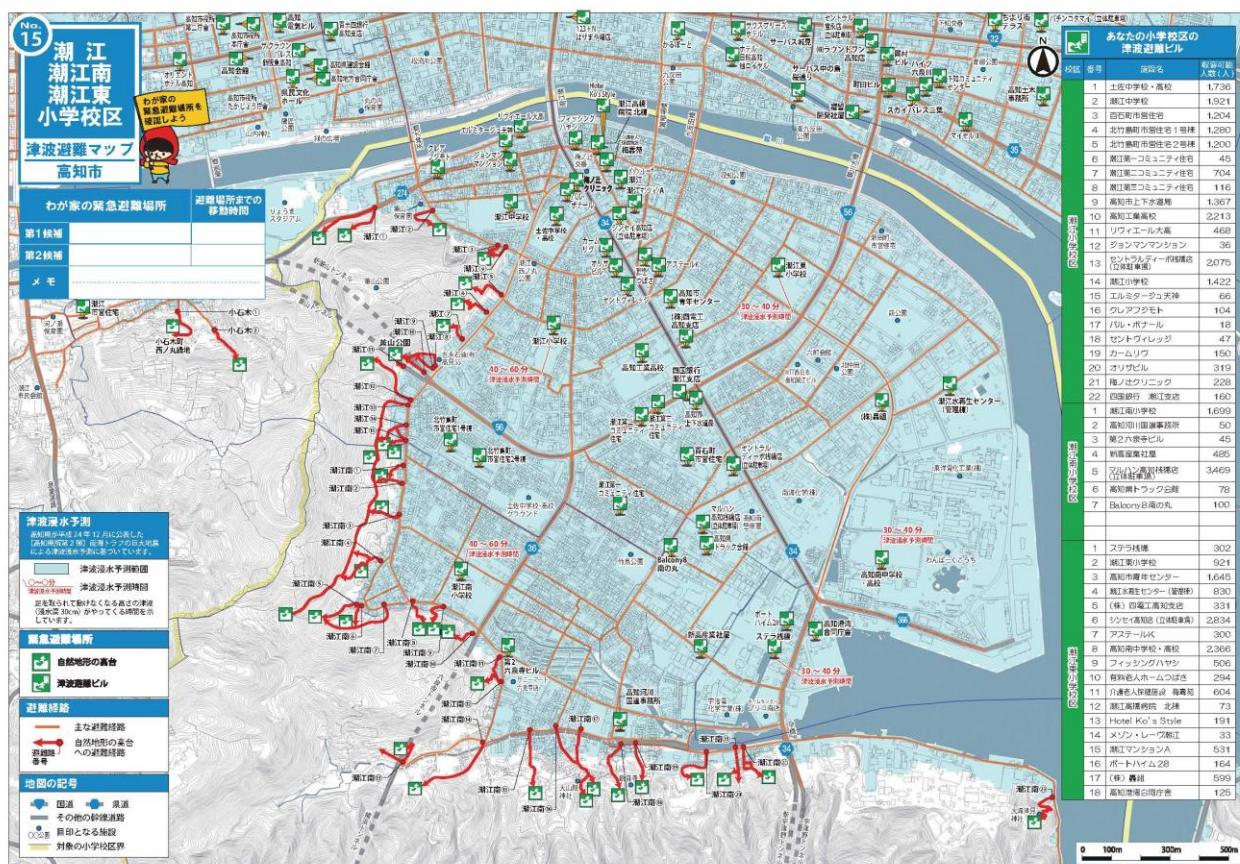
※2 校区内の津波避難ビルのうち、『新高産業社屋』『高知県トラック協会』『戸口協会』については、回答がなかったため省略。

※3 指定外ビルの回答内訳:うしおえメディカルビル(1)・六泉寺マンション(1)・マルハンの隣のビル(1)・アルファステイツ機橋通IV(1)

潮江南地区の避難場所や避難経路については、平成24年度から平成26年度の取り組みをもとに作成された、「潮江・潮江南・潮江東津波避難マップ」が参考になります(最新版は令和元年12月版)。

【潮江・潮江南・潮江東小学校区津波避難マップ】(高知市地域防災推進課ホームページ)

https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/koutisitunami_hinan-map.html



高知市潮江・潮江南・潮江東小学校区津波避難マップ(令和元年度版)を編集したもの

また、この節で紹介した平成24年度からの取り組みによって見えてきた地域の現状・災害時の課題については、「潮江南小学校区津波避難計画書」にまとめられています。

津波避難計画書は、高知市のホームページから閲覧が可能です。

【潮江南小学校区津波避難計画】(高知市地域防災推進課ホームページ)

https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/tikubetutunami_hinannkeikaku.html



第4節 災害に向けた備えとコミュニティ

高知市において、対策が必要となる災害は、地震だけではなく、台風や大雨といった風水害に対しても、日ごろからの備えや対策が重要となります。豪雨や台風により、河川の氾濫や、低地での内水氾濫などを起因とする浸水被害が発生することもあるほか、山間部を中心として土砂災害が発生するおそれもあります。

‘98高知豪雨 平成10年(1998)9月24日~25日

秋雨前線の停滞により、高知県中部を中心に2日間雨が降り続き、国分川水系(高知市、南国市)を中心に甚大な被害が発生しました。高知市では最大1時間降水量が129.5mm、最大日降水量628.5mmを観測しましたが、この数値は歴代1位の観測量となっています。

【浸水被害】



写真引用:高知県『南海トラフ地震に備えちよき』

平成30年7月豪雨 2018年6月29日~7月9日

6月29日9時に日本の南で台風7号が発生したこと、また、7月5日から8日にかけて西日本に停滞した梅雨前線の活動が活発になったことから、高知県全体で大きな被害が出ました。

【土砂災害】



写真引用:高知県『南海トラフ地震に備えちよき』

風水害への備え

風水害への対策としては、まず、水害・土砂災害について、市町村が出す避難情報と、国や都道府県が出す防災気象情報を知ることが大切になります。

市町村では、警戒レベル相当情報のほか、地域の土地利用や災害実績などを踏まえ、総合的に警戒レベル(避難情報)の発令を行うため、警戒レベルと警戒レベル相当情報が出るタイミングなどは必ずしも一致しません。そのため、気象庁などから出される河川水位や雨の情報を参考にしつつ、高知市から出される警戒レベルに応じた避難行動をとるようにしましょう。

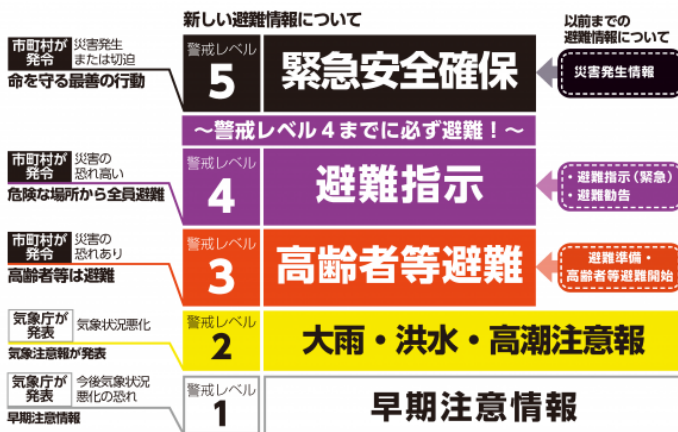
警戒レベル	住民がとるべき行動	市町村の情報	警戒等	気象庁等の情報 キキクル (危険度区分)	指定河川 洪水予報
5	命の危険 直ちに安全確保! ・すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。いまいる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 ※必ず発令される情報ではない	大雨 特別警報	災害切迫	氾濫発生情報
<警戒レベル4までに必ず避難!>					
4	危険な場所から 全員避難 ・台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前に避難を完了しておく。	避難指示	土砂災害 警戒情報	危険	氾濫危険情報
3	危険な場所から 高齢者等は避難 ・高齢者等以外の人も必要に応じて、前段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難	大雨警報※ 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報
2	自らの 避難行動を確認 ・ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。		大雨注意報 洪水注意報	注意	氾濫注意情報
1	災害への心構えを 高める		早期 注意情報 (警報級の 可能性)		

※ 夜間~翌日早朝に大雨警報(土砂災害)に切り替える可能性が高い注意報は、高齢者等避難(警戒レベル3)に相当します。

警戒レベルは、水害や土砂災害に備えて住民がとるべき行動をお知らせするために5段階にレベル分けされています。ここで注意しておきたいのが、避難とは難を避ける、安全を確保するということになるため、安全な場所にいる場合は、避難行動をとる必要はありません。警戒レベル5はすでに災害が発生している状況になるため、警戒レベル3で高齢者など、警戒レベル4で危険な場所にいる全員が避難をする必要があります。

そして、風水害時の停電や断水に備えて、懐中電灯や携帯ラジオ、飲料水、食料品、トイレ用品などを準備しておくこと、自助での備えが大切になります。各家庭での備蓄（備蓄量としては、最低3日間、可能であれば1週間分）及び非常用持ち出し袋の準備をしておきましょう。

なお、眼鏡や薬などの普段使っているものの予備や自分自身が必要とするものも備えておきましょう。



出典：内閣府「避難情報に関するガイドライン(令和3年5月)」

【生活用品】 ラップ 筆記用具（油性の太字ペンなど） ビニール袋（ゴミ袋） ガムテープ 普段飲んでいる薬 マッチ・ライター カセットコンロ 乾電池 現金（小銭も） 軍手 バケツ LEDライト、キャンドル 身分を証明するもの	【衛生用品】 ティッシュペーパー マスク 体温計 ウェットティッシュ （手や体を拭く大判のものが便利） 水のいらないシャンプー	【トイレ対策】 トイレトペーパー トイレ袋 おむつ（大人用、子供用） 消臭剤
【女性・妊婦向け】 生理用品 中が見えない消臭ゴミ袋 母子手帳 つわり時に食べれる食料品 ストール	【高齢者向け】 お薬手帳 入れ歯洗浄剤 柔らかい食べ物	【新生児・子供向け】 オムツ レトルト調乳食 おしりふき 膝かに塗るおもちゃ（めり絵、おりがみなど）
【暑さ対策】 透気性の良い服 つば付き帽子・サングラス うちわ・電池式（ソーラー式）扇風機 スポーツドリンク・塩飴などの塩分が補給出来るもの	【寒さ対策】 使い捨てカイロ 寝袋 アルミ製保温シート	

備蓄用品の例（出典：高知県「南海トラフ地震に備えちよき」）

非常用持ち出し袋とは…

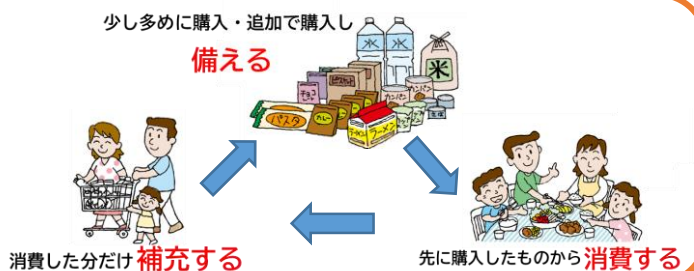
非常用持ち出し袋とは安全に避難をするために最低限持ち出すものになります。身軽に避難ができるよう、避難に必要な物品や貴重品などを入れておく必要があります。また、非常用持ち出し袋は、すぐに持っていけるように、取り出しやすい場所（避難する時の通り道や目につくところ、寝室のまくら元など）に置いておきましょう。



風水害時の停電や断水に備えて、懐中電灯や携帯ラジオ、飲料水、食料品などを準備しておくことが大切になります。各家庭での備蓄及び非常用持ち出し袋の準備をしておきましょう。**ローリングストック**を活用すると、日ごろからの備えを手軽に行えますので、ぜひご家庭で試してみてください。

ローリングストックとは

普段から食べている食材や使用している日用品を「備える」「消費する」「補充する」という行為を繰り返すことでいざという時に備える備蓄方法。



古い木造住宅が多く立地する住宅地や消防車が入っていけないほど幅員が狭い道に接した住宅では、火災が発生した場合に延焼による被害が大きくなると想定されます。

大きな地震が発生した場合、「地震の揺れによる被害」「津波による被害」に加え、「火災による被害」の発生も想定されます。地震を起因として発生する火災のことを「地震火災」と言います。

地震火災

出典:高知県「南海トラフ地震に備えちよき」

地震火災の特徴は、同時多発的に各地で火災が発生したり、家屋やブロック塀の倒壊による通行障害により消防車が現場に行くことができない状況が発生する可能性が高いほか、断水により消火用水が不足するなどにより、十分な消火活動が行えないことが挙げられます。

また、2011年に発生した東日本大震災では、出火した倒壊家屋やがれきが津波によって高台の際や津波の浸水境に漂着堆積して、山林や市街地に延焼し、大規模火災(津波火災)が発生したとされています。

過去の地震火災による被害

地震発生日	地震名	マグニチュード	消失棟数
1923年9月1日	関東地震 (関東大震災)	M7.9	477,128棟
1946年12月21日	昭和南海地震	M8.0	2,598棟
1995年1月17日	兵庫県南部地震 (阪神・淡路大震災)	M7.3	7,478棟
2011年3月11日	東北地方太平洋沖地震 (東日本大震災)	M9.0	火災件数:330件 (うち、津波火災:159件)

東日本大震災における火災の発生原因

東日本大震災の本震によって発生した火災全111件のうち、原因が特定されたのは108件あり、そのうちの過半数が電気関係の出火でした。



火災の危険

地震発生後は、地震の影響により停電が起こる可能性が高いですが、電気が復旧した時に、家電が浸水している場合や破損した電気製品や屋内配線に再び電気が流れることによって、通電火災や漏電火災が発生することも想定されます。

そのため、地震の揺れがおさまったあと、避難をするときには必ずブレーカーを落とすことが重要になります。

以下では、地震発生時の火災への対策を紹介します。(引用:高知県「南海トラフ地震に備えちよき」)

① 出火防止対策

まずは火を出さない「出火防止」の対策が重要になります。

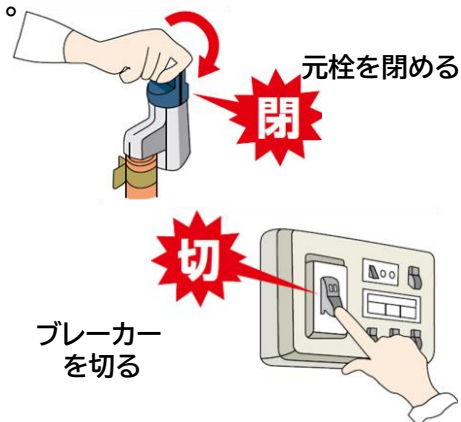
取り組みの例

【事前の対策】

- ・ 感震ブレーカー等の設置
- ・ 安全装置の備わった電気・ガス・石油器具類を使う
- ・ 可燃物の転倒・落下防止

【発災時の取り組み】

- ・ 家を出る時は、ブレーカーを落とし、元栓を閉める
- ・ 身の安全を確保し、揺れがおさまったら、火の始末をする



② 延焼防止対策

地震発生時は、消防署や消防団がすぐに対応できないことが想定されます。このため、出火直後の火が小さい段階は個人や地域で消火にあたるといった、住民自らが消火に取り組むことが必要になります。

しかし、火が大きくなった際には無理せず、ただちに避難をするようにしましょう。

取り組みの例

【事前の対策】

- ・ 住宅用火災報知器の設置
- ・ 消火器、消火用水の確保
- ・ 防災（消火訓練）への参加
- ・ 老朽住宅の除却

③ 安全な避難対策

木造住宅が密集している市街地では安全に避難することが困難となる可能性がありますので、早め早めに避難することが重要です。そのためには、避難場所や避難経路の安全性の確認と、避難訓練を繰り返し行うことが重要です。

取り組みの例

【事前の対策】

- ・ ブロック塀の安全確認対策
- ・ 住宅の耐震化
- ・ 避難場所の確認、避難経路の安全性の確認
- ・ 火災を想定した避難訓練の実施

【発災時の取り組み】

- ・ 出火状況の把握、避難情報の伝達、避難の判断
- ・ 避難行動要支援者の避難支援



コミュニティの大切さ

地震の揺れや津波による被害は、事前の家具の固定などの揺れ対策、津波避難場所や避難経路の確認などで効果的に減らすことができます。

また、南海トラフ地震発生時には、倒壊した家屋からの救出や津波避難の補助など、地域住民同士での助け合いといった共助によって、命が助かる可能性は大きく高まります。災害時の助け合いには、普段から住民同士が助け合える関係、コミュニティが大切です。

潮江南地区では、災害に向けた備えとして、事前の災害に向けた備えやコミュニティづくりに取り組んでいます。本章第3節では、その一例として津波避難経路や津波避難場所の検討について紹介しました。この他にも、潮江南地区では、災害に向けた備えとコミュニティの強化を目標に、以下のような取り組みを行っています。

潮江南地区津波避難訓練・防災勉強会

- ・ 実施事項 : 津波避難訓練、防災に関する講習会
- ・ 実施時期 : 毎年実施
- ・ 実施主体 : 潮江南防災連合会
- ・ 協力者 : 講師(毎年テーマに合わせた方に依頼)
- ・ 6つの柱 : 地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

外付け階段を使って、避難場所である潮江南小学校の屋上までの津波避難訓練を、定期的に行っています。

津波避難訓練のあとは、参加者向けに防災に関する講習会も実施しています。災害時の食生活や、ロープワークなど、毎年テーマを変えて実施しています。



潮江南小学校防災学習(4年生・防災マップ作り)

- ・ 実施事項 : 防災の視点でのまちあるき、マップ作り
- ・ 実施時期 : 毎年実施
- ・ 実施主体 : 潮江南小学校(4年生)
- ・ 協力者 : 潮江南防災連合会、みなみ連合 他
- ・ 6つの柱 : 子どもたちの学習、地域コミュニティの強化

潮江南小学校4年生の防災授業の一環として、防災の視点でのまちあるきを実施しています。

児童だけではなく、地域組織の役員も一緒にまちあるきに参加し、“まち”の情報や避難場所について児童に教えるなどして、より充実したマップ作りを実施しています。



防災学習発表・防災講演会(むすび塾)

- ・ 実施事項 : 生徒の防災学習発表、防災講演会
- ・ 実施時期 : 平成28年2月19日
- ・ 実施主体 : 潮江南防災連合会、河北新報(宮城県)、高知新聞
- ・ 協力者 : 潮江南小学校、潮江中学校、高知市地域防災推進課
- ・ 6つの柱 : 子どもたちの学習、地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

高知新聞および宮城県河北新報と合同で、防災意識向上のための「むすび塾」を開催しました。

小学校・中学校での防災学習の発表に加え、東日本大震災を経験した語り部の方の講演が実施され、より深く災害について学び、知ることのできる機会になりました。



状況付与型津波避難訓練・振り返りワークショップ(むすび塾)

- ・ 実施事項 : 津波避難訓練、訓練を振り返るワークショップ
- ・ 実施時期 : 平成28年2月20日
- ・ 実施主体 : 潮江南防災連合会、河北新報(宮城県)、高知新聞
- ・ 協力者 : 高知市地域防災推進課
- ・ 6つの柱 : 地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

「むすび塾」の一環として、津波避難訓練とその振り返りをワークショップ形式で行いました。

津波避難訓練はより具体的なイメージを持てるよう、「家族が家にいる時」などの状況を付与して行いました。

訓練後には通った避難路の危険箇所などを共有しながら地図を見て話し合いを行い、改善点を話し合いました。



潮江南小学校で開催した防災訓練の様子(H31)



第1節 潮江南小学校避難所開設訓練

平成30年8月4日に、潮江南防災連合会及び高知県合同での潮江南小学校避難所開設訓練及び大規模災害時医療活動訓練が実施されました。

■ 避難所開設訓練

午前中に行われた避難所開設訓練では、潮江南防災連合会のメンバーなど地域住民の方を中心に、安全確認チーム、区割りチーム、受付設置チーム、トイレチームの4チームに分かれて、避難所の開設準備を行いました。各チームのリーダー等は、当日集まった参加者からその場で選出され、本番さながらの訓練になりました。

安全確認チームが体育館周辺の安全確認を行ったあと、区割りチームがフロアシートで体育館を区割り、受付チームが体育館通路に受付を設置、トイレチームがトイレの安全確保及び簡易トイレを設置し、スムーズに避難所開設を行うことができました。

避難者役の参加者は、中村防災サービスから災害時のトイレについての講習、高知県栄養士会から避難所での栄養管理についての講習などを受け、災害時の避難所の課題やそのための備えについて学んでいました。

また、お昼には、民生委員の方を中心として炊き出し訓練が実施され、豚汁のほか、災害食の定番であるアルファ化米の試食などを行い、災害時の食事を体験しました。

運営スタッフ打合せ



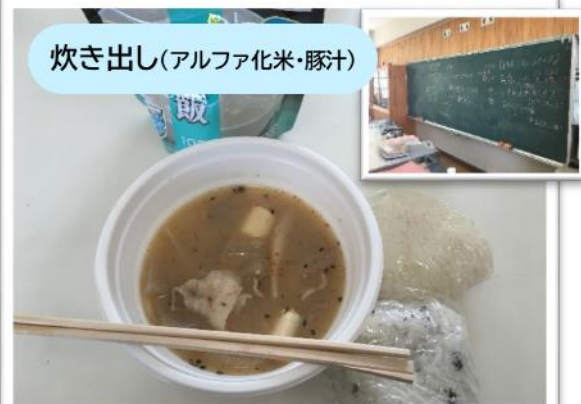
体育館区割りの様子



簡易トイレ使用方法説明



炊き出し(アルファ化米・豚汁)



■ 災害時医療活動訓練

午後からは、保健医療チーム(※)による災害時医療活動訓練が実施され、地域住民は傷病者や体調不良の避難者役として訓練に参加しました。

保健医療チームによって体育館内に医療対策本部が設置され、地域での避難所運営本部との情報交換や運動場に設置された仮設診療所(dERU)への搬送などを訓練し、参加者も避難者役として災害時の聞き取りを体験することができました。

また、災害時の移動型薬局であるモバイルファーマシーの展示もあり、こうした体験や見学を通して、災害時の医療活動について知ることができました。

訓練の終了後には、参加団体による訓練の振り返り及び講習が実施されました。避難所での生活によって起こりうるエコノミークラス症候群を予防するための体操や、避難所での妊産婦への対応やそのための取り組みなどについての説明があり、参加者も聴講することで避難所の課題について学ぶ機会を持つことができました。



避難所の医療対策本部



避難者への聞き取りの様子



仮設診療所(dERU)



モバイルファーマシー

※ 地域災害支援ナース、DMAT、日赤救護班、高知県薬剤師会、岐阜薬科大学(モバイルファーマシー)、KORAT、栄養士会、愛玩動物協会、高知県助産師会、JRAT

平成30年10月9日の潮江南防災連合会役員会では、潮江南小学校避難所開設訓練(災害時医療活動訓練)の振り返りが行われました。振り返りでは、保健医療チームも含めた参加者を対象に実施したアンケートの結果が共有されました。

以下の表は、アンケートの結果と振り返りの際に出ている意見をまとめたものになります。

訓練の感想(訓練参加者のアンケート結果)

良かった点

- ・ 避難所開設や流れが把握できた
- ・ 活動のイメージができた
- ・ スムーズな連携には訓練が必要と感じた
- ・ 事前準備が必要であることがわかった
- ・ 必要な対応やマニュアル作りの参考にできる
- ・ 今後の活動に生かすことのできる訓練ができた

【保健医療チーム】

- ・ 色々な団体が参加できた
- ・ 各支援チームとコミュニケーションを取ることができた
- ・ 初めて野外(現場)での訓練ができた
- ・ 実際の避難者の声を聞くことができた

良かった点

- ・ 暑さ対策が必要
- ・ 避難した後の想定で実施してもよかった
- ・ どの団体が来ているか不明で、団体の責任者も分からなかった

【保健医療チーム】

- ・ 団体同士の連携ができなかった
- ・ フェーズを踏まえた団体の活動ができればよかった
- ・ 訓練日程をもう少し確認したかった

改善点

- ・ 炎天下ではなく、日陰や屋内で説明してもよかった
- ・ 体育館に収容できる人数を把握しておく必要があると感じた
- ・ 靴の置き場所と避難所まで距離があったので、不便に感じた
- ・ DMATや支援チーム専用のスペースの確保

【保健医療チーム】

- ・ 傷病者の把握には、登録者カルテを参考に巡回して声をかける
- ・ 支援チームの役割分担を徹底する、コントローラー役の必要性
- ・ 避難所に入る前の事前準備
- ・ 支援チームの引継ぎ方法、アナウンス、状況の可視化

今後必要と思う訓練・研修

- ・ 段ボールベッドの組み立て研修
- ・ 避難所運営ゲーム(HUG)
- ・ 災害フェーズに合わせた対応訓練
- ・ 自衛隊も入った訓練

【保健医療チーム】

- ・ 支援チームの連携訓練(垣根を越えた巡回など)
- ・ 保健所や施設での訓練参加
- ・ 指揮命令系統訓練からの避難所訓練
- ・ 各団体を知ってもらうことのできる研修
- ・ 避難所から医療ニーズを掘り起こす訓練
- ・ 情報伝達と実搬送訓練
- ・ 対応内容の種別ごとの訓練

その他

- ・ この訓練は災害に対する意識を高くすると思った
- ・ 水分補給と休憩時間をもっとアナウンス等で周知するべき
- ・ 医療体制と災害体制に分けた訓練、マニュアル作成が必要

【保健医療チーム】

- ・ 分娩セット、妊産婦検診セットを常備してもらえると良いと思う
- ・ 各支援チームとの連携のためには、活動内容を知ることが重要
- ・ 長期避難における医療体制

振り返りの際に出た意見

避難所班のリーダーを突然任せられるかたちだったが、使命感があった。誰がリーダーになっても動けるよう、何回も訓練をやるべきだと思う。

避難者からの文句やトラブルについても訓練しておくべきではないか。文句やトラブルの解決策についても、なにか避難所運営マニュアルに落とし込んでおくのはどうか。

過去の避難所で起こったトラブルにはどんなものがあるか知りたい。

第2節 土佐塾中学・高等学校避難所開設訓練

平成30年10月14日に、潮江南防災連合会主催での土佐塾中学・高等学校避難所開設訓練が実施されました。

訓練は、避難路及び登山路を活用しての土佐塾中学・高等学校への津波避難訓練からはじまり、到着後は、避難所指定されている体育館を活用し、役員を中心としたメンバーで避難所開設の流れについて確認をしていく形式で行われました。

■ 津波避難訓練

避難所開設訓練は10時からでしたが、希望者で土佐塾中学・高等学校までの津波避難訓練を実施しました。

土佐塾へ避難をするためには、まず、自然の避難路を上り、それに続くハイキングコースを上ることで、施設に避難をすることができます。

潮江南小学校から土佐塾中学・高等学校間の標高差は約190mほどですが、約50分で参加者全員の土佐塾中学・高等学校への避難が完了しました。これは事前に事務局側で確認した想定とほぼ同じでした。

途中、傾斜が少しある道もありましたが、厳しい道が多くあるわけではないので、小学生でも避難できると思うとの感想も出ていました。



平成30年10月14日津波避難訓練 避難経路イメージ

■ 避難所開設訓練

津波避難訓練のあと、体育館での避難所開設訓練を行いました。訓練では、平成29年度から検討を行ってきた「土佐塾中学・高等学校避難所運営マニュアル」を使用しました。

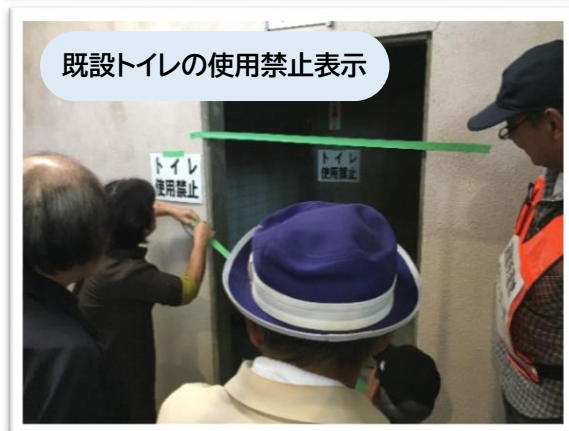
訓練では、避難所開設の段階で必要となる、「避難所の安全確認」、「受付の設置」、「避難所の区割り」、「トイレの確保」の4つのチームで行う内容を、全員で確認しました。

「避難所の安全確認」では、避難所運営マニュアルに掲載されている安全確認チェックリストの内容を全員で確認し、続く「受付の設置」では、ピロティに受付を設置したのち、災害時に書き込みを行う避難者カードを確認しました。その後、避難所開設の初動を参加者全員で共有しました。

「避難所の区割り」では、学校に配備されているフロアシートや養生テープを実際に使い、一区画分の区割りを実際に行いました。一人分の区画(1m×2m(2㎡))分に区切り、実際に寝転がったり座ったりして、参加者のみなさんで避難生活をイメージしてもらいました。

「トイレの確保」では、地震の影響で水道管が壊れたことなどを想定し、既設トイレの使用禁止表示、水を使わない簡易トイレの組立を訓練しました。使用禁止表示だけでなく、養生テープで簡易なバリケードを作るなど、訓練の中でも臨機応変な対応ができました。

訓練後には、土佐塾中学・高等学校から、体育館の使用にあたって、体育館に張られているネットの収納方法や、体育館の照明スイッチの場所、また体育館入口に設置されたキーボックスの説明があり、学校側と地域住民とで、避難所の動きについて情報を共有することができた訓練になりました。



平成31年1月29日の潮江南防災連合会役員会では、土佐塾中学・高等学校避難所開設訓練の振り返りが行われました。振り返りでは、潮江南防災連合会で作成した訓練の写真が共有されました。

以下の表は、振り返りの際に出ている意見をまとめたものです。

振り返りの際に出た意見

避難所運営に必要な資機材などは配備される予定はあるのか。

→ 高知市のほうで、避難所運営用の資機材や簡易トイレの資機材を配備している。

行政だけでなく、潮江南防災連合会として地域の資機材を置かせてもらえないか、土佐塾中学・高等学校さんと検討や相談をしていきたい。

土佐塾中学・高等学校までの避難路の一部を舗装するなどして整備できないか。

→ コンクリート舗装は、山の水はけなどに影響が出るのでは？私道もあって難しいのでは？

今後も定期的に土佐塾中学・高等学校での避難所開設訓練を行い、改善点を見つけていきたい。

また、この訓練を検証と位置づけ、「土佐塾中学・高等学校避難所運営マニュアル」の平成30年度版が完成しました。令和4年からは、避難所内における感染症対策や要配慮者の方への対応、災害時の物資、防災行政無線などの連絡手段に関する内容を追記したものに改訂を行っています。

「土佐塾中学・高等学校避難所運営マニュアル」は、土佐塾中学・高等学校の防災倉庫に保管されているほか、高知市ホームページにも掲載されており、閲覧が可能です。

【避難所運営マニュアル】(高知市地域防災推進課ホームページ)

<https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/12/hinansho-manyuaru.html>



土佐塾中学・高等学校での避難所開設訓練(H31)



第3節 地域による避難所運営について

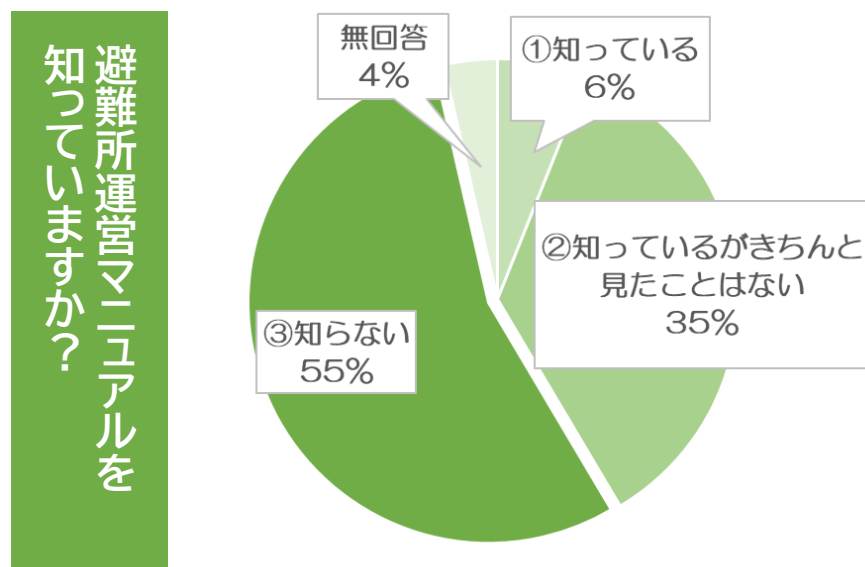
地震のような大規模災害時の避難所は、交通網の分断などが起こり、国や自治体がすぐに現地に向かうことが困難になります。加えて、潮江南地区は長期浸水の可能性が高く、公助での救助が行われるまでは緊急避難場所で一定期間生活する必要があります。

こうしたことから、避難所の開設・運営については、避難してきた地域住民で行うことができるようにしておくことが重要になります。

令和2年4月に無作為抽出された潮江南地区の住民1300人及び潮江南小学校児童の保護者を対象に行ったアンケート(回答者446名)では、避難生活についての調査も行いました(詳細は、第8章 補足資料「潮江南地域に関するアンケート」参照)。

大規模災害時に避難者が避難所を開設・運営するための指針となる避難所運営マニュアルについて『知っているがきちんと見たことはない』『知らない』との回答は全体の9割でした。また、『知らない』と答えた方は全体の半数以上でした。

潮江南地区でも、土佐塾中学・高等学校で避難所運営マニュアルを作成済みですが、多くの方が『内容やその存在について把握していない』という結果になりました。



潮江南地区の住民を対象とした避難所運営マニュアルに関するアンケート結果(令和2年度実施)

また、避難生活をする場所はどこを考えているか、という質問については、『指定避難所』で過ごすと考えている方が373回答と最も多く、中でも『潮江南小学校』を挙げた方が多くいました。

指定避難所以外の場所を挙げた方は、『自宅』『親戚・知人宅』がそれぞれ141回答及び130回答と、全体の3割近くを占めました。これらの回答をした方は、『浸水しないスペースがあるから』『親戚・知人宅は浸水区域外にあるから』などの理由が多くみられ、その他にも『ペットがいるため、障害があるため避難所での生活が難しい』など、避難所での共同生活に不安を感じているという回答もいくつか見られました。加えて、少数ではありますが、『避難生活をする場所についてわからない・決めていない・考えていない』という意見も見られました(次ページ参照)。以上のことから、見やすく分かりやすい避難所運営マニュアルを作成する必要があり、今後作成を進めていきます。

潮江南地区の住民を対象とした避難生活に関するアンケート結果(令和2年度実施)

津波から命を守った後、避難生活をする場所はどこを考えていますか？
その場所を選択した理由は何ですか？(複数回答可)

		①浸水しない スペースが あるから	②避難した 知人が多い と思うから	③市の指定 だから	④備蓄品が あるから	⑤その他	回答無し	合計	
避難所	指定避難所	73	81	129	72	5	13	373	
	潮江南小学校	25	31	39	27	2	9	133	
	土佐塾中学・高校	2	1	-	-	-	-	3	
	潮江中学校	-	-	-	-	-	1	1	
	※指定避難所 以外の建物	1	-	-	-	-	-	1	
	その他の理由	・そこ以外知らない(1) ・他に行く場所がない(1)							
自宅	自宅	69	21	1	24	22	4	141	
	その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・近くなるので(1) ・過去の災害・経験から(1) ・ペットがいるため(3) ・遠くに行けない、移動が困難(2) ・浸水想定外だから(4) ・なるべく早く元の生活に戻りたい(1) ・自宅以外は検討中(1) ・障害のため避難所での生活が困難(2) 							
親戚知人	親戚・知人宅 (実家を含む)	39	36	1	6	6	42	130	
	その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・親戚宅のほうが安心して過ごせそうだから(1) ・ペットがいるため(1) ・津波の影響がないと考えているから(3) ・実家があるのと、避難所は多くの人がいるので(1) 							
その他	その他の場所 その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・車内(1) ・近くの畑(1) ・災害の状況によって考える(1) ・近所の高い家か場所(1) ・ペットに負担をかけたくないので、被害のない地域で家を借りる(1) ・指定避難所に行きたいが、行けるかわからない(1) ・わからない、決めていない、考えていない(8) 							23



第2回みなみフォーラム(R3)



第3回みなみフォーラム(R4)

第4節 長期避難に対応して

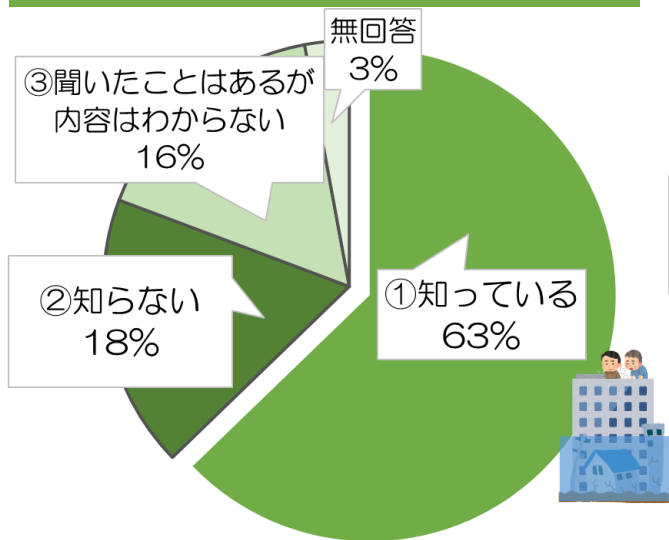
上述したとおり、潮江南地区は長期浸水の可能性が高く、救助されるまでは津波から避難した場所に一定期間滞在する必要があります。

また、前ページの避難生活に関するアンケート結果から、避難生活を送る場所として、指定避難所だけでなく、浸水しないスペースのある自宅で過ごすことを想定している方も一定数いることが分かりました。

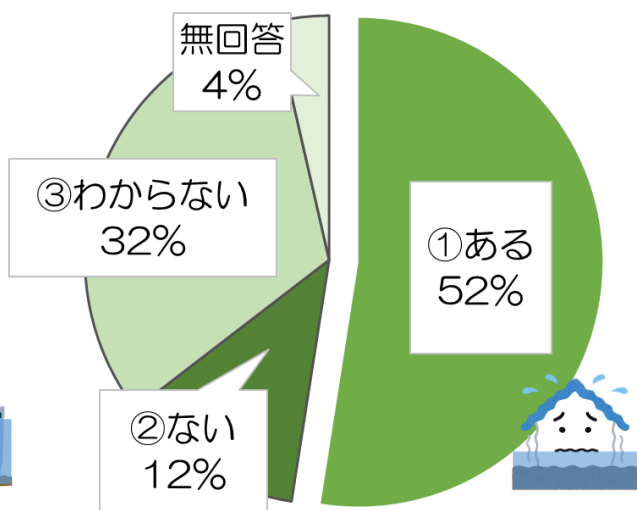
令和2年度に実施したアンケートでは、潮江南地区が長期浸水エリアであることを『知らない』『聞いたことはあるが内容は分からない』と回答した方は全体の約3割でした。また、自宅が長期浸水エリアにあるか『わからない』と回答した方も、同じく全体の約3割でした（詳細は、第8章 補足資料「潮江南地域に関するアンケート」参照）。

長期浸水について把握している方が多数ではありましたが、一定数の方が長期浸水について知らず、同様に自宅の長期浸水の可能性について分かっていないという結果でした。

潮江南地区が長期浸水エリアであることを知っていますか？



ご自宅は長期浸水エリアにありますか？



潮江南地区の住民を対象とした長期浸水に関するアンケート結果(令和2年度実施)

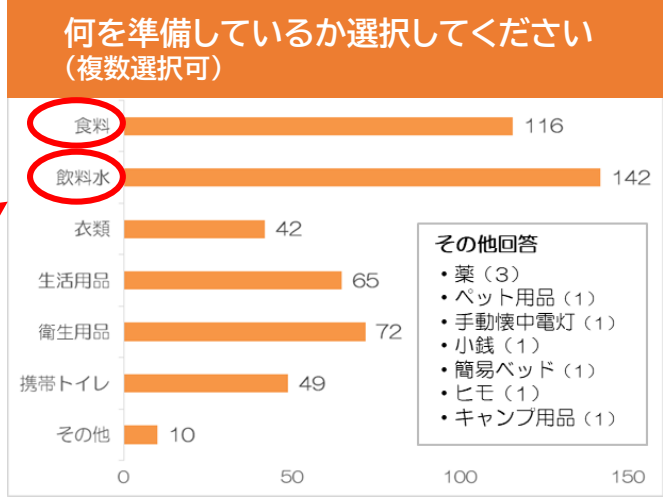
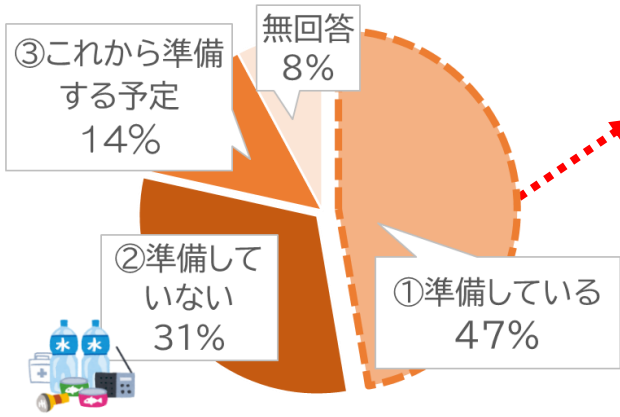
長期の避難に関連して、自宅での備蓄品についてもアンケートで調査を行いました(次ページの図を参照)。自宅での備蓄品については、『準備している』との回答が約半数を占めました(次ページ参照)

備蓄品の内容については、100名以上が『食料』や『飲料水』を備えていると回答したのに対し、『衣類』や『携帯トイレ』を備えていると回答した人は50人以下という結果が出ました。

避難生活では、衛生管理や体調の管理は課題となってくるため、予備の着替えや、水が無くても排せつが可能になる携帯トイレは重要な備蓄のひとつになってきます。

その他の備蓄品については、薬やペット用品などそれぞれの生活や家族に合わせたものから、手動懐中電灯やキャンプ用品など、電気や水道といったライフラインが停止した後の生活をイメージしたものなどが挙げられました(詳細は、第8章補足資料「潮江南地域に関するアンケート」参照)。

家庭で災害時用の備蓄品を準備していますか？



潮江南地区の住民を対象とした備蓄品に関するアンケート結果(令和2年度実施)

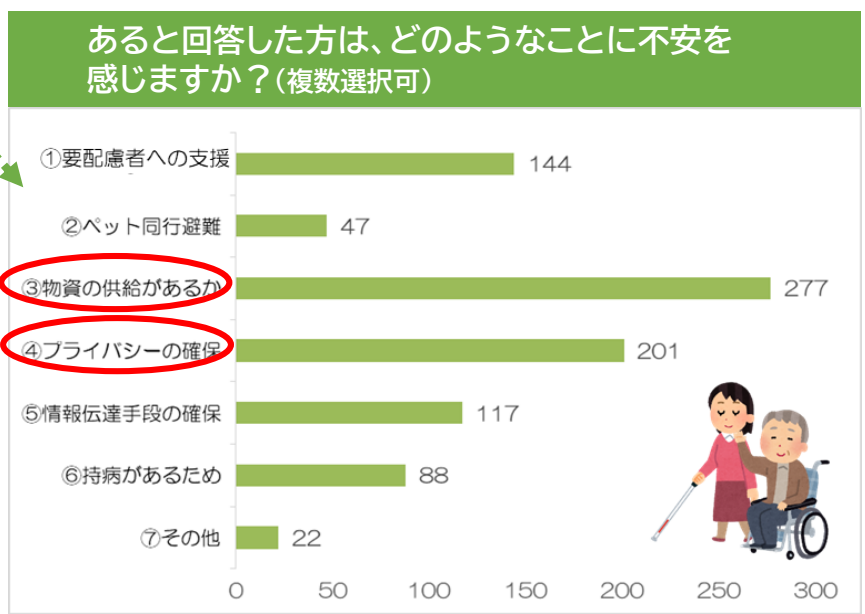
また、避難生活の中で不安なことがあるかという質問では、『不安がある』と回答をした方が全体の8割以上でした。

避難生活で不安なこととして多く挙げられたのは、『物資の供給があるか』『プライバシーの確保』『要配慮者(自分や家族を含む)への支援』でした。このうち物資供給、プライバシー確保については200以上の回答があり、多くの方が課題と感じていることがわかりました。

その他にも、『持病がある』『避難生活中的医療』『トイレ』など健康面・衛生面を心配する回答や、『子どもがいるため』『ペット同行避難』に不安があるなど、家族と一緒に避難生活を送るにあたって、迷惑をかけないか、生活できるかを心配する回答が見られました。

避難生活をするうえで不安なことはありますか？

①ある	381	85%
②ない	39	9%
無回答	26	6%
446		



- その他回答
- ・トイレ (6)
 - ・衛生面 (2)
 - ・コロナウイルス (2)
 - ・身体的なこと (1)
 - ・不慣れな場所である (1)
 - ・子どもがいる (5)
 - ・対人関係 (2)
 - ・年齢的なこと (1)
 - ・避難生活中的医療 (1)

潮江南地区の住民を対象とした避難生活の不安に関するアンケート結果(令和2年度実施)

第5節 地域の復興に向けたコミュニティ

大規模災害時の避難所は、自治体等の即時対応が困難であること、潮江南地区は長期浸水の可能性が高いことから、避難所の開設・運営については、避難してきた地域住民で行うことができるようにしておくことが重要になってきます。

地域住民での避難所運営は、避難者である住民同士での協力やお互いの理解など、地域のコミュニティが必要不可欠です。

潮江南地区における避難生活に向けた取り組みとして、本章の第1節及び第2節では、その一例として、過去に行われた避難所開設訓練の様子について紹介しました。

この他にも、潮江南地区では、避難生活でのコミュニティ強化を目標に、以下のような取り組みを行ってきました。

防災キャンプ

- ・ 実施事項 : 泊まり込みでの防災訓練 など
- ・ 実施時期 : 平成26年度、平成28年度 他
- ・ 実施主体 : 潮江南青少年育成協議会、潮江南防災連合会
- ・ 協力者 : 潮江南小学校
- ・ 6つの柱 : 子どもたちの学習、地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

1泊2日で、津波からの避難や二次避難である避難所生活などを体験する防災キャンプを実施しました。

飯ごう炊飯や避難所スペースとなる体育館において段ボールを使用して区割りをを行うなど、宿泊訓練ならではの内容、救命ボートの試乗や消火器の使用訓練など、楽しみながら学べる内容などを取り入れました。



潮江南防災フェア

- ・ 実施事項 : 物資調達訓練、児童引き渡し訓練 他
- ・ 実施時期 : 平成27年度
- ・ 実施主体 : 潮江南防災連合会
- ・ 協力者 : 高知市防災対策部地域防災推進課
- ・ 6つの柱 : 地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

潮江南小学校において、2日間にわたって津波避難から避難所の生活までを体験する防災フェアを実施しました。

津波避難訓練や避難所開設訓練だけでなく、津波避難場所での児童引き渡し訓練、水が引いた後の物資調達訓練など、普段の訓練から一つ進んだ段階の訓練を取り入れました。



土佐塾中学・高等学校避難所運営マニュアル作成・更新

- ・ 実施事項 : 避難所運営マニュアル検討会、検証訓練
- ・ 実施時期 : 平成29年度～平成30年度、令和4年度
- ・ 実施主体 : 潮江南防災連合会
- ・ 協力者 : 高知市防災対策部地域防災推進課
- ・ 6つの柱 : 地域コミュニティの強化、地域防災の取り組み

平成29年から平成30年にかけて、土佐塾中学・高等学校を避難所として開設する場合のマニュアルを3回の検討会と検証訓練を通し作成しました。検討会は学校内で行い、現地を確認しながらたたき台を作成し、検証訓練を実施することで実際の動きをイメージしながらマニュアル化を行いました。

令和4年度から、マニュアルについて、感染症対策や要配慮者の対応などを踏まえた内容へと改訂を行っています。



防災給食(潮江南小学校放課後学習など)

- ・ 実施事項 : アルファ化米の試食、災害食の調理
- ・ 実施時期 : 毎年実施
- ・ 実施主体 : 潮江南小学校、潮江南防災連合会
- ・ 協力者 : みなみ食堂(潮江地区民生委員)
- ・ 6つの柱 : 子どもたちの学習、子どもたちの生活支援、地域防災の取り組み

潮江南小学校の防災授業や放課後学習の場で、災害食調理や非常食の試食をする防災給食を実施しています。

少ない材料で作れるカレーや、ラップを敷いた食器を使って食べることで洗い物を減らすなど、避難生活をイメージした工夫で楽しみながら防災学習に取り組んでいます。



潮江南小学校で開催した防災講演会の様子(R1)



竹島公園での応急給水訓練(R2)

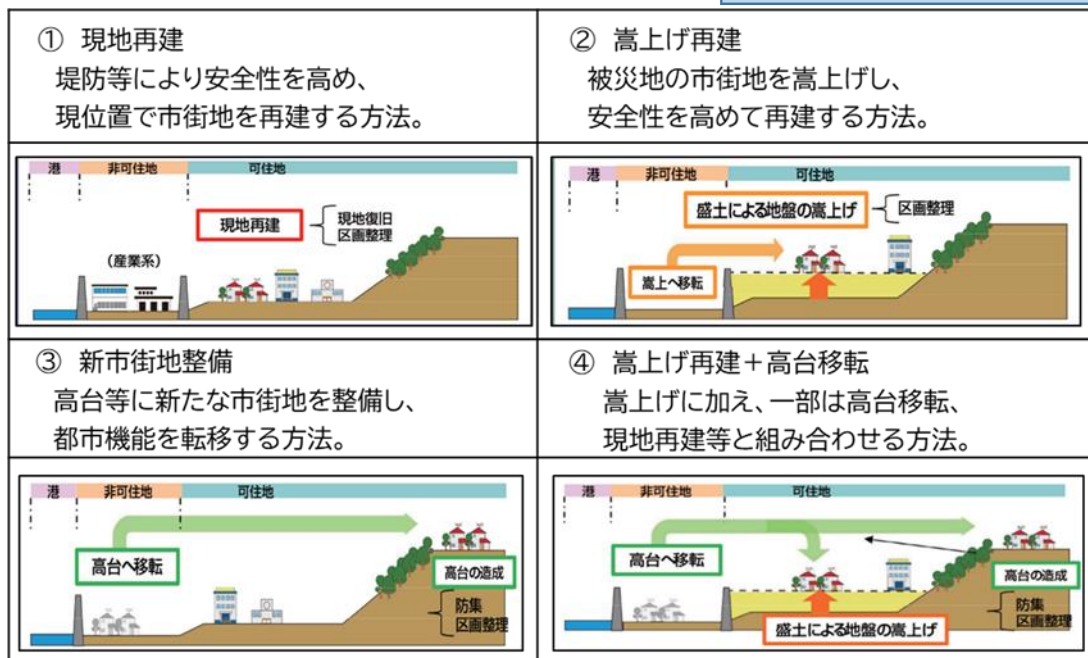
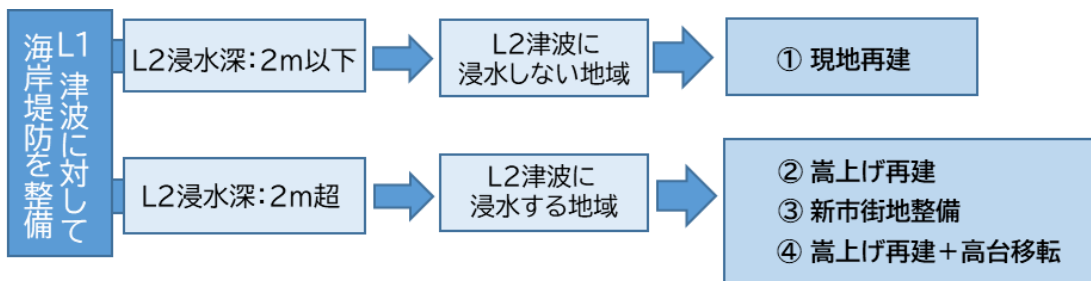
第1節 事前復興対策について

東日本大震災において被災した地区では、行政職員も多数被災した中で応急復旧対応や被災者支援等に当たったため、復興に向けた計画を早急に策定することが困難であり、復興事業の着手までに長期間を要したとされています。

地域の復興に時間を要するにつれ、住民や企業は疲弊していき、再建する意欲を失っていきます。そうすると、早期再建のためにまちを離れ、避難先でそのまま定住することにより、人口減少を招くなど、地域の活力が失われ、まちの存続が危うくなる可能性があります。

被災を乗り越え、地域に住み続けることができる「より良い復興」を実現するためには、災害の前から事前に地域の復興対策を進めておくことが重要であると考えます。

東日本大震災で被災した地域の復興に向けた市街地整備方策には、都市構造や被災状況、津波シミュレーション等による被害想定といった点から、以下の4パターンに大別して整理がされており、東日本大震災と同等以上の被害が想定される高知県においても、同様の市街地復興パターンについて検討する必要があると考えられています。



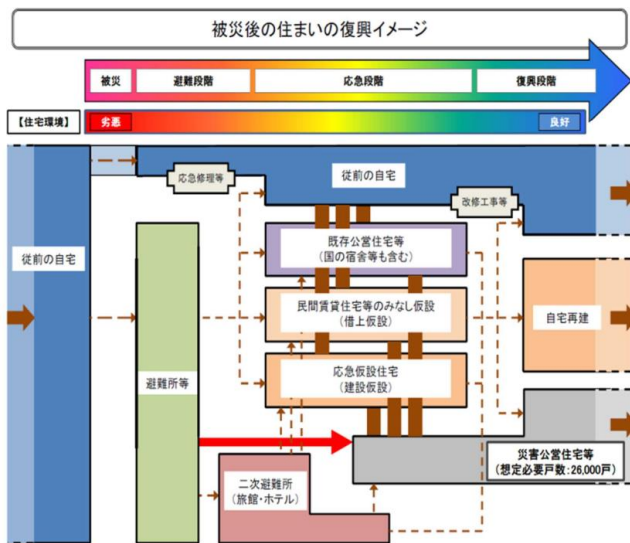
(出典:国土交通省「東日本大震災による津波被害からの市街地復興事業検証委員会とりまとめ」)

なお、潮江南地区においては、周辺の地形や経済状況などから、上記の②～④の復興パターンを実施することが難しいことが考えられますが、事前にこうした対策について地域で話し合い、共有することが大切であり、それにはコミュニティの強化が必要になります。

第2節 災害復興住宅について

南海トラフ地震などの大規模災害時において、生活の基盤である住宅を失った場合、劣悪な住宅環境となることが想定されますが、避難期・応急期・復興期の各段階に応じ適切な住まいを確保しつつ復興していくことが望ましいです。

各段階で確保すべき住まいを大別すると、避難期では危険回避や安全確保のための避難所等、応急期では当面の生活の安定や生活空間の確保のための応急仮設住宅等、復興期では自立再建や暮らしの基盤再生のための恒久的住宅になります。



被災後の住まいの復興イメージ (出典:国土交通省住宅局住宅生産課「応急仮設住宅建設必携中間とりまとめ(平成24年5月)」)

災害公営住宅

一定の要件に該当する災害(※1)によって、滅失(※2)した住宅に居住していた定額所得者に賃貸するための公営住宅。恒久的住宅に位置づけられる。

高知市では、仮設住宅を建設する用地の確保が進められており、まず、公有地として、小学校のグラウンドや公園などを建設予定地として、そして、その用地だけでは不足することが想定されることから、民有地における用地確保も進められています。

しかし、南海トラフ地震発生後、浸水が考えられる地域において用地確保を進めることは行われていないため、長期で浸水すると想定されている潮江地区では、地区内に建設用地を事前に確保されることはないと考えられます。そのため、地震により、自宅での生活が困難になった場合は他地区に建設される仮設住宅で当面の生活を送ることが考えられ、発災前までのコミュニティがバラバラになることも想定されます。

ただし、民間の賃貸住宅の空いている部屋を借り上げて、そこを仮設住宅とする『賃貸型応急住宅(みなし仮設住宅)』と呼ばれるものがあり、潮江南地区にある賃貸住宅を『賃貸型応急住宅』として対応することができれば、コミュニティをある程度維持したまま、復興に向けた取り組みを行うことができると考えられます。そのためにも、地域住民が安心して生活を送ることができるような多様な体制を事前に整備しておくことが望まれます。

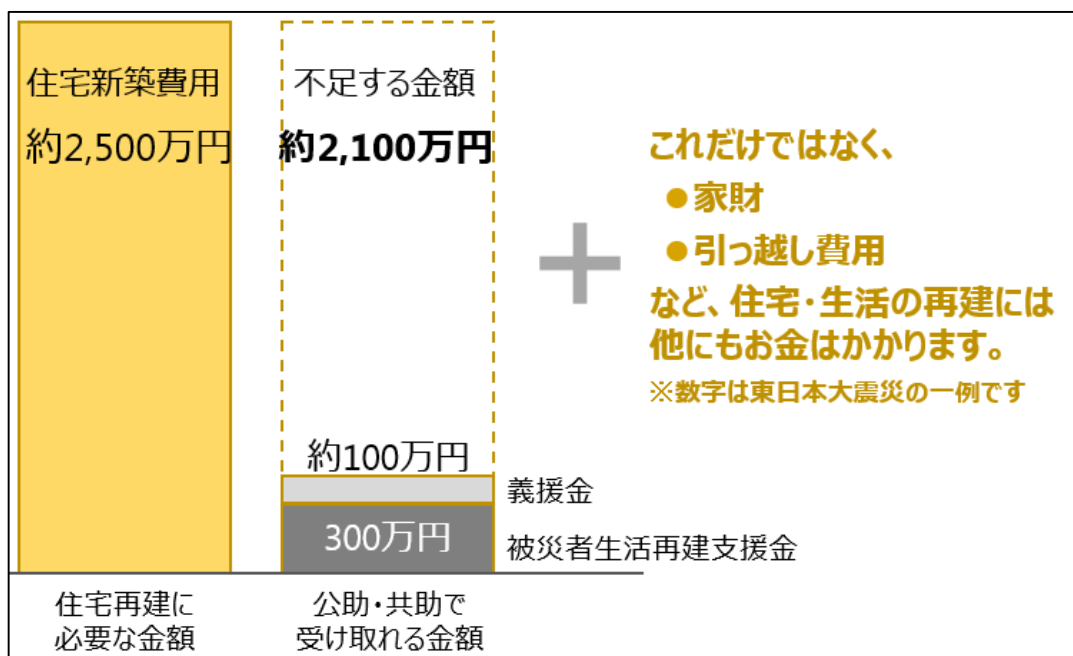
- (※1) 一般災害 被災地全域で500戸以上の住宅が消失、又は、一市町村の区域内で200戸以上若しくは全住宅の1割以上が消失
- 激甚災害 災害要件: 被災地全域で概ね4,000戸以上の住宅が滅失した災害等
地域要件: 100戸以上又は全住宅の1割以上が滅失した市町村

- (※2) 滅失とは、全壊・全流出・全焼のことをいい、「住宅の損壊、消失若しくは流失した部分の床面積がその住宅の延床面積の70%以上に達した程度のもの又は住宅の主要な構成要素の経済的被害が住宅全体に占める損害割合の50%以上に達した程度のもの。
東日本大震災においては、全壊・全流出・全焼以外に、「損傷に該当する住宅であって、通常の修繕では居住することができないなどの理由により、解体することを余儀なくされたもの」が追加されています。

第3節 戸建て住宅における復興対策

南海トラフ地震等の大規模災害が発生し、戸建て住宅が被害を受けた場合、修理や建て替えにかかる費用は大きなものとなりますが、公的な支援金や善意による義援金だけでは、住宅・生活再建に十分な金額になるとは言えません。

東日本大震災で全壊被害に遭った住宅の新築費用は、平均して約2,500万円で、それに対して公的支援として受給できるのは、善意による義援金を合わせても約400万円にとどまります。南海トラフ地震が発生した場合の全国で推定されている全壊住宅は約238.6万棟となり、東日本大震災の約20倍にのぼるとされています。



(出典：内閣府「防災情報のページ」<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/hokenkyousai/hiyou.html>)

風水害や土砂災害・地震による被害を保障する保険や共済に加入していれば、損害の程度に応じて保険金や共済金が支払われるようになりますが、加入する金額及び契約の内容によって、住宅を再建するための費用の全額が支払われないということもあるため、事前に調べておく必要があります。

なお、潮江南地区においては、旧耐震基準(1981年6月1日以前の耐震基準)で建てられた住宅も多く立地しているため、災害が起こる前に住宅の復興対策に関する検討を行っていく必要もあります。

いざという時にスムーズに住宅や生活を再建していくために、『自助』による備えとして、保険内容の再確認や保険の見直し、住宅の耐震化などを行っておきましょう。

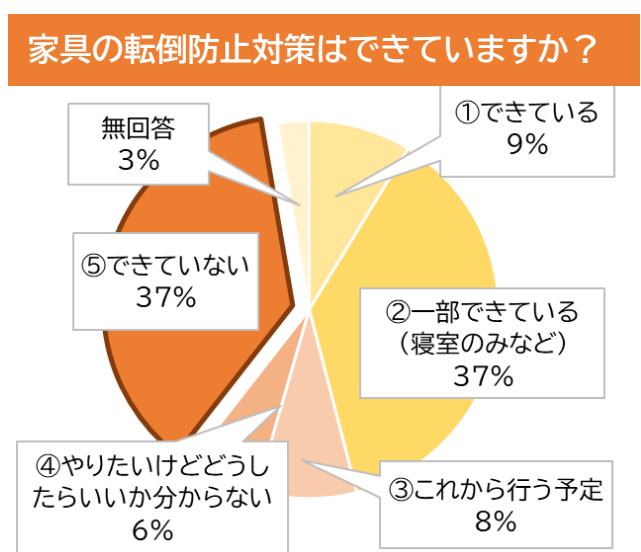
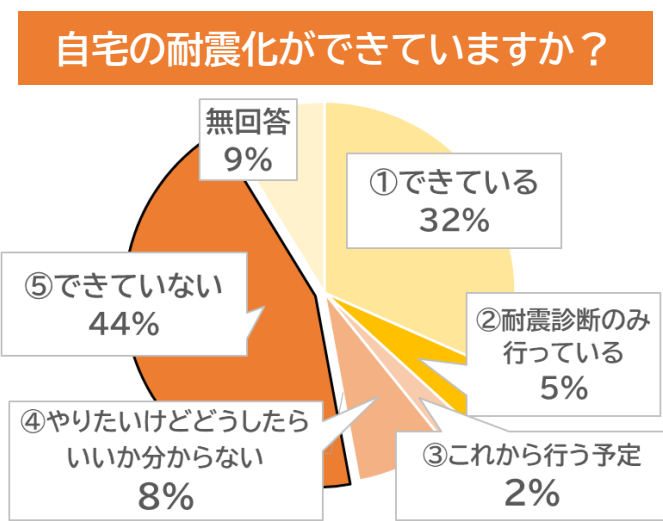
第4節 復興に向けた法的対応

■ 耐震改修について

既存建築物の耐震診断・耐震改修を促進することを目的として、平成7年10月に「建築物の耐震改修の促進に関する法律」が施行され、それ以降住宅・建築物の耐震化に係る国の補助制度が順次創設・拡充され、平成17年及び平成25年に耐震改修促進法が改正、施工されました。高知県では、平成15年度に住宅の耐震診断、17年度に住宅の耐震改修の補助を開始されています。

ただ、令和2年度に潮江南地区の住民を対象に行ったアンケート調査(詳細は、第8章「潮江南地域に関するアンケート」参照)において、自宅の耐震化はできているかに関する質問をしたところ、『できている』と回答した人は全体の32%であり、対策ができていないと考えられる回答が半数以上を占めました。

また、同じアンケート調査内において、自宅の家具の転倒防止対策を行っているかに関する質問に対して、『できていない』『やりたいけどどうしたらいいかわからない』『これから行う予定』と回答した人が半数以上を占めました。



潮江南地区の住民を対象としたアンケート調査結果(令和2年度)

■ 発災後の都市計画について

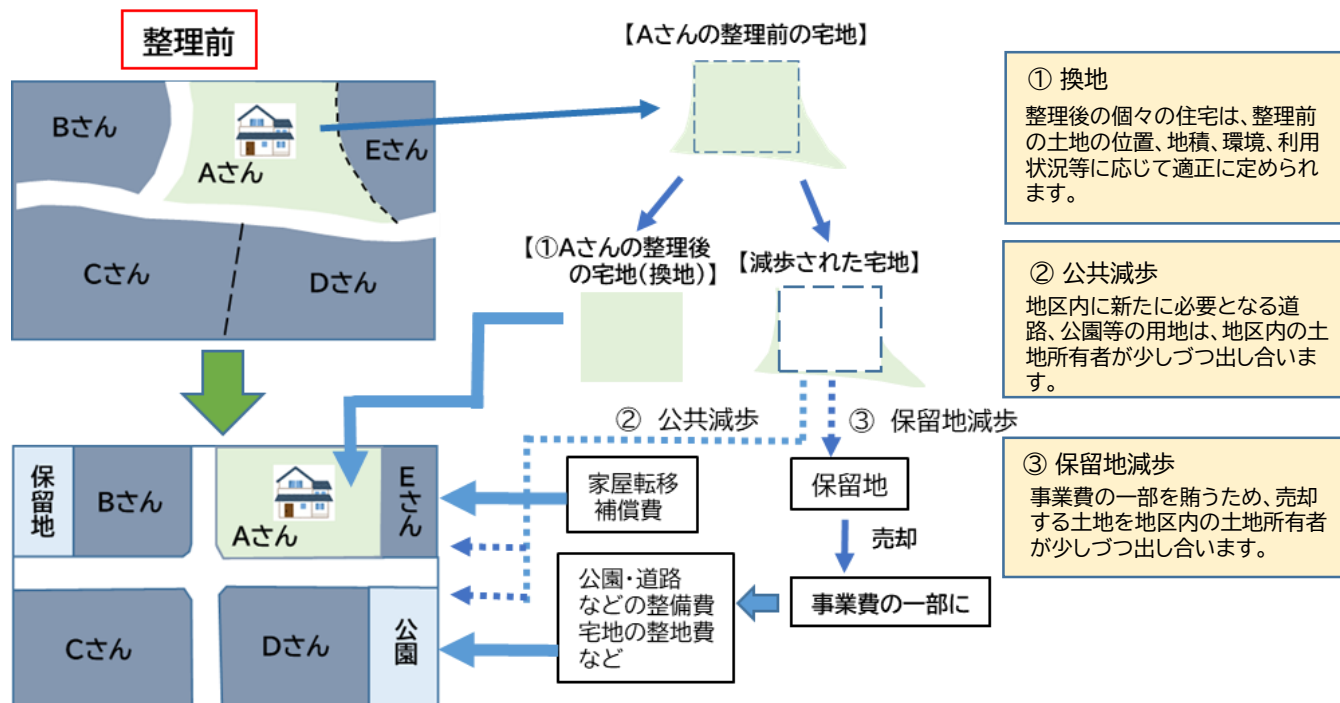
建築基準法では、都市計画区域及び準都市計画区域内の建築物の敷地は建築基準法第42条に掲げる幅員が4m以上の道路（以下、建築基準法の道路）に敷地が2m以上接しなければならないことになっています。ただ、潮江南地区内には、幅員が4mに満たない狭隘道路（きょうあいどうろ）と呼ばれる道に接している住宅や、現行の建築基準法が施行される以前に建てられた既存不適格建築物と呼ばれる住宅が多く存在します。

南海トラフ地震が発生し、こういった住宅が被害を受け全壊してしまうと、その敷地を更地にして建て替えを行うということが難しくなります。そのため、地震に備えて、事前に耐震改修や修繕を行う必要がありますが、大規模な修繕となった場合、現行法規が適用され、違反建築物に該当してしまう可能性もあります。

ただ、南海トラフ地震によって、住宅の倒壊が広範囲で発生した場合、土地区画整理事業によって復興が行われることも考えられます。

土地区画整理事業

土地区画整理事業とは、都市計画区域内の土地において、道路や公園、下水道等の公共施設を整備・改善し、土地の区画を整え、良好な住宅地の形成を図る事業であり、土地所有者等が土地の一部を出し合い、この土地を新たに作られる道路や公園等の公共用地に充てたり、その一部を売却して事業資金の一部とすることで進めていく仕組みがあります。



土地区画整理事業の仕組み(出典:「高知県都市計画2018」及び「国土交通省都市局のホームページ」)

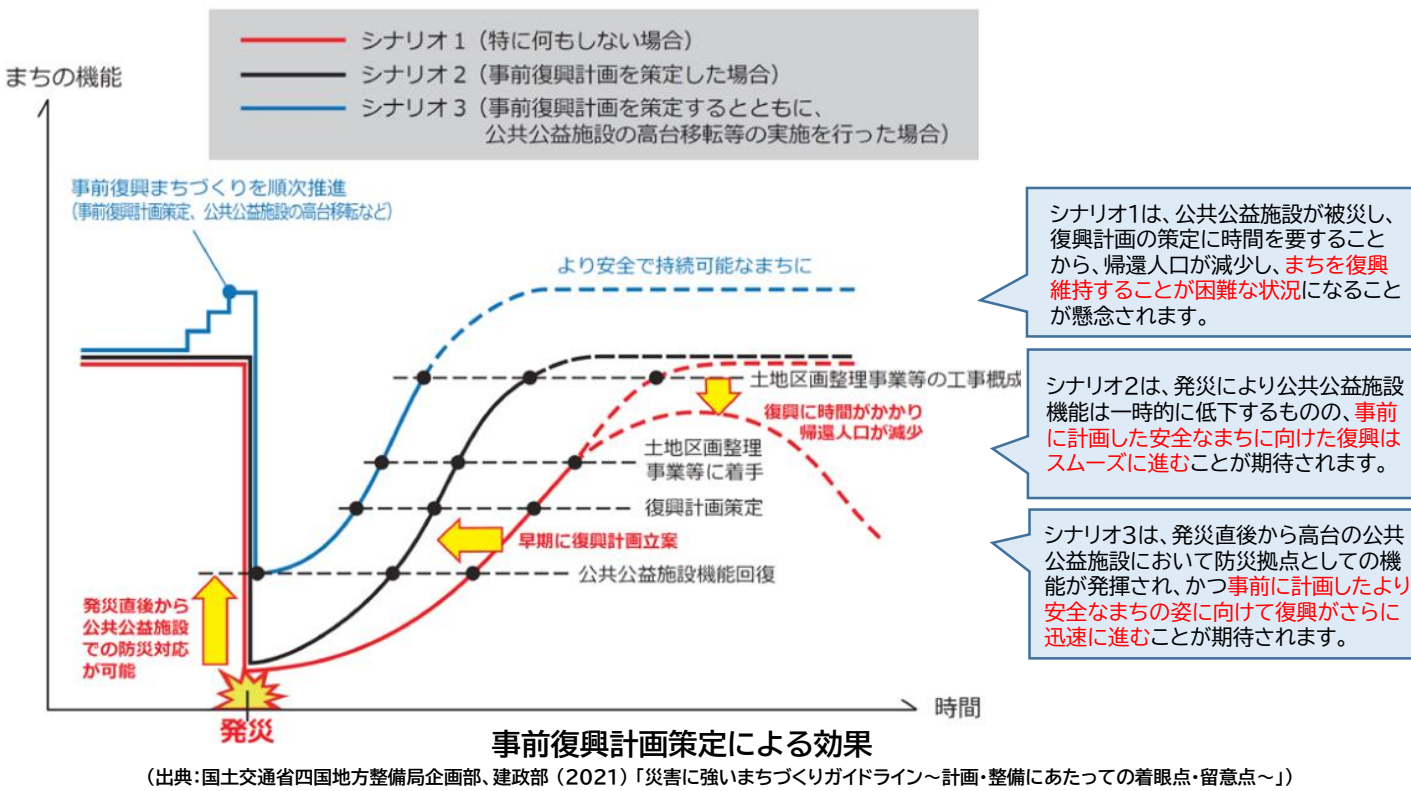
なお、土地区画整理事業を行うためには、地域の合意形成が必要となるため、地域のコミュニティが大きく関係すると考えられます。

第5節 コミュニティの大切さ

発災後、地域の復旧・復興活動を迅速に行えるかどうかは地域のコミュニティの強さが大切であると言えます。

東日本大震災では、被災後の復旧・復興が遅れることが見受けられましたが、その理由の一つとして、復興後の“まち”の姿に対する住民の合意形成に時間を要していたことが挙げられます。一方で、阪神淡路大震災では、“まち”の復興に時間差が生じたものの、常日頃からコミュニティでまちづくりを考えていた地区の復興は比較的早く進んだと言われています。

国土交通省四国地方整備局企画部、建政部が作成している『災害に強いまちづくりガイドライン～計画・整備にあたっての着眼点・留意点～』では、事前に復興計画を策定した場合とそうでない場合、また、公共公益施設の高台移転などを行い、発災直後からの公共公益施設での防災対応が可能な場合における、被災後の復興にかかる時間のシミュレーションを見てみると、特に何も対策をしていない場合と比べ、事前に地域で計画策定などの対策を講じている場合では、“まち”の機能を高め、より安全で持続可能な“まち”に復興するまでにかかる時間は短くなることが示されています。



シナリオ1は、公共公益施設が被災し、復興計画の策定に時間を要することから、帰還人口が減少し、**まちを復興維持することが困難な状況**になることが懸念されます。

シナリオ2は、発災により公共公益施設機能は一時的に低下するものの、**事前に計画した安全なまちに向けた復興はスムーズに進むことが期待**されます。

シナリオ3は、発災直後から高台の公共公益施設において防災拠点としての機能が発揮され、かつ**事前に計画したより安全なまちの姿に向けて復興がさらに迅速に進むことが期待**されます。

以上のことから、今後、潮江南地区においても、事前に「地震が発生したら・津波がきたら自分のまちはどうなるのか」「発災後、どういうまちにしていきたいか」といった、想定や計画を事前に考え、共有しておくことが大切であると考えます。

地区における公営住宅について

潮江南地区に位置する公営住宅では老朽化が進んでおり、南海トラフ地震への対策が必要であることから、建替えが検討されています。また、併せて、老朽化により新規募集を停止している他地域の公営住宅との集約・再編についての検討も行われています。

再編を進めるにあたっては、PPP/PFI手法による民間事業者の創意工夫等を活用し、効率的かつ効果的な事業実施の可能性や防災機能の付加及び地域コミュニティの創出の場として活用できるような公営住宅の再編が望まれます。



出典:国土地理院の電子地形図(タイル)に対象団地の区域を追記して掲載

第1節 避難行動の課題

令和2年度に潮江南地区の住民を対象に実施したアンケートでは、避難行動に関わる事項の調査も行いました(詳細は、第8章「潮江南地域に関するアンケート」参照)。

まず、潮江南小学校区の津波避難の指針である津波避難計画、潮江南小学校区の津波避難場所を示した津波避難マップ(平成27年3月作成)とともに、『知っている』『知っているがきちんと見たことはない』という回答の方が7割近くいました。さらに、津波から逃げるための避難先(緊急避難場所)について、7割の方が事前に『決めている』との回答でしたが、約3割の方が『決めていない』『わからない』との回答でした。

避難先を決めていると回答した方が決めている避難場所およびその避難場所を選んでいる理由は以下の表のとおりでした。

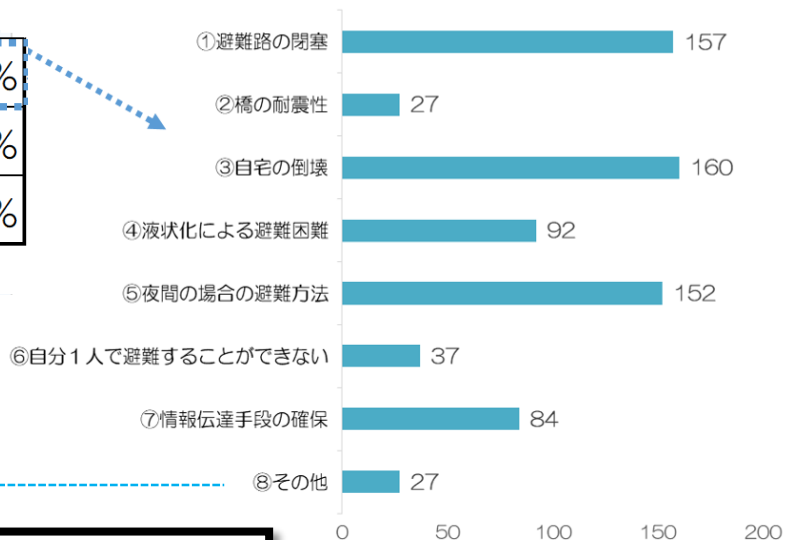
潮江南地区の住民を対象としたアンケート調査結果(令和2年度)

避難場所	決めている		その理由	どうして選んだのか	
	件数	割合		理由	件数
①潮江南小学校	172	73%	①自宅との距離が近いから	262	
②近隣の津波避難ビル	69	21%	②津波避難誘導標識を見たから	20	
③自然地形の高台	147	41%	③避難所も兼ねた緊急避難場所だから	89	
④その他	18	4%	④近くににげられそうな場所がないから	39	
			⑤防災マップで確認をしたから	19	
			⑥地域で取り決めているから	27	
			⑦その他	20	

また、自宅から緊急避難場所に避難するまでに不安に感じるかどうかの質問に対して、『ある』と回答した方が7割いました。不安に感じていることとして、『避難路の閉塞』『自宅の倒壊』『夜間の場合の避難方法』を課題として挙げている回答が多くありました。

また、その他の回答では、高齢の方や子ども、ペットなど手助けが必要な家族を心配する意見がいくつか見受けられました。

①ある	327	73%
②ない	91	21%
無回答	28	6%
	446	



その他の回答	理由	件数
その他の回答	・ペットがいる	(4)
	・子どもが小さい	(2)
	・高齢者がいる	(4)
	・手助けが必要な家族がいる	(3)
	・体力や体調に不安がある	(4)
	・避難場所が遠い	(3)
	・道路の状況	(4)
	・状況が分からないため	(2)
・避難者が多い	(1)	
	・橋を渡る最中に津波が来ないか	(1)

第2節 避難場所の課題

潮江南小学校区には、緊急避難場所として7か所の津波避難ビルの指定がされていますが、地区の中でも、津波避難ビルが集まって立地している場所と津波避難ビルが近くにない場所があります。また、潮江南小学校区の総人口が7,163人(令和4年4月1日時点)に対して、津波避難ビル全7施設の合計収容可能人数は5,926人となっていますが、津波避難ビルは、住宅が集中する地区だけでなく、工場が多く立地する海沿いの地区にも多く所在しています。下表のように、住宅地区と工場地区では、津波避難ビルにおける収容可能人数(総数)に差があるため、避難場所として、事前に検討しておく必要があります。以上のことから、津波避難ビルの指定を増やすことや、垂直避難が可能な場所の増設が望まれます。

また、地域全体で避難について考える場合は、災害時要援護者施設に指定をされている下図の幼稚園や介護事業所などにおける避難行動要支援者の避難についても検討を行う必要があります。

潮江南小学校区における指定避難場所(令和4年度)

	施設名	避難場所	収容可能人数(人)
住宅地区 (下図A)	① 潮江南小学校	・北舎4階及び屋上 ・南舎屋上(コンピュータ室を除く)	1,699
	② 高知河川国道事務所	4階大会議室	50
	③ 第2六泉寺ビル	4階廊下	45
工場地区 (下図B)	④ 新高産業社屋	・事務所棟 ・工場棟屋上	485
	⑤ マルハン高知棧橋店 (立体駐車場)	・4階駐車場 ・屋上駐車場	3,469
	⑥ 高知県トラック会館	屋上	78
	⑦ Balcony8南の丸	4階以上廊下	100



潮江南小学校区における指定避難場所位置(令和4年度)

第3節 避難行動要支援者対策の課題

避難行動要支援者(以下、要支援者)とは、配慮が必要な高齢者や障がい者、乳幼児その他の特に配慮を要する方のうち、災害発生時または災害が発生するおそれがある場合に、自ら避難することが困難であり、特に支援が必要な方のことをいいます。

2011年に発生した東日本大震災において、被災地全体で亡くなった方の中で、要支援者に関する情報が適切に提供されなかった結果、要支援者に該当する方だけではなく、消防職員や民生委員など避難支援等関係者に当たる方も多く亡くなったという報告があります。つまり、災害時に情報が不足すると、支援の必要な方だけではなく、支援者も多く犠牲になる可能性があります。

そのため、地域における要支援者を事前に把握し、支援が必要な方と支援をする側との関係性を作っておくことで、災害時の迅速な避難行動及び避難支援へとつなげていく必要があります。

高知市が行っている避難行動要支援者対策において、要支援者の同意確認を行った上で、平時から避難支援等関係者に以下のような要支援者の情報を提供する取り組みがあります。

提供情報

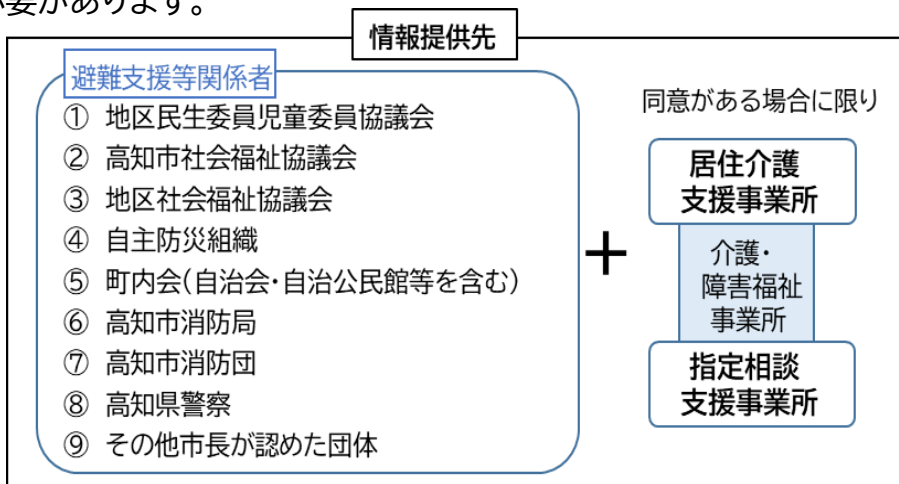
1. 要支援者の名前や住所、連絡先、掲載事由などの簡単な情報が載っている名簿
2. 名簿より詳細な情報(緊急連絡先や避難支援の方法、身体の状態、避難を考えている経路や場所など)が載っている『個別避難計画』

【避難行動要支援者名簿掲載の要件】

- ① 要介護認定3～5を受けている方
- ② 身体障害者手帳1・2級(総合等級)を所持する方
- ③ 療育手帳Aを所持する方
- ④ 精神障害者福祉手帳1級を所持する方
- ⑤ 日常生活において部分介助及び全面介助を要する在宅難病患者
- ⑥ 上記以外で特に支援の必要がある方

名簿については高知市が作成を行っていますが、『個別避難計画』は「①本人が直接作成する場合」と「②民生委員や町内会、自主防災会の方等が要支援者の自宅を訪問し、聞き取りを行いながら作成をする場合」があります。

『個別避難計画』の作成については、地域のコミュニティ強化に関係があるほか、ソフト面における住民による理解が重要であると言えます。そのため、まちづくりから進める『個別避難計画』の作成も検討する必要があります。



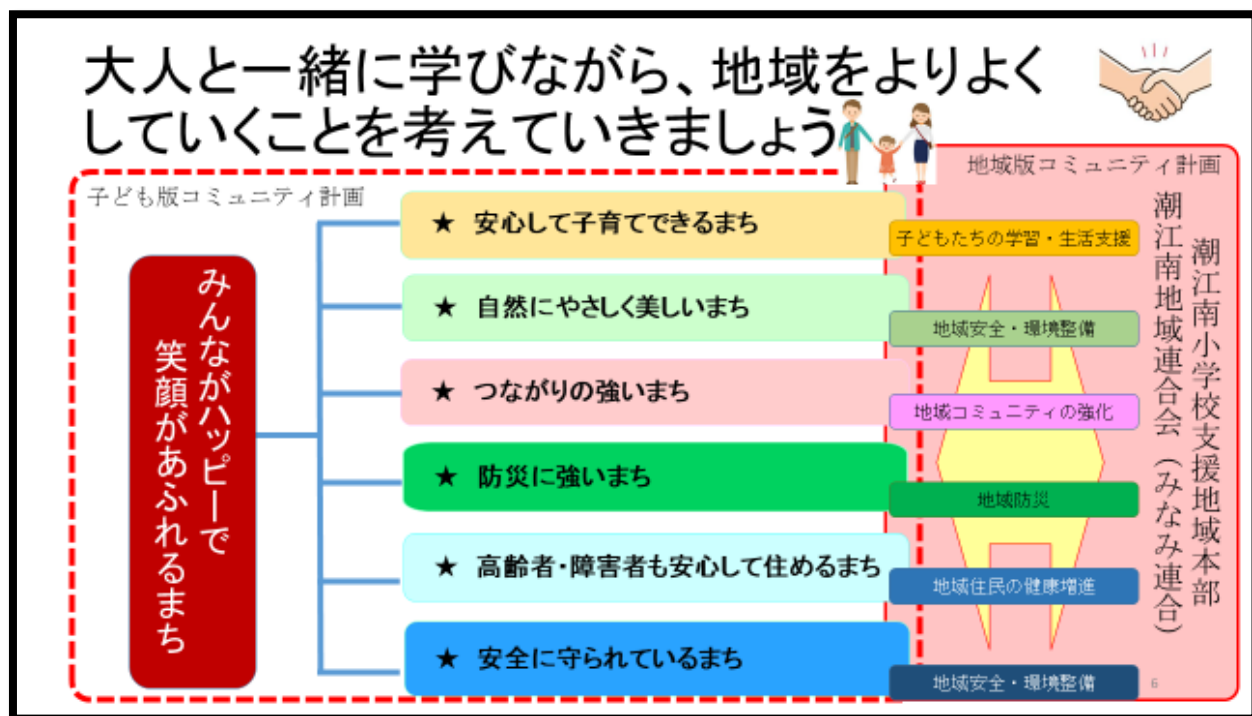
高知市における避難行動要支援者に関する情報提供先

第4節 課題の解決に向けた取り組み

潮江南地区の住民および潮江南小学校の児童の保護者などを対象として、令和2年度に「潮江南地域に関するアンケート」(第8章補足資料を参照)を実施し、地域の現状や課題について情報収集を行いました。

そして、同年そのアンケートと同じ内容のものを潮江南小学校の児童6年生にも調査を実施し、地域の現状の良さや課題を把握し、自分たちのまち“子ども版”「潮江南地域コミュニティ計画」を策定しました。

その計画の中では、『みんながハッピーで笑顔あふれるまち』をコンセプトに実現するための6つの柱(「安心して子育てできるまち」「自然にやさしく美しいまち」「つながりの強いまち」「防災に強いまち」「高齢者・障害者も安心して住めるまち」「安全に守られているまち」)を立てました。



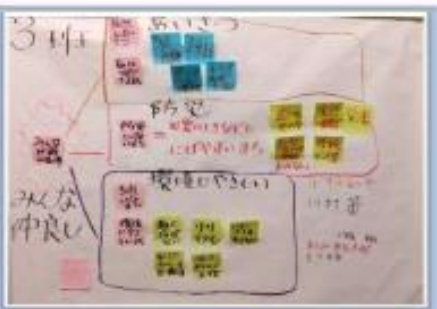
“子ども版”潮江南地域コミュニティ計画の6つの柱(令和2年度)

この計画の中では、潮江南小学校6年生の児童が潮江南地区について、防災の観点からまちの現状や課題、今後の地域の将来像について考えています。

また、より多くの地区住民の意見収集および今後の計画策定に参加する住民を増やすことを目的に、潮江南地区が取り組む6つの柱をテーマにして、自由に地域への意見出しを行うワークショップ『潮江南地域フォーラム』や『検討会』を令和2年10月から令和4年11月までに4回実施しました。

防災の観点からは、「事前の備えについて」「津波からの避難について」「避難後の生活について」「地域の防災活動」「復興に向けて」の6つのテーマから、地域の課題及びその解決に向けた具体的な計画、目標を考えました(P.46～ P.55参照)。

防災に強いまち



まちの今をこう見ているよ

- 防災学習が充実している
- 家員の固定 防災バックの準備
- 避難訓練の参加者が少ない
- 助け合い 顔見知り 避難への呼びかけ
- 高台 避難経路 避難タワー

中間報告 プレゼンテーション集約



地域フォーラムの意見

- 学校の定期的な避難訓練
- ブロック崩が危険という意識が高まっている
- 子ども目線の危険箇所チェックは重要
- 被害情報を早く知るためにドローンがほしい
- 木造住宅が多く、火事が心配 消防車が入れない避難訓練の参加者が少ない
- 地区運動会で防災のイベント tent たて・流しそうめんなど

地域の声を聞いて…

- ◆自分たちの気がつかなかったところまで、子どものことを想って行動してくれている。
- ◆自分たちで避難場所を増やしたい。
- ◆大人が安全を守るために頑張っているから、安全な場所をつくりたい。



残された地域の課題

- ◆スロープがつかれない
- ◆街灯がないから夜暗い
- ◆防災倉庫がない
- ◆潮江地域は長期浸水地域である

解決された地域の課題

- ◆地域には高い場所に避難する所が少ない。
- ◆避難しても人が入れる場所が少ない。

潮江地域の方と行動したこと

- ◆命山が完成し見学。
- ◆命山の地下に3万Lの生活用水を備蓄。
- ◆ベンチの下に簡易トイレの設備がある。

他域では、こんなことに取り組んでいるまちがあります。(資料より)



- 香川県高松市では道路の冠水情報が職員や住民がリアルタイムで見られるシステムが導入されています。

- 情報通信技術(ICT)の防災への活用を進める高松市は、高架下の冠水を監視する新システムを導入するほか、河川の水位や潮位情報をインターネットで公開しています。
- 鉄道などの交差部分を下にくぐり抜けるアンダーパスは市道に全18カ所あり、冠水すると近くの電光掲示板やランプなどで、通行禁止を知らせる仕組みになっています。

【提言】

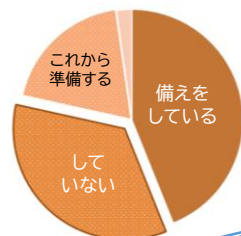
- こうしたらこうなるのでは…
津波や長期浸水時に情報を知らせるシステムが導入されれば、浸水状況が分かり、安全に避難場所まで行け、復興に向けた取り組みが早くなる。
- 未来のまちづくり
地域で人々が一緒に行動・活動をすることで、つながりができ一つでも多くの命が救える。

地域防災の取り組み【事前の備えについて】

アンケートやフォーラムでは…

アンケートでは、備蓄品や非常持ち出し袋、家の耐震化など、事前の備えをしている方は全体の4割前後でした。

フォーラムでは、こうした実態を受け、耐震化や家具の固定に関する補助や、ブロック塀などの倒壊対策を地元企業と協力して行えないか、といった提案がありました。



事前の準備をしている人は4割近くいるみたいだね



ブロック塀や耐震化が心配！何か手伝えない？



見えてきた課題

防災意識が低い

- ・ 普段揺れないので防災に関する意識が薄れている
- ・ 高齢者の防災意識が低いので、啓発するような取り組みが必要
- ・ 各々防災意識に温度差がある

備えができていない

《備蓄などの備えが不安》

- ・ 非常持ち出し袋を準備していない人が全体の54%(※)
- ・ 災害用の備蓄品準備していない人が45%(※)
- ・ 家具の転倒防止できていない人が51%(※)

《耐震化などの備えが不安》

- ・ ブロック塀が危ない
- ・ ブロック塀を壊すための補助金が少ない
- ・ 津波避難時に「自宅の倒壊が不安」との回答が160人(※)
- ・ 自宅の耐震化できていない人が52%(※)

(※)アンケート結果より

取り組むべきこと

防災意識の啓発をする

- ・ 非常持ち出し袋の袋だけでも配ったら何か意識が変わる？
- ・ 避難訓練にも実際に防災リュックを持ってきてもらう
- ・ 子供から親へ啓発する仕組み作り

「自分で備える」啓発

《備蓄などの備え啓発！》

- ・ 眼鏡や薬、介護が必要かどうか等の情報をリストアップ、それを参考に事前の備えをしてもらう
- ・ 防災食のリストアップがあれば備えを用意しやすい
- ・ 避難場所に事前に避難グッズを置いておきたい

《耐震化などの備え啓発！》

- ・ 住宅耐震・家具転倒防止対策について市の補助があるが、知らない人が多いので広報が必要
- ・ ブロック塀工事のサポートができる制度を地元業者と協力してPRしていく(実施)
- ・ ブロック塀だけでなく全体での改善提案を行う

取り組み の サポート

【地域防災推進課】

- ・ 防災講習への講師(職員)派遣
- ・ 家具転倒防止対策支援事業

【建築指導課】

- ・ ブロック塀等の安全対策
- ・ 住宅の耐震改修

具体的な計画

潮江南地域フォーラムにて出た意見



防災意識の啓発

- ・ 可能な限りはやめに潮江地区全体で防災訓練を実施する
→ 消火訓練やベッド・トイレの組み立て、炊き出し等を含んだ訓練
- ・ 地震災害に精通した教授を招いた講演会の開催や防災に関する出前講座の依頼をする
→ 【出前講座の内容】
 - ・ 防災活動の取り組みの現状
 - ・ 地域の事例や被害想定
 - ・ どう避難をすればいいのか
- ・ 自力避難が難しい方に対して、「道路まで出る」というような周知を地域で行う

「自分で備える」啓発

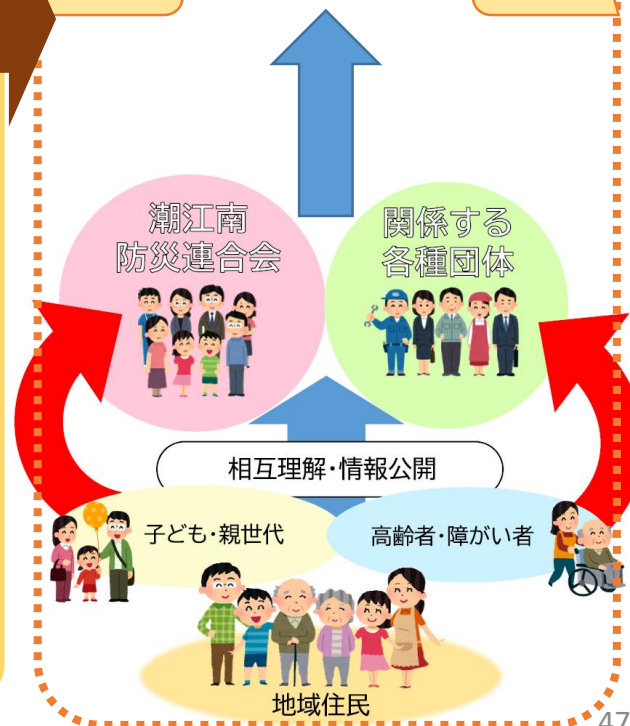
- ・ 耐震化・家具の転倒防止対策を行う
→ 耐震状況を確認するアンケート調査を実施
- 住宅の建材・構造によって、耐震化方法や家具の転倒防止対策の方法が異なるため、それについて周知をしていく

目標

検討会を通じて策定



- ・ 防災訓練を再開する。
- ・ 防災に関する講習を開催し、防災の知識を浸透する。
- ・ 耐震や家具の転倒防止対策を行う。



地域防災の取り組み【津波避難について】

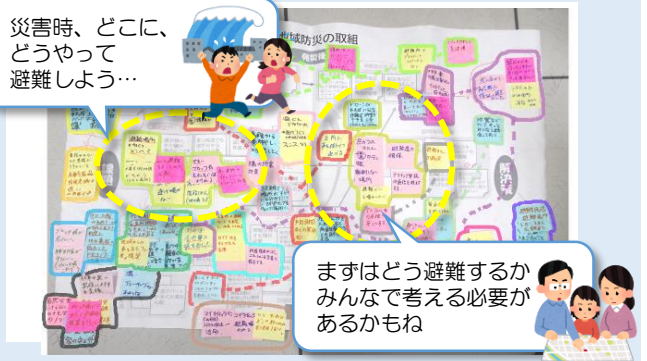
アンケートやフォーラムでは…

課題として多く挙げられたのは、『災害時、どうやって・どこに避難するか？』

また、一人での避難や家族での避難を不安に思う声も聞かれました。

こうした課題に対し、避難場所を広く周知することや、災害時にどのように避難するかを事前に考えることの提案などがありました。

災害時、どこに、
どうやって
避難しよう…



まずはどう避難するか
みんなで考える必要が
あるかもね

見えてきた課題



避難場所に不安がある

《避難場所を知らない！》

- ・ 避難場所が多くどこに避難したらいいのかわからない人がいる
- ・ より近い避難場所があるが遠い避難場所を選ぶ人も(※)

《避難場所が不安！》

- ・ 山しか逃げ場がないが、山崩れや土砂災害が心配
- ・ 避難場所が混雑し入れないかもしれないと心配という意見も(※)

避難経路に不安がある

- ・ 道が狭い、ブロック塀、急斜面の木々の問題、夜間は暗い
- ・ 津波の方向・深さが分からない
- ・ 山の避難路は広報が不十分？
- ・ 橋が壊れたらどこにも行けない。
- ・ 避難の際不安なこと「夜間避難」が第3位(※)

要配慮者の避難が困難

- ・ 「一人で避難できない」37回答
- ・ 「手助け必須な家族がいる」3回答
- ・ 「体調・体力に不安」4回答

取り組むべきこと



避難場所・経路の改善

《避難場所・経路の啓発！》

- ・ 避難経路・避難場所を日ごろから周知する
- ・ 津波の来る時間を教える
- ・ 防災マップを色んな場所に貼る
- ・ 津波避難マップに避難場所や避難方向を記載する
- ・ 子ども目線危険チェックが必要

《避難場所を増やす！》

- ・ 避難ビルの指定を増やす
- ・ 避難ビルではないが逃げさせてほしい協定を結ぶ

避難意識の改善

《『自分』の避難を考える！》

- ・ シミュレーションの実施(避難にどのくらいかかるか計測する)
- ・ いつ・誰と・どこに行くか決める
- ・ マイタイムラインや河川国土事務所のライブカメラを活用する

《『地域』の避難を考える！》

- ・ 個別訪問などの実施
⇒ 他地区での要支援者対策の取組を参考に
- ・ 近所で声をかけ合い避難する

(※)アンケート結果より

取り組み の サポート

【地域防災推進課】

- ・ 津波避難ビルの指定
- ・ 津波避難ビル/避難所用の資機材の配備
- ・ 避難行動要支援者対策
- ・ 防災講習の講師派遣

具体的な計画

潮江南地域フォーラムにて出た意見



避難場所・経路の改善

- ・ 地域の津波避難ビル指定を増やす
- ・ 町内会で津波避難ビルマップやハザードマップの回覧を行う
- ・ 避難路の危険箇所の点検を行う
- ・ 自然の高台にある避難場所には、登山者名簿のような連絡ノートを設置する

避難意識の改善

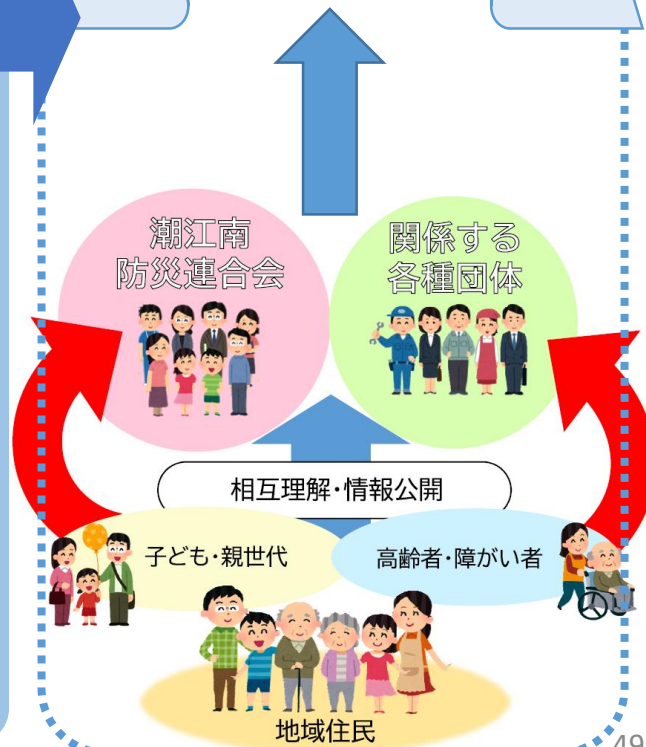
- ・ 避難場所の周知を行ったあと、各町内会や潮江南防災連合会が主体で防災訓練を実施する
- 地域で防災訓練を開催する際は、お年寄りに声掛けを行う
- ・ 人が集まる場所で防災情報を周知する
- 口伝で地域全体に広げていく
- ・ 学校で子どもへの防災教育を行うことで、親世代に発信・伝播させていく

目標

検討会を通じて策定



- ・ 避難路の危険箇所の点検
- ・ 津波避難場所の周知の継続
- ・ 老朽化した建物への対策
- ・ 避難意識の向上



地域防災の取り組み【避難後の生活】

アンケートやフォーラムでは…

避難所での生活を想定する方が大半でしたが、一方でペットや身体状況を懸念して自宅で避難生活を送ることを希望される方もいらっしゃいました。

フォーラムでは、潮江南のコミュニティ力の強さを挙げ、それにより避難所運営がスムーズにいくのでは、という意見もありました。



見えてきた課題



緊急時の連絡手段がない

- ・小学生など子供への連絡手段をどうするか
- ・被災情報伝達方法が不明(※)
- ・避難所で不安なこと 4位「情報伝達手段確保」117回答(※)

避難生活での不安

《長期浸水を知らない？》

- ・長期浸水が何かを知らない人が3割、自宅が長期浸水エリアが知らない人が3割(※)

《避難所生活が不安！》

- ・避難所で不安なこと
1位「物資の供給」277回答
2位「プライバシー確保」201回答
3位「要配慮者支援」144回答(※)
- ・『H10年9月豪雨の際、潮江南小での避難所生活は大変だった。特にトイレなど』との声も(※)

《避難所に行きたくない？》

- ・できるだけ自宅や親せき宅で過ごしたいとの声も3割ほど
⇒ペットや子供、高齢や体調面で避難所生活が不安(※)

(※)アンケート結果より

取り組むべきこと



災害時の連絡手段の確保！

《地域を生かした連絡手段》

- ・災害時の連絡カードを自宅に作成して貼る
- ・近隣住民のコミュニケーション
- ・NTT伝言ダイヤルを活用
⇒認知度が低い？広報が必要？

《備える連絡手段》

- ・アマチュア無線の通信を検討
- ・ドローンがあればいろんな目線で行動できる 各公民館に欲しい

避難生活に向けた備え

《共助の避難所生活》

- ・パッキングの活用
- ・避難所にプライベートスペースを⇒避難所のルールの検討？
- ・潮江南地区は被害は大きいが人のつながりが強いので、避難所運営はスムーズにできそう

《自助の在宅避難生活》

- ・保存食のローリングストックを（食べれるものを保存食に）
- ・防災食などの準備をしておくことが大切。⇒啓発活動が必要？

取り組み の サポート

【地域防災推進課】

- ・ 防災行政無線の配備
- ・ 避難所運営マニュアルの作成・更新
- ・ 物資配送計画の作成

【防災政策課】

- ・ 高知市津波SOSアプリ

具体的な計画

潮江南地域フォーラムにて出た意見



災害時の連絡手段の確保！

- ・ 災害伝言ダイヤルや高知県防災アプリ、高知市津波SOSアプリの周知のため、関係機関(通信会社・県・市)の講演を聞く

避難生活に向けた備え

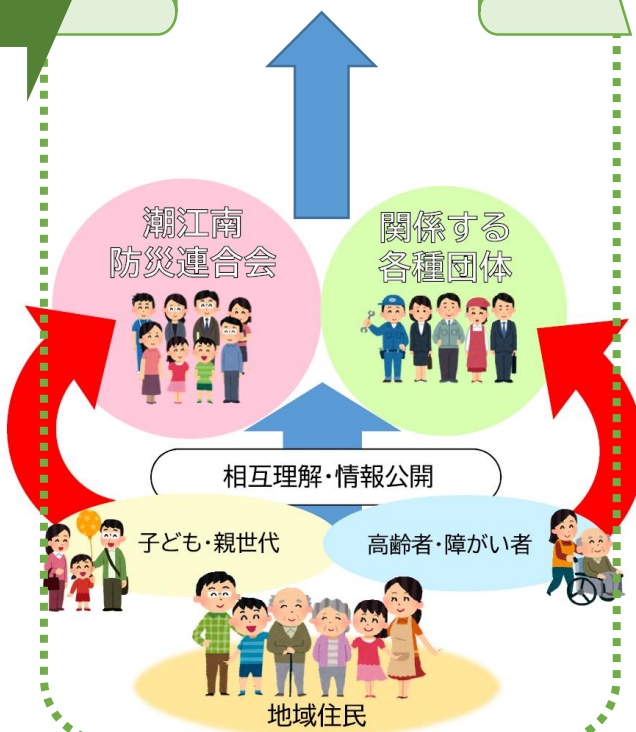
- ・ 地域全体で半年に1回程度の定期的な訓練を実施する
→ 人を集めるために、訓練だけではなく、バザーなどの楽しいイベントと組み合わせて実施する
また、夜間の訓練なども実施する
- ・ 高齢者に向けての情報発信のために、まず各家庭で話をする場を創出する
- ・ 地域住民を集めて町内会全体で防災グッズを用いたコンテストを実施し、周知を行う
- ・ 地域の簡易トイレの備蓄を増やす

目標

検討会を通じて策定



- ・ 連絡手段の構築
- ・ 簡易トイレの備蓄を増やす
- ・ 災害時のネット環境の確保

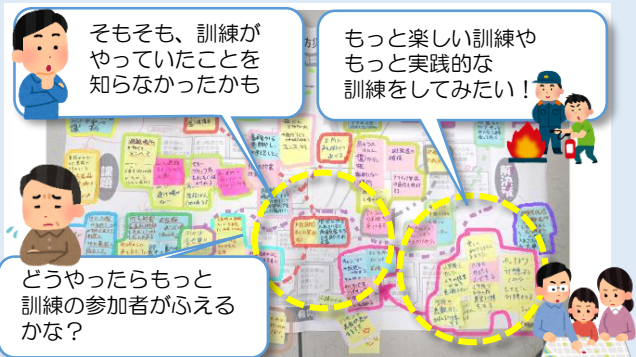


地域防災の取り組み【地域の防災活動】

アンケートやフォーラムでは…

フォーラムでは、「訓練の参加者がどうしたら増えるか？」という意見が上がりましたが、アンケートではこうした防災活動を『知らない』という意見が多数でした。

防災訓練などをイベントと一緒にやる、美味しいものや防災グッズを配る、など、楽しい訓練をしてはどうか、との意見も出ていました。



見えてきた課題

防災情報を知らない

《被害想定を知らない》

- ・ 地域の被害やどこに行くべきか、生活にあった情報を知りたい
- ・ 各々の防災意識に温度差が ⇒防災会で意思統一

《防災活動を知らない》

- ・ 平日は仕事で情報が入りづらい 休日に情報が目に入りやすくなればよいと思う
- ・ 防災訓練のチラシが来たことがないかも？
- ・ 「防災連合会を知らない」49% 地域活動に参加しない理由は「知らない」が多い(※)

訓練の参加者が少ない

- ・ 訓練に人が来ない
- ・ どうやったら若者が参加する？

よりコミュニティを強く

- ・ 災害時に助け合えるコミュニティが必要、高齢で耳が遠く地域行事に参加ができない… …等コミュニティの意見多数

取り組むべきこと

防災情報の広報の強化！

- ・ 子供から親に危機意識をもって防災啓発を行う
- ・ 防災情報を交換をする場が必要

より良い訓練の実施！

《楽しい訓練！》

- ・ 美味しいもの(炊き出し訓練)、使えるグッズを配る 参加してお土産があると嬉しい！
- ・ キャンプ⇒防災に(テントなど)
- ・ イベントに参加して一緒に作業をすることがコミュニティに

《子供を巻き込む訓練！》

- ・ 学校を中心に訓練の実施 ⇒潮江南小学校で開設訓練、4年生の防災授業の活用、学校の防災参観日に訓練…等
- ・ 子供向けのイベントの実施

《実用性のある訓練！》

- ・ 実践的な『急にやる』避難訓練をしたい
- ・ 町内会で月一訓練をしては？
- ・ 熱中症が心配なので9月1日は避けてほしい

取り組み の サポート

【地域防災推進課】

- ・ 防災講習の講師派遣
- ・ 「あかるいまち」、Twitter、ホームページによる広報

具体的な計画

潮江南地域フォーラムにて出た意見



防災情報の広報の強化！

- ・ 防災情報の周知をするために、まず町内や地域のコミュニティのつながりを強める活動を行う
- 普段の挨拶運動から
集合住宅は入れ替わりが激しいため、短期間でコミュニケーションをとれるように、イベントに食べ物やプレゼントを付加するなど楽しみをプラスする
- ・ 訓練やイベントの情報共有の体制を作る
- 施設主導ではなく地域主導で情報を周知
- ・ 数年以内に町内会が情報掲示板を増設する

より良い訓練の実施！

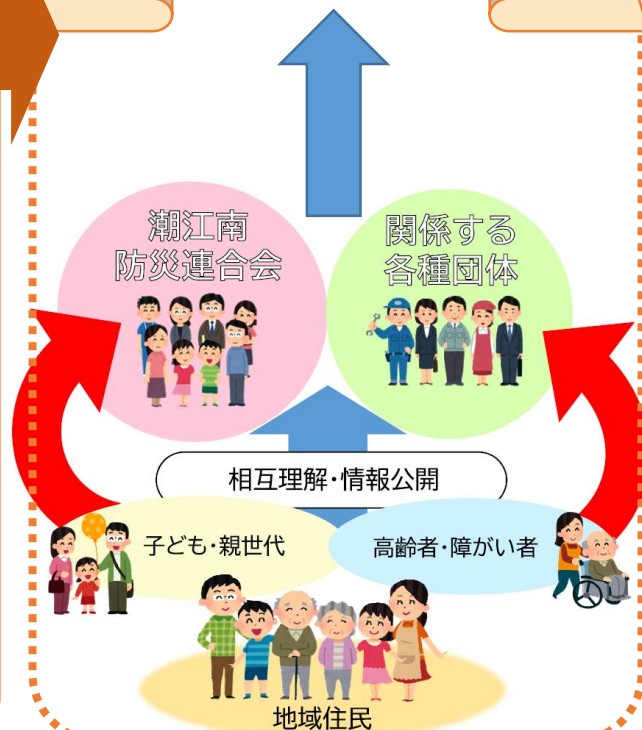
- ・ 若い世代を呼び込むような工夫をする
- 町内会や潮江防災連合会が主体で お肉いっぱいのカレーなどの炊き出し訓練、BBQや懇親会を開催する
- ・ 選挙の投票に訓練を合わせる
- (学校などで) 投票の終わった人は、屋上への避難訓練をしてもらう
- ・ オンラインでも参加できるような ハイブリッドな訓練を実施する

目標

検討会を通じて策定



- ・ 防災意識・コミュニティ力を強める
- ・ 若い世代（子育て世代）に防災活動へ来てもらう
- ・ 小学校と防災学習の連携を継続
- ・ 情報掲示板の増設
- ・ 市民と行政のつながりを強める
- ・ 訓練やイベントの情報共有の体制を確立する



地域防災の取り組み【復興に向けて】

アンケートやフォーラムでは…

アンケートやフォーラムでは、災害時の復興に関するアイデアや意見等はあまり出ませんでした。潮江南小学校の6年生が「潮江南地域がこんなふうになってほしい」との意見やキャッチフレーズを検討しました。

これは、災害のあとも続いていくことが望ましいことであると思い、まとめています。



潮江南地域がこんなふうになってほしい



潮江南小学校6年生の『子ども版コミュニティ計画』

令和2年度の潮江南小学校6年生がワークショップで考えたキャッチコピー

『みんながハッピーで笑顔があふれるまち』

- ⇒ ・ 安心して子育てできるまち
- ・ 自然にやさしく美しいまち
- ・ つながりの強いまち
- ・ 防災に強いまち
- ・ 高齢者・障害者も安心して住めるまち
- ・ 安全に守られているまち



『みんながハッピーで笑顔があふれるまち』が
災害が起こった後も続いていくために

人々の
つながりの復興

町内会の
復興

街の復興

どんなことができるか
どんなことがあればよいか



取り組み の サポート

【地域防災推進課】

- ・ 災害発生後の情報通信の停止によって、災害情報の伝達に支障をきたすことがないように、情報通信機能の確保を目的とした防災行政無線の整備

続けていくためのアイデア
潮江南地域フォーラムにて出た意見

『みんながハッピーで
笑顔があふれるまち』へ

災害の規模や被害状況などは
起こってみないと分からない…

そのため、復興に向けた対策を
事前にイメージすることは難しく、
手を付けにくいものですが…

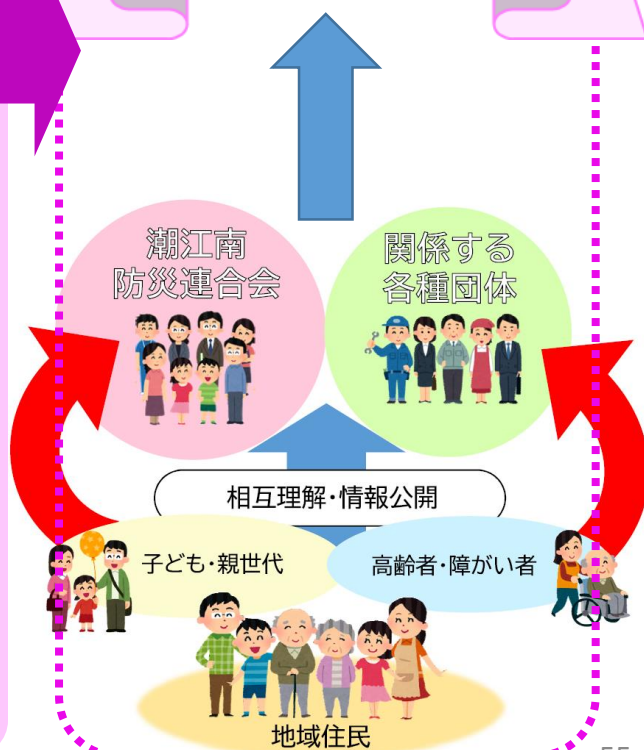
- ・ 日頃から、町内・地域のコミュニティをつくる
- ・ 町内会や地域全体における組織図を作成する
→ 各組織の役割分担を事前に決めておく
- ・ イベントや訓練等の活動を継続化する
- ・ 子どもから大人までの地元愛を高める

目標

検討会を通じて策定



災害後に地元に残る人を
増やし、復興へつなげる



潮江南地区では、令和2年4月、地域の現状や課題について情報収集するため、無作為に抽出した潮江南地区の住民1300人および潮江南小学校にもご協力いただき児童の保護者の方にもアンケートを配布し、446枚を回収しました。アンケート結果の詳細は、第8章「潮江南地域に関するアンケート」を参照してください。

次に、より多くの地区住民の意見収集および今後の計画策定に参加する住民を増やすことを目的に、潮江南地区が取り組む6つの柱をテーマにして、自由に地域への意見出しを行うワークショップ『潮江南地域フォーラム』や『検討会』を令和2年10月から令和4年11月にかけて計4回実施し、令和5年1月の『最終検討会』にて、計画に関する最終検討を行いました。

なお、フォーラムや検討会におけるワークショップは、防災だけではなく、地域コミュニティに関する内容も含んでいました。地域コミュニティに関する検討結果については、潮江南地域コミュニティ計画をご参照ください。

【第1回潮江南地域フォーラム】

- ・ 日時：令和2年10月25日(日)
- ・ 場所：潮江南小学校体育館
- ・ 対象：子育て世代を中心とした潮江南地区に住む住民
- ・ 目的：地区の防災連合や地域連合(以下、みなみ連合)を広報するとともに、地域コミュニティ計画および地区防災計画の策定や地域活動に関わってくれる地域住民を増やす。また、みなみ連合で活動を担うメンバーのスキルアップに繋げるとともに運営や活動へのアイデアをもらう機会とする。



当日の様子



避難経路 ここが危ない、ここが不安…

- ・他地区へ行くルートが橋しかない。これが壊れると危ない…
- ・大人の高さでは気づかない、子どもの目線での危ない箇所チェックが必要
- ・真っ暗になって道が分かるような工夫が必要
- ・道が狭く、すぐ横が溝のところも
- フェンスの設置・道を広げてほしい

避難経路・避難場所を知ってほしい!

- ・山への避難路があるけど、広報は十分か?
- ・避難道であることを皆に理解してもらおう。
- ・津波避難場所の確認・知っておこう
- ・防災マップ いろんなところに貼ろう!

避難場所を増やしていきたい!

- ・メディカルビルやイースを津波避難ビルに!
- ・津波避難ビル指定を増やし、選択肢を増やす

事前の備えの必要性

- ・防災食などの準備をしておくことが大切
- ・家の中に極力物を置かない
- ・家具の固定をする

様々なハザードへの心配ごと

- 津波** ・長期浸水の不安(水が引くのはいつ?)
- ・津波の方向・深さが分からない
- 火災** ・筆山でよく火災が起きている
- ・木造アパートが多く火事が心配
- 大雨** ・大雨であふれる側溝をなおしてほしい

避難場所をより良いものに

- ・避難路の上にも倉庫があればなあ…
- ・老人は防災品をもって避難ができないので事前に避難場所に置かせてほしい。
- ・ヘリがとまれるよう命山を大きくしてほしい

避難所や避難生活への思い

- ・避難所ではなくできるだけ家にいたい
- ・潮江南地区は被害は大きいが入りのつながりが強いので避難所運営はスムーズにできそう
- ・避難所指定のための建物改善費用が必要

防災訓練をみんなですべてやろう!

- ・防災訓練のチラシが来たことないかも?
- ・実践的な『急にやる』避難訓練をしたい
- ・楽しみながら防災訓練をする
- ・参加してお土産があると嬉しい!
- ・熱中症が心配なので9月1日は避けてほしい
- ・テントの立て方・流しそうめんのイベント
- ・防災倉庫はあるけど、皆使い方知ってる?
- ・町内会で月一訓練

災害時の連絡手段・通信手段の必要性

- ・連絡手段を考える → 火起こし等?
- ・各公民館・拠点にドローンが欲しい
- ・いざという時に備えて放送が大事

コミュニティ強化が防災につながる!

- ・高見の団結力はすごい!
- ・夏祭り等のイベントに参加して一緒に作業をすることがコミュニティにつながる
- ・情報交換をする場が必要
- ・町内会ベースに近所づきあいを盛んにする
- 災害時に生きる

いろんな思いを聞くことができました!



防災部分の意見まとめ

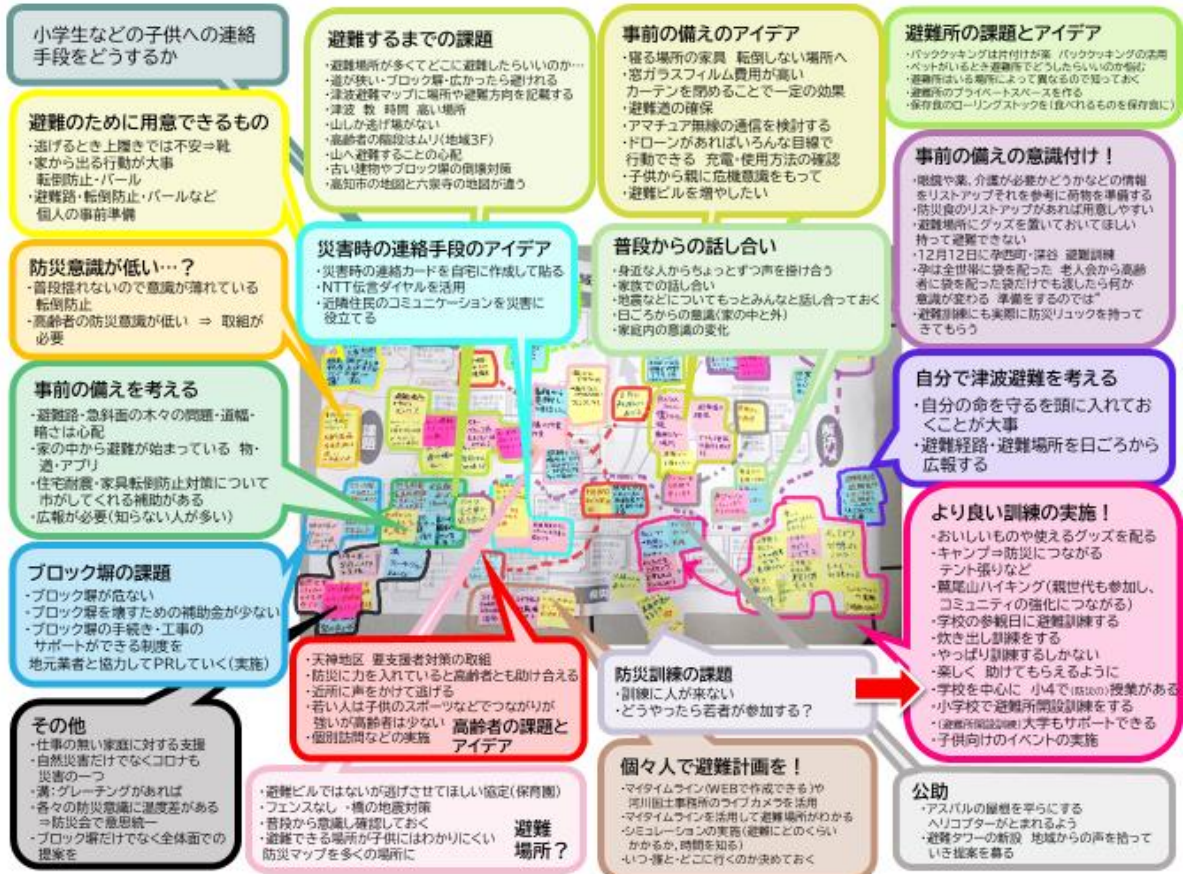
56

【第2回潮江南地域フォーラム】

- ・ 日時：令和3年10月24日(日)
- ・ 場所：潮江南小学校家庭科室
- ・ 対象：潮江南地区に住む住民
- ・ 目的：令和2年度の取り組みで出た意見を踏まえて、改めて地域の課題や魅力、将来像などを意見交換してもらい、またその課題等に対して、解決策や活動の検討を行い、計画策定に向けた検討材料を作るもの。



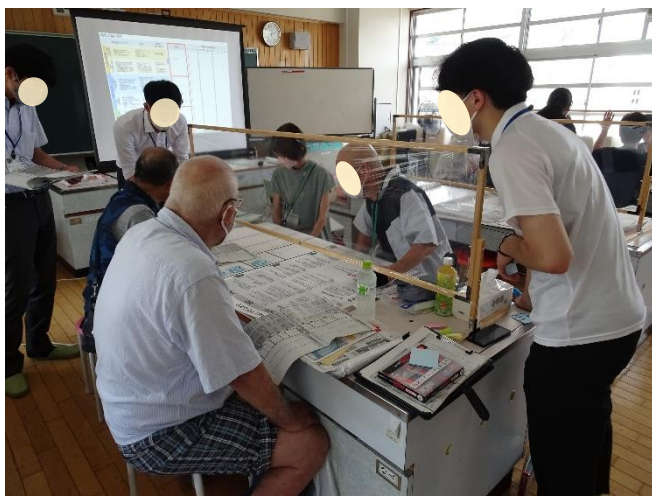
当日の作業の様子



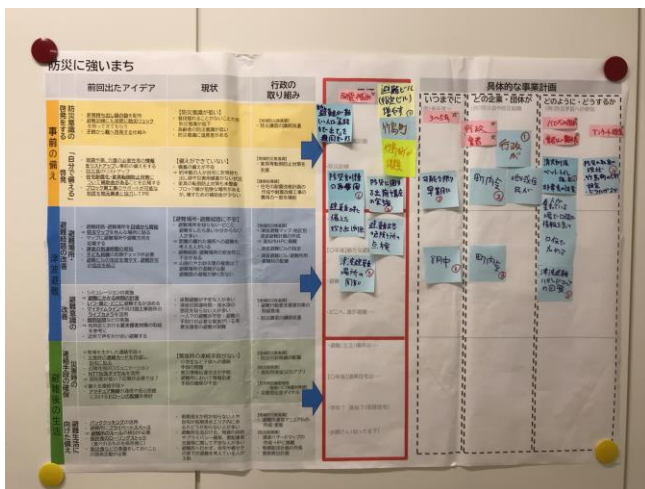
防災部分の意見まとめ

【第3回潮江南地域フォーラム】

- ・日時：令和4年8月7日(日)
- ・場所：潮江南小学校家庭科室
- ・対象：潮江南地区に住む住民
- ・目的：第1回・第2回みなみフォーラムで検討した地域の現状やアイデアを踏まえ、将来の地域がどうなってほしいか目標を立てたうえで、その目標に向けて、『いつ・だれが(どの団体・企業が)・どのようにするか』などの具体的な事業計画を提案するもの。



当日の作業の様子



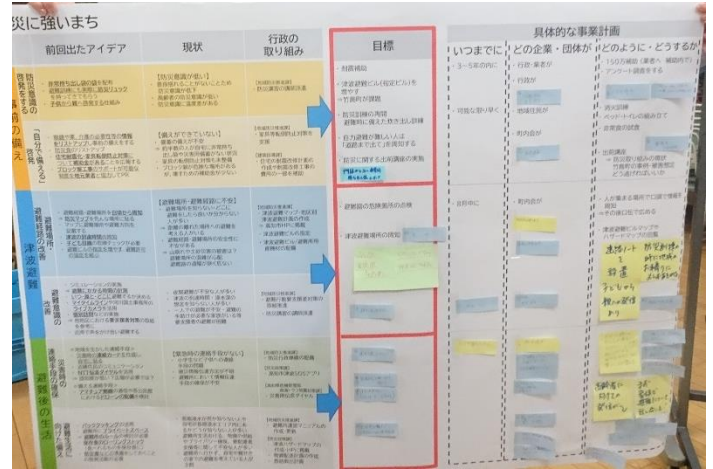
作成した模造紙（防災分）

【検討会】

- ・ 日時：令和4年11月29日(火)
- ・ 場所：潮江南小学校家庭科室
- ・ 対象：地域で活動をされている団体の役員等
- ・ 目的：第3回フォーラムで出された意見を踏まえて、具体的事業計画案の検討を再度行うことで、計画を実現可能なものへと近づけるもの。



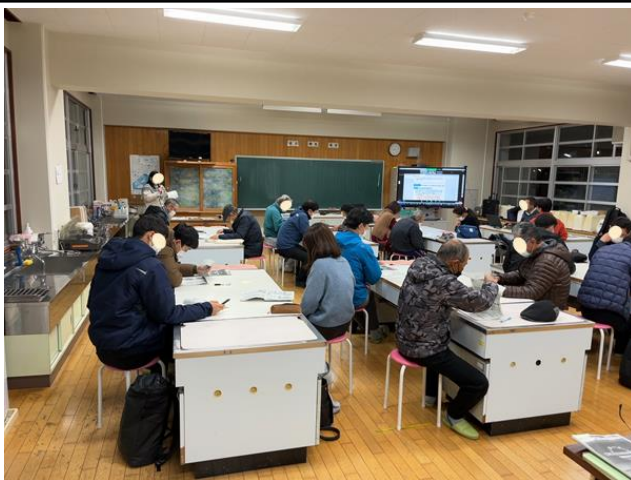
当日の作業の様子



作成した模造紙(防災分)

【最終検討会】

- ・ 日時：令和5年1月17日(火)
- ・ 場所：潮江南小学校家庭科室
- ・ 対象：地域で活動をされている団体の役員等
- ・ 目的：これまでのアンケート調査やフォーラムの検討結果を踏まえ、作成した本計画(潮江南地区防災計画)の冊子の確認を行うもの。



当日の様子

アンケート結果やワークショップを通じて、潮江南地区における防災面でどんな課題があるのか、その課題解決のためには何を取り組むべきか、取り組むにあたって誰がどのようにしていくのか、といった具体的な計画の内容について検討を行いました。

第1節 想定される地震と津波の被害

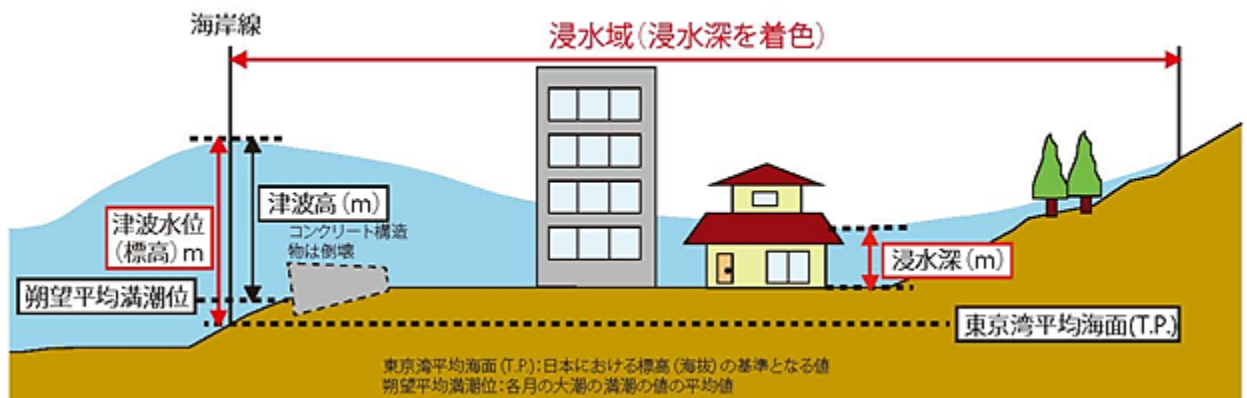
本章では、高知市が作成している『潮江南小学校区津波避難計画書』をもとに、南海トラフ地震が発生した場合における高知市全体及び潮江南小学校区の被害想定について紹介します。

■ 高知市全体の被害想定

高知県が平成24年12月に発表した「南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」の結果概要は以下のとおりです。

南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測の概要

想定地震	南海トラフの巨大地震(内閣府中央防災会議モデル:平成24年8月)
地震規模	マグニチュード9.1(津波断層モデル)
予想震度	震度6弱～7(高知市)
津波予測における潮位	朔望平均満潮位:T.P.+0.93m
津波予測における構造物の取り扱い	<p>【堤防】 土で築造された堤防は、地震前の高さの25%に沈下し、津波が越流し始めた時点で「堤防なし」とする。 コンクリート構造物は、地震により倒壊して、はじめから「堤防なし」とする。</p> <p>【防波堤】 地震により倒壊するとし、はじめから「防波堤なし」とする。</p> <p>【水門など】 耐震化され、自動降下対策済み、または常時閉鎖の施設は水門が閉まっているものとする。これ以外の水門などは開いているものとする。</p>

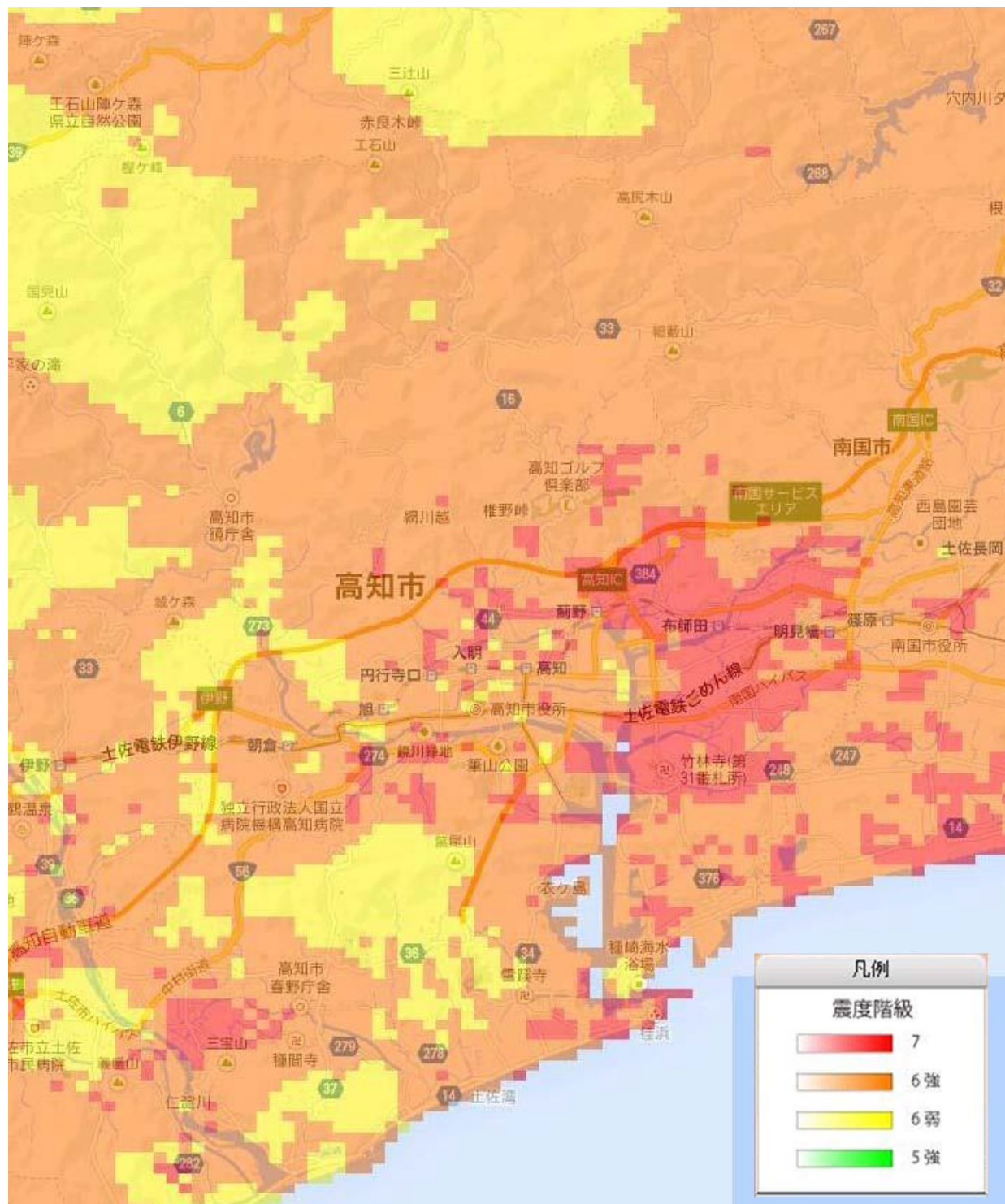


津波高・浸水深のイメージ

南海トラフ地震が発生すると「長く強い揺れ」と「早く高い津波」が起こると予測されています。南海トラフ地震から命を守るためには、「揺れから命を守る」と「津波から命を守る」ことが不可欠です。

【地震】

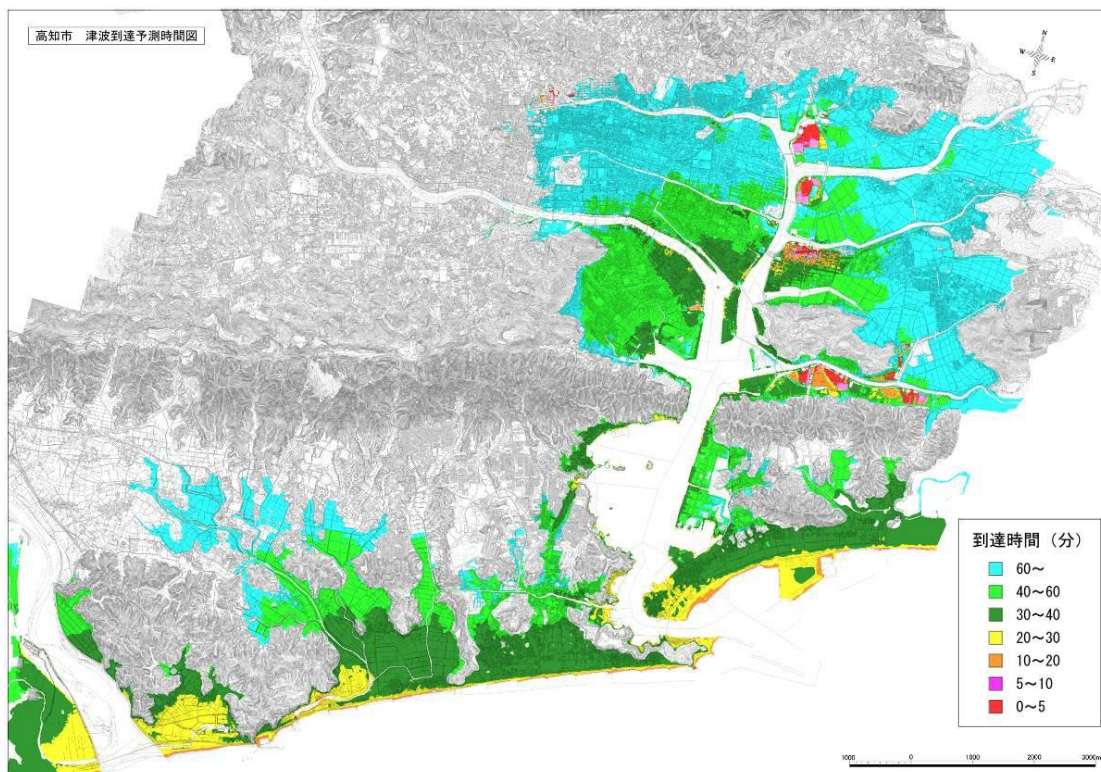
高知県が公表した「高知県における震度分布図」によると、高知市における想定震度は、震度6弱～7となることが予測されています。



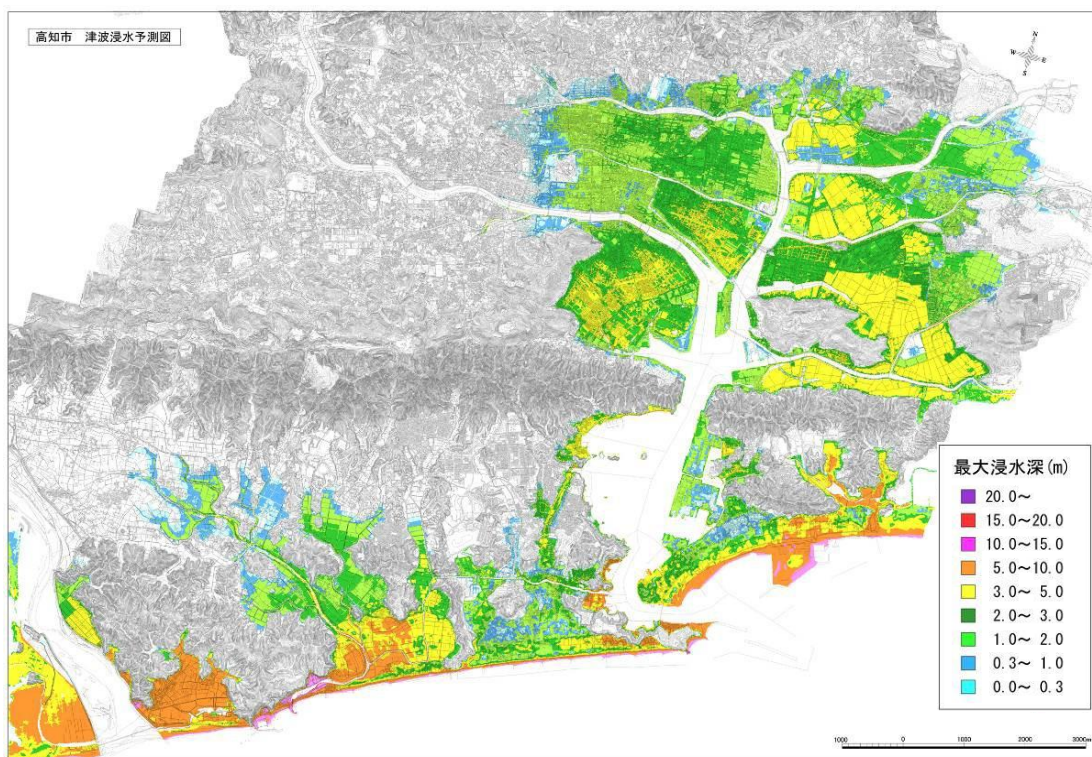
高知市の震度分布図(出典:高知県ホームページ)

【津波】

高知県が公表した「南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測」によると、高知市における津波浸水予測時間は、沿岸部で最短10分～20分、遅いところで60分以上となることが予測されています。また、津波浸水深は、深いところで10.0～15.0mとなることが予測されています。



高知市の津波浸水予測時間図

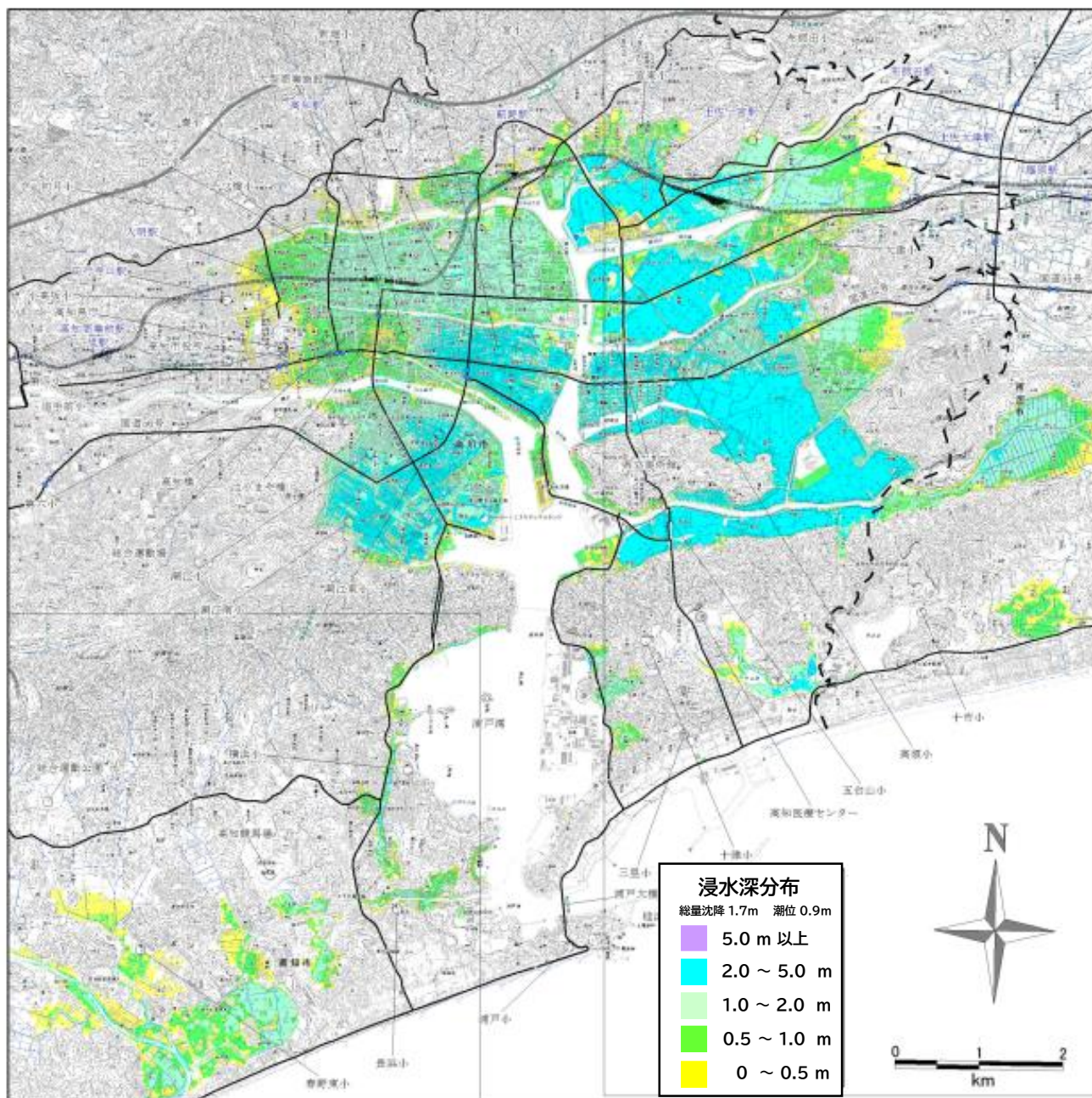


高知市の津波浸水予測図

【長期浸水】

地震が発生すると地盤の変動により、標高の低い土地が海面より低くなり長期に渡って浸水するおそれがあります。これが「長期浸水」です。

高知市では、潮江南地区を含む広い範囲で、2～5mの長期浸水が起こると想定されています。



高知市長期浸水予測図(出典:南海トラフ地震長期浸水予測図)

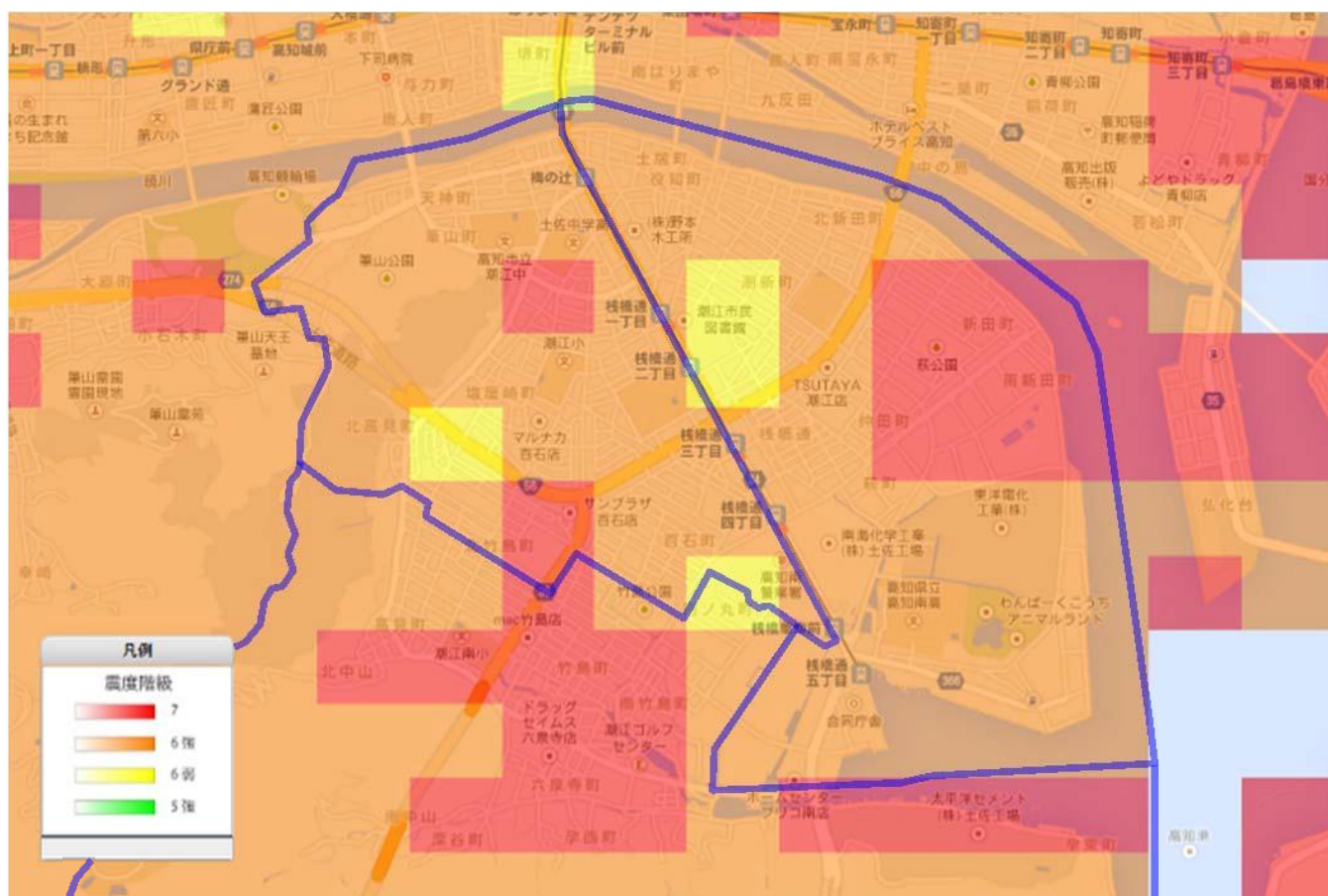
■ 潮江南小学校区の被害想定

高知県が平成24年12月に公表した『南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測』とそれに基づく被害想定によれば、潮江南小学校区では、以下のような想定がなされています。

【地震】

潮江南小学校区の想定震度は最大震度7であり、揺れによる建物などの倒壊、屋内落下物による人的被害や、火災の発生が想定されています。

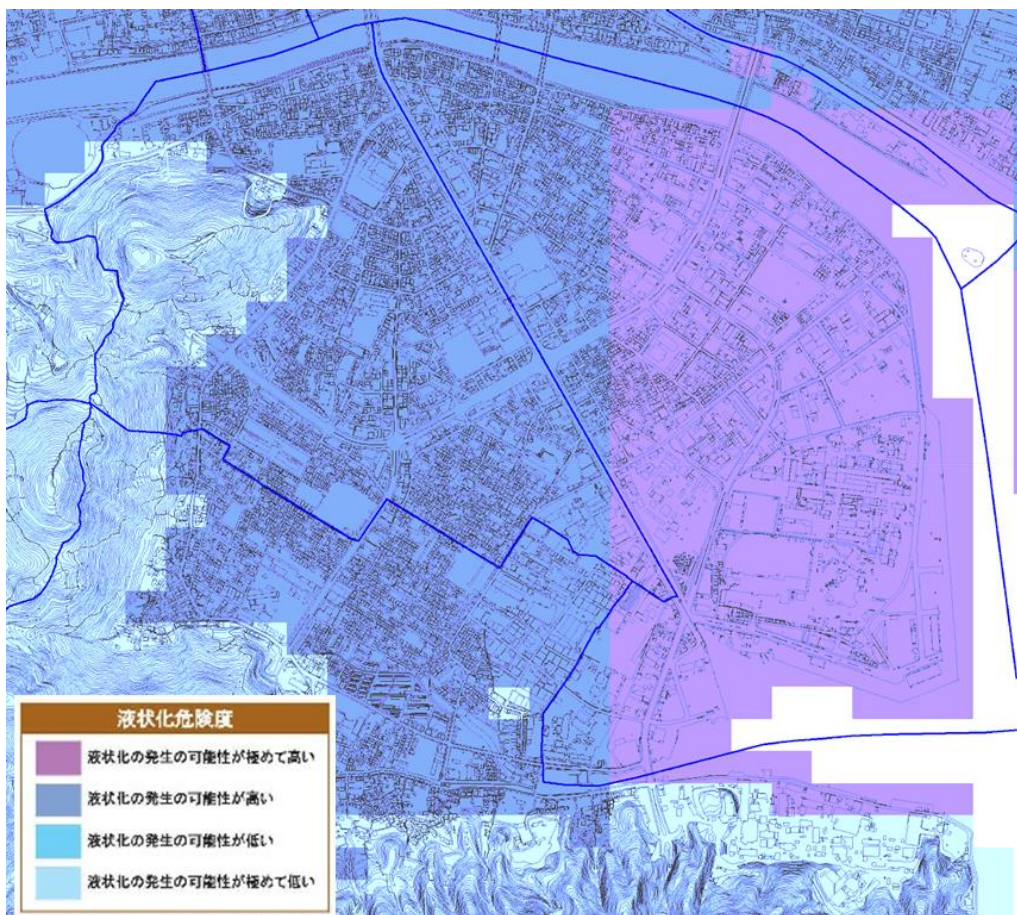
また、液状化のおそれが非常に高く、避難行動において道路の凹凸、杭基礎構造物との不等沈下、マンホールの突出などを想定されています(次ページ参照)。



潮江地区震度分布図【最大クラスの重ね合わせ】(出典:高知県ホームページ)



【液状化】



液状化危険度図(出典:高知市地震ハザードマップ(平成23年5月))

激しい揺れのあとは、このような状況が想定されます



道路の不陸



ブロック塀の倒壊による道路閉塞



古い家屋の倒壊



道路の崩壊



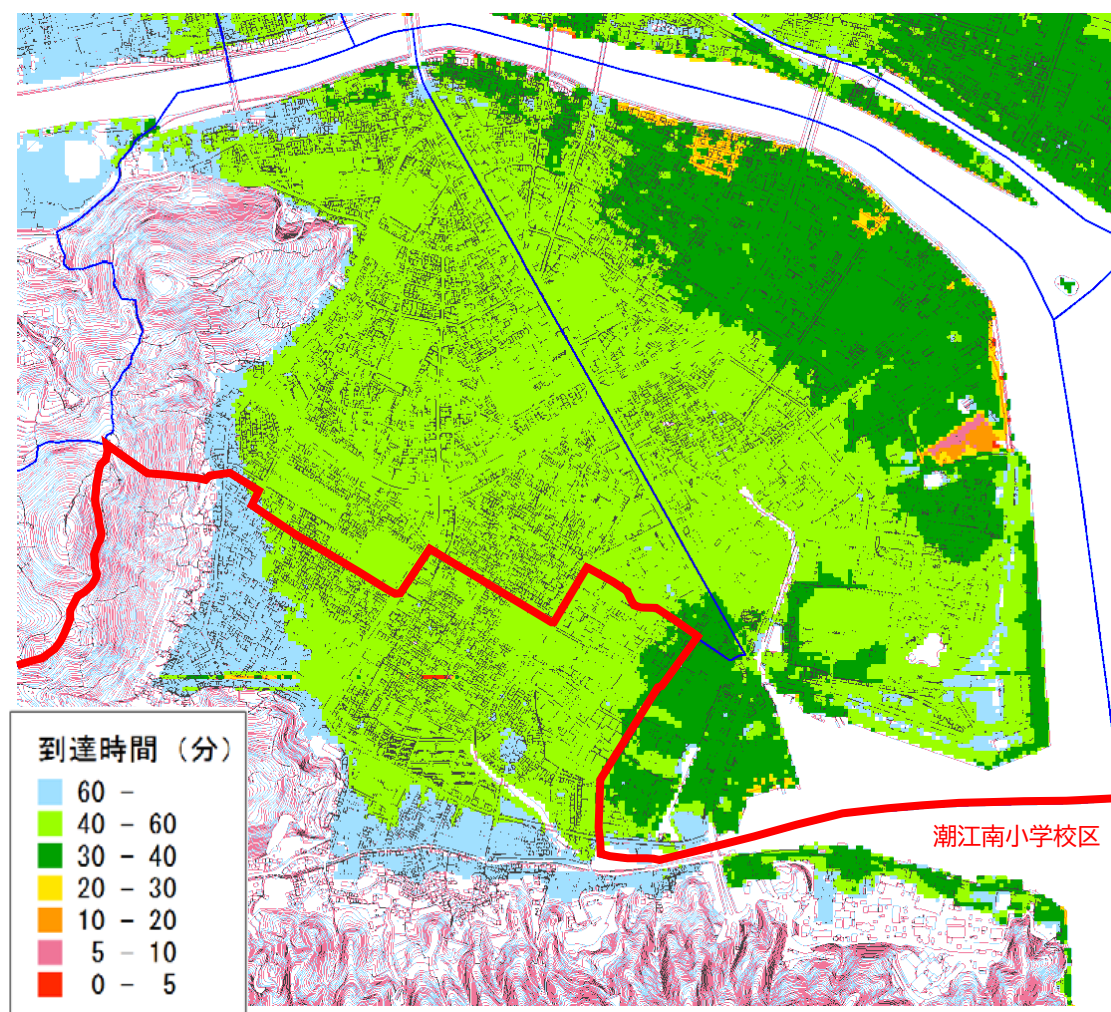
液状化によるマンホールの浮き上がり

揺れによって想定される被災状況(出典:高知県「地域津波避難計画点検マニュアル(平成25年12月)」)

【津波】

潮江南小学校区での津波浸水予測時間は、竹島川河口付近で30分、その他の地区で40～60分と想定されています。

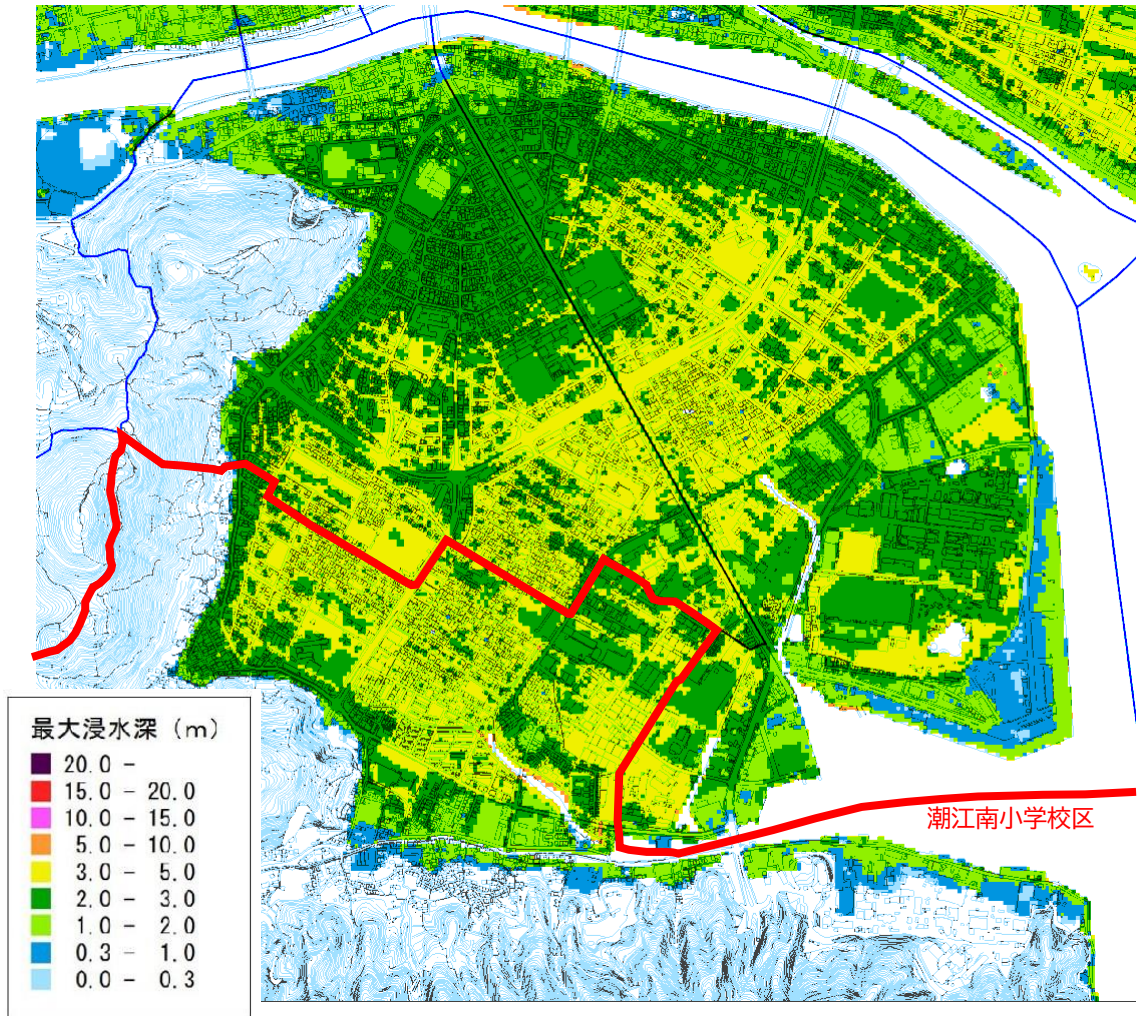
また、潮江南小学校区での津波想定浸水深は最大で3～5mと想定されており、建物の2階を越えると予測されています(次ページ参照)。



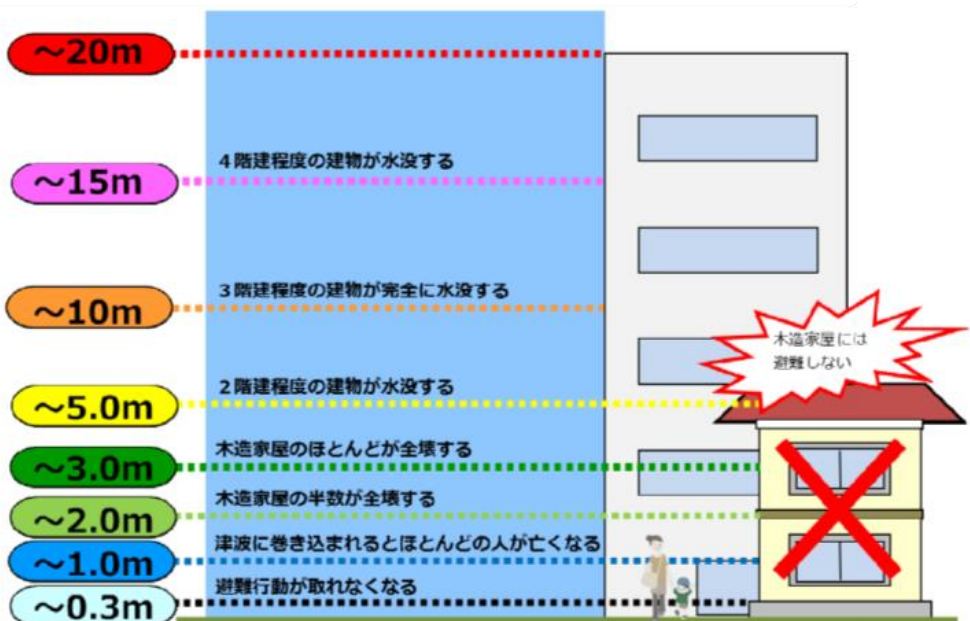
潮江地区の津波浸水予測時間図 (L2想定)



【浸水】



潮江地区の津波浸水予測図 (L2想定)



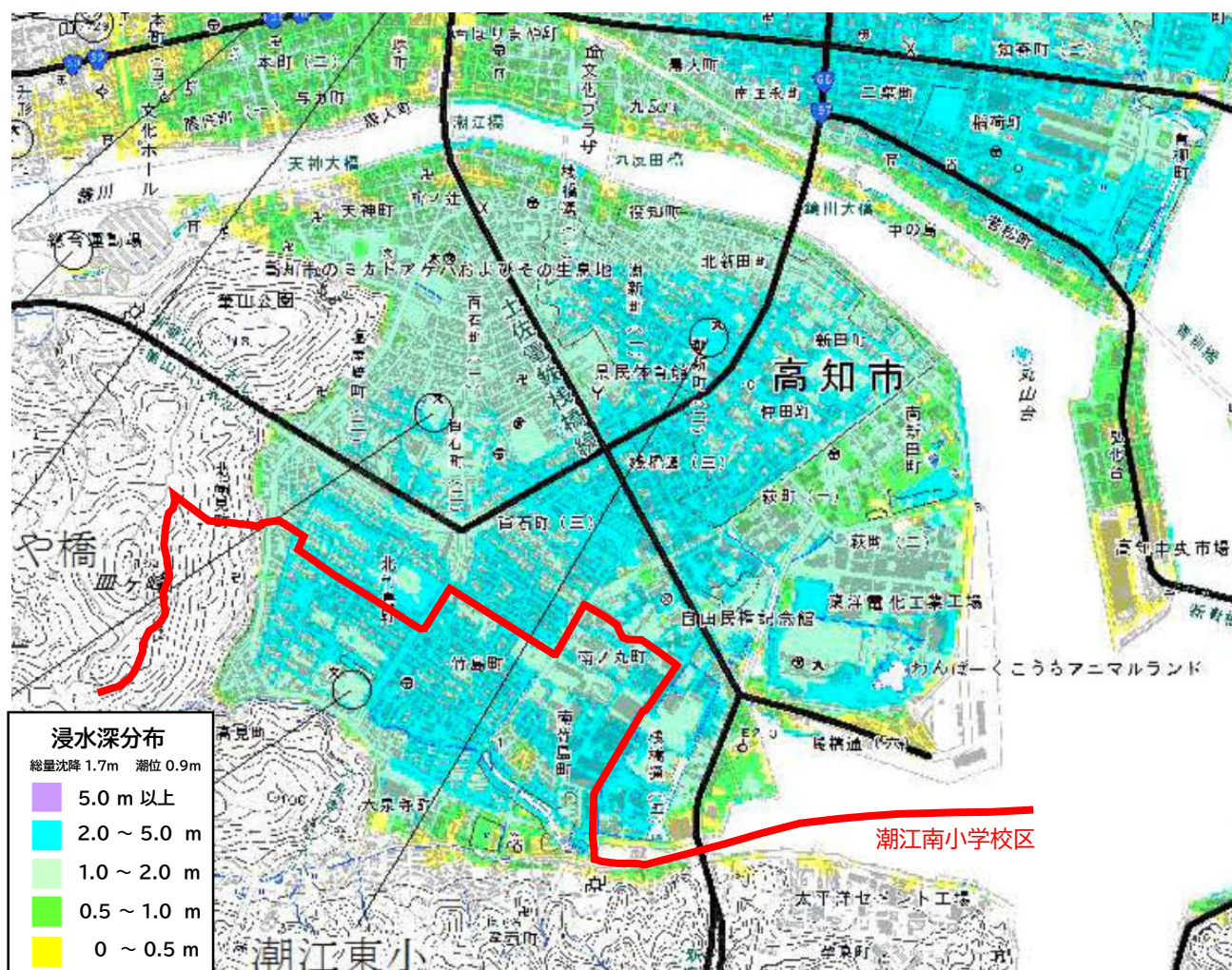
津波浸水深の目安

(出典:高知県「高知県版第2弾 南海トラフ巨大地震による震度分布・津波浸水予測(平成24年12月10日)」)

【長期浸水】

潮江地区は、標高の低い土地及び埋立地が多く、長期浸水による被害が広い範囲で起こると想定されています。

潮江南小学校区では広い範囲で、2～5mの長期浸水が起こると想定されています。



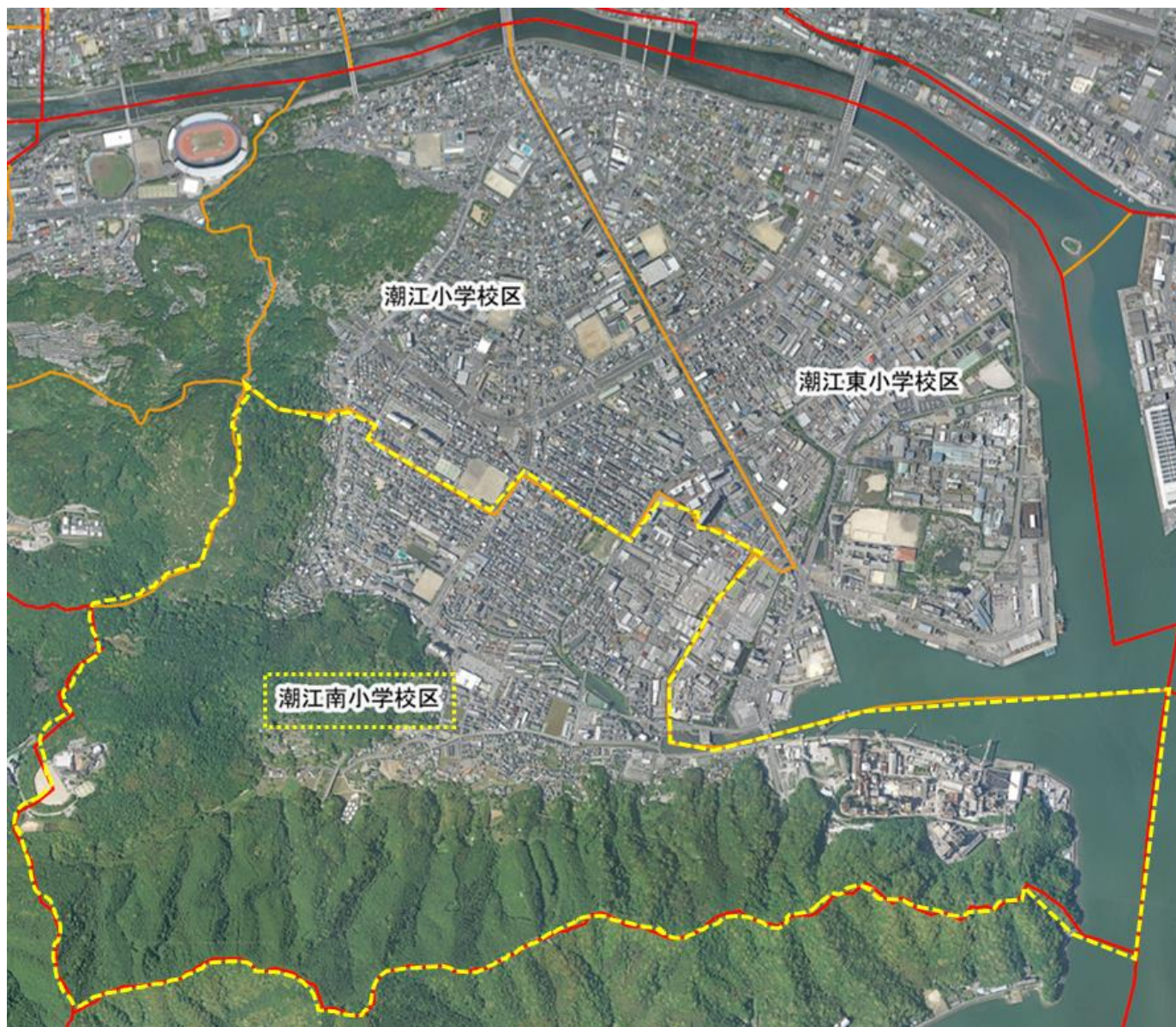
潮江地区長期浸水予測図(出典:南海トラフ地震長期浸水予測図)



第2節 潮江南地区の概要

■ 地形・地質的な特徴

潮江地区は、潮江小学校区、潮江南小学校区、潮江東小学校区の3つの小学校区で形成されています。その中で、潮江南小学校区は、南北に最大約3.0km、東西に最大約1.7kmのエリアであり、東側は筆山や皿ヶ峰、南側は宇津野山や鷲尾山などの自然地形の高台に囲まれています。また、地区の東側の一部(西孕東町)が、浦戸湾に面しています。

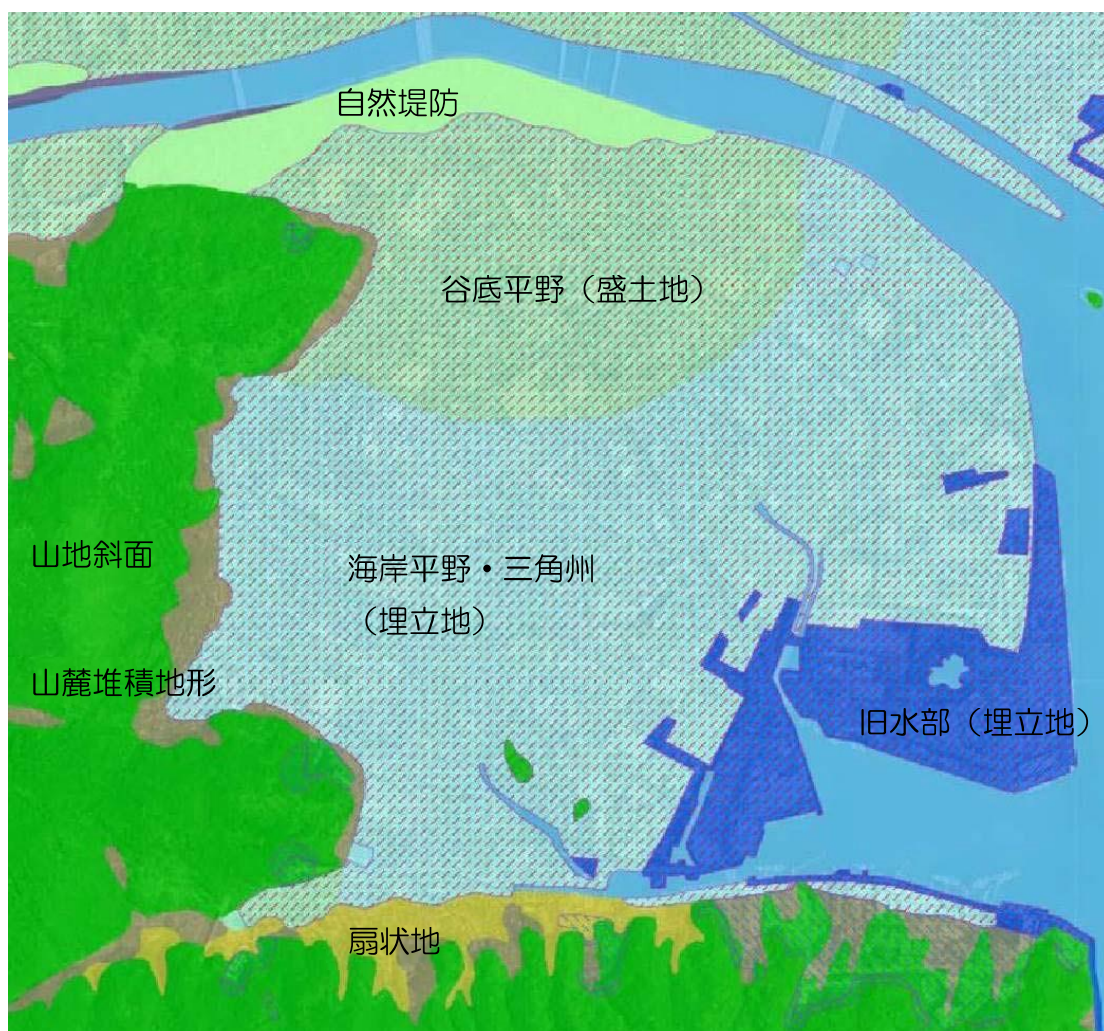


潮江南小学校区の位置図

潮江地区は、以下の図に示すように、河川や海岸の堆積作用によって形成された低地に盛土し、市街地が形成されています。

また、潮江南小学校区の避難行動に影響を与える地形・地質的な特徴は、下表のとおりです。

地形・地質的な特徴	避難の際の留意点
海拔0～2m程度の低地が地区の大部分を占める	地盤変動(沈下)による浸水の長期化
平坦地は、河川・海岸の堆積作用によって形成された地盤である	液状化のおそれがある
西側、南側に自然地形の高台を有する	高台まで逃げ切れない地区がある
西側斜面(筆山、皿ヶ峰)は、急傾斜地であり、高台への上がり口が限定される 斜面は落石等のおそれがある	複数の上がり口や緊急避難場所となる広場を事前に確認する ヘルメットを携行する
南側斜面(宇津野山)は、過去に土砂災害(土石流)が多く発生している	扇状地地形により避難路の勾配が緩く、高台の緊急避難場所へのアクセスは容易であるが、急斜面に近づくと土砂災害のおそれがある



潮江地区の地形の成り立ち
(国土地理院 数値地図25000(土地条件)を基に作成)

■ 社会環境

潮江南小学校区の避難行動に影響を与える社会環境的な特徴は以下のとおりです。

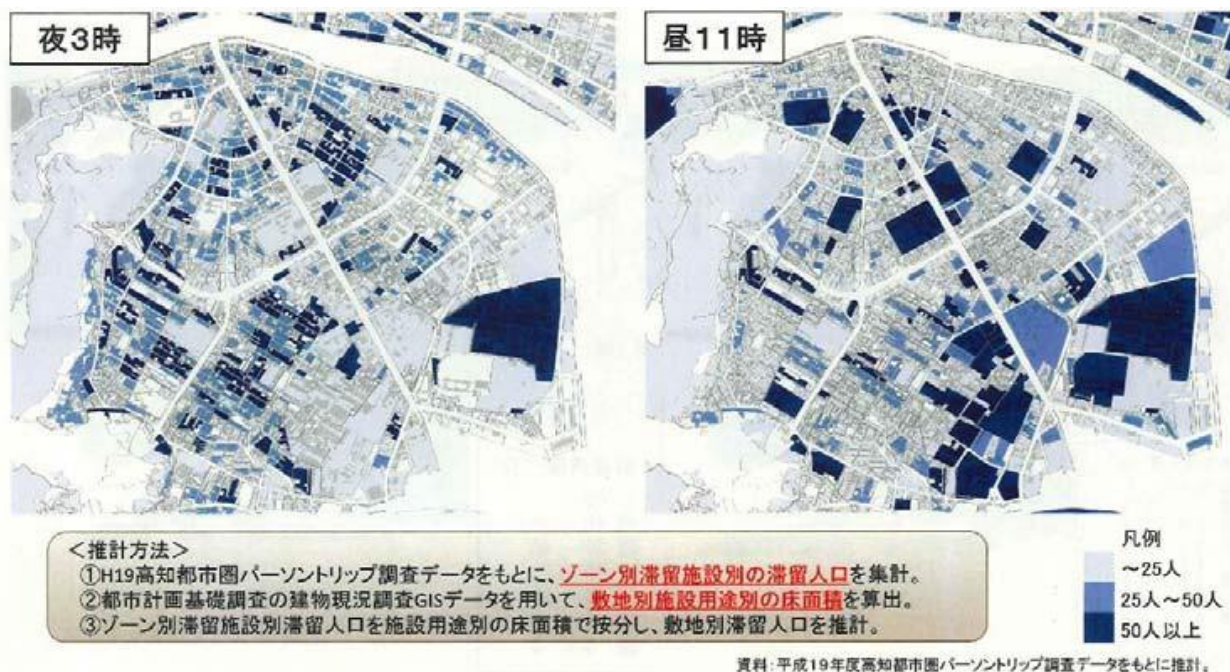
社会環境の特徴	避難の際の留意点
昼間と夜間では、人口分布が異なり、 夜間の人口が多い (昼間は、学校や事業所等に多くの人口が集まっている)	夜間の避難については、昼間の避難に比べて、人口、移動距離、避難速度の低下などの影響が大きいと予測される
夜間人口は7,055名、世帯数3,851世帯、 高齢化率は約34.5% と高い(令和3年4月時点)	高齢者を含めた幅広い年齢層の避難行動について検討する必要がある
旧耐震基準(昭和56年以前)に基づく古い建物の連担地域 がある	建物の倒壊による避難路の閉塞等のリスクがある
水際は、河川区域・港湾区域の堤防、 護岸が設置 されている	耐震性能や耐震補強の実施について、情報の共有を図る必要がある
津波避難ビルの条件を満たす建物が棧橋通り沿いに集中しており、 潮江地区内の他の小学校区に比べて候補となるビルが少ない	地域と行政が協働で津波避難ビル交渉を行うなど選択肢をできるだけ増やす

潮江南小学校区の世帯数及び人口(令和4年4月時点)(出典:高知市総務課調査統計担当)

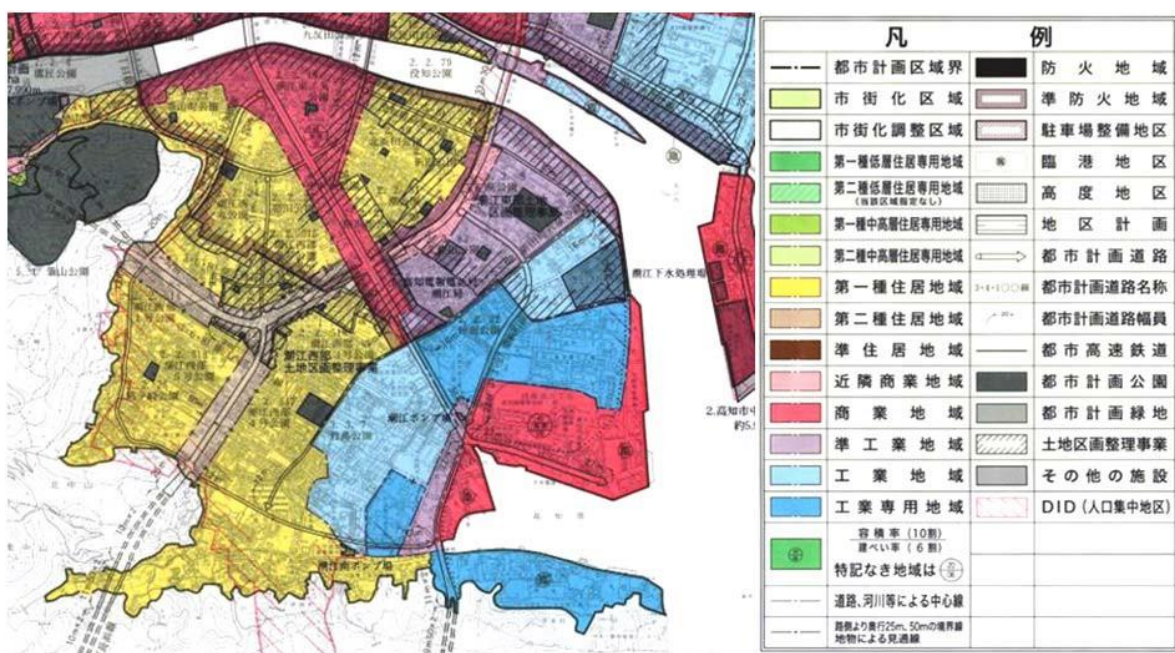
項目 校区	世帯数 (世帯)	総人口 (人)	15歳未満		15～64歳		65歳以上	
			(人)	(%)	(人)	(%)	(人)	(%)
潮江南 小学校 区	3,851	7,055	680	9.6	3,940	55.8	2,435	34.5

潮江地区では、次ページの図(潮江地区における夜間と昼間の滞留人口)に示すように、夜間と昼間の滞留人口とその分布が大きく異なります。平成19年度〈第3回〉高知都市圏パーソントリップ調査では、都市部(旭、江ノ口・小高坂、高知駅、本町・はりまや、下知北、下知南)のみ、9時以降の滞留人口が増加し、9～15時台は夜間の約1.4倍の滞留人口となります。その他の地域では、夜間人口が多いと発表されています。

また、潮江地区の南部は、市内でも最も古くから形成された工業地帯であり、多くの事業所や工場が立地しています(次ページの図『都市計画図』を参照)。昼間は、事業所や学校、工場等に多くの人が集まっている状況が想定され、避難行動は夜間と大きく異なります。今後は、昼間も含めていつ地震が起こっても適切な避難行動がとれるよう検討を重ねていく必要があります。



潮江地区における夜間と昼間の滞留人口(平成19年度高知都市圏パーソントリップ調査データをもとに推計)



都市計画図(出典：高知県「高知広域都市計画総括図(平成22年3月)」)

また、潮江地区には、工業用水の供給を行っている鏡川工業用水道筆山配水池があります(次ページ 鏡川工業用水道位置図 参照)。筆山の山腹に延長 314m のトンネルをくり抜いて貯水槽(水量約 41000m³)とし、その入口及び出口に鉄筋コンクリート製の水槽(接合井)を接合させた構造で、出口側接合井は、北高見町に位置しており、施設付近は津波避難場所となっています。



鏡川工業用水道位置図(出典:高知県ホームページ)

鏡川工業用水道筆山配水池については、平成25年11月に高知県公営企業局電気工水課より耐震診断結果が次のように報告され、安全性が確認されています。

● 耐震診断の方法

最新の指針である「水道施設耐震工法指針・解説 2009 版」(社団法人日本水道協会)に基づき、実際の構造物を忠実に再現した3次元解析モデルを作成して、新たな想定南海地震に対する耐震性を確認するとともに、構造物の劣化や変状を確認するため、現地調査を実施しました。なお、想定地震動は、新たな想定南海地震(筆山配水池で考えられる最大級の地震、レベル 2)としています。

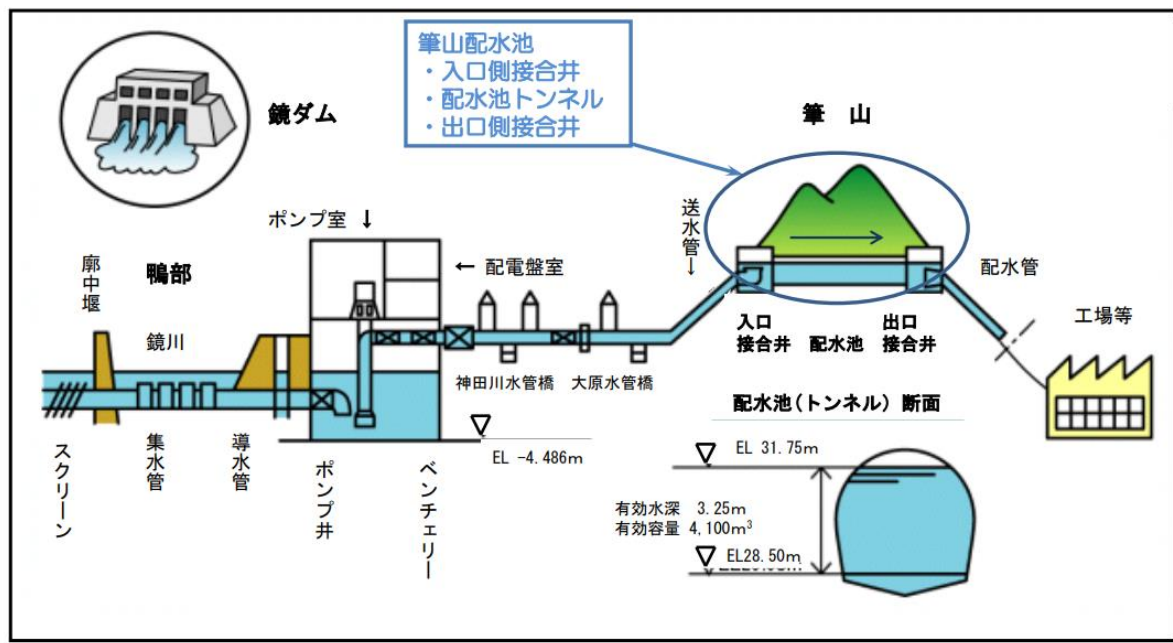
● 結果

新現地調査の結果は、構造の強さに影響を与えるような、劣化や変状はなく、新たな想定南海地震に対して「安全」であることを確認しました。なお、トンネル(貯水槽)については、硬い岩盤に築造されており、耐震性があると考えています。

(※ 高知県ホームページ「鏡川工業用水道筆山配水池の耐震診断結果について」より抜粋)

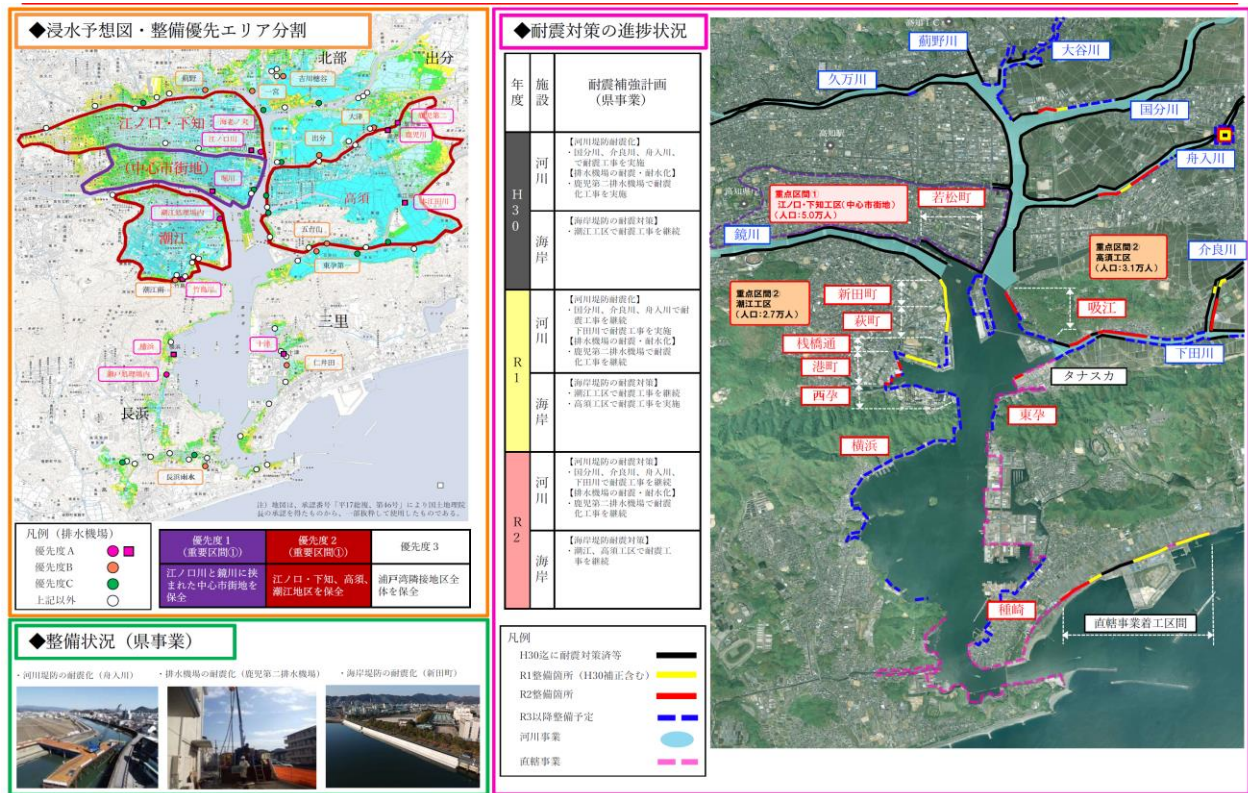
その他、潮江地区は鏡川河口部に位置し、高知県が管理する(河川区域及び港湾区域)河川堤防、護岸が整備されています。

潮江地区では、広域地盤変動と耐震化されていない堤防の沈下によって、津波による浸水が長期間に及ぶことが想定されています。長期浸水に対する河川・海岸堤防の耐震補強の取り組みについては、次ページの図をご参照ください。



鏡川工業用水道の概要(出典:高知県ホームページ)

潮江地区では、広域地盤変動と耐震化されていない堤防の沈下によって、津波による浸水が長期間に及ぶことが想定されています。長期浸水に対する河川・海岸堤防の耐震補強の取り組みについては、以下の図をご参照ください。



※レベル1では津波の侵入を防ぐ(防災)、レベル2では避難時間を稼ぐ(減災)を目指し整備
(出典:第22回高知県・高知市南海トラフ地震対策連携会議について(令和2年11月20日開催)参考資料)

河川・海岸堤防耐震補強の取り組み(令和2年11月時点)



潮江南地域に関するアンケート

本計画策定前に地区の現状や課題について情報収集するため、令和2年4月に、無作為抽出された潮江南地区の住民1300人及び、潮江南小学校にもご協力いただき保護者さんにもアンケートを配布し、446名の方から回答をいただきました。

この資料は、アンケート結果のうち、防災についての質問部分を抜粋し、まとめたものです。

(アンケートは地域コミュニティに関する内容も含んでいました。地域コミュニティに関するアンケートの結果については、潮江南地域コミュニティ計画をご参照ください。)

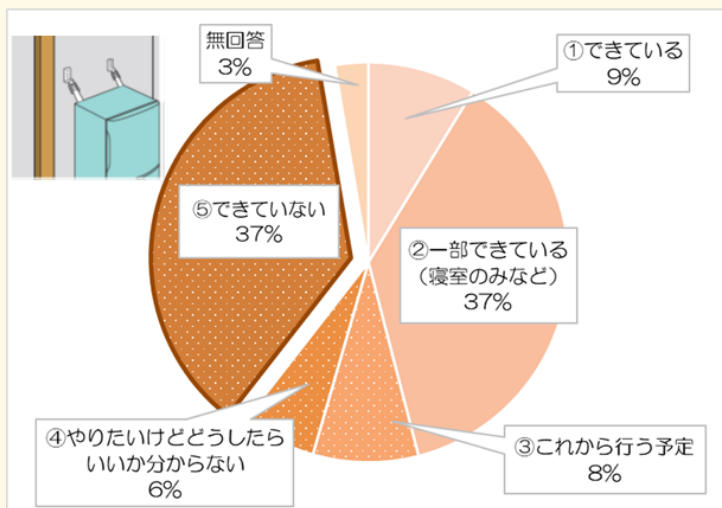


事前の備えについて

● ご自宅の家具の転倒防止対策はできていますか？

①できている	39
②一部できている (寝室のみなど)	166
③これから行う予定	38
④やりたいけどどうしたらいいかわからない	27
⑤できていない	164
無回答	12
	446

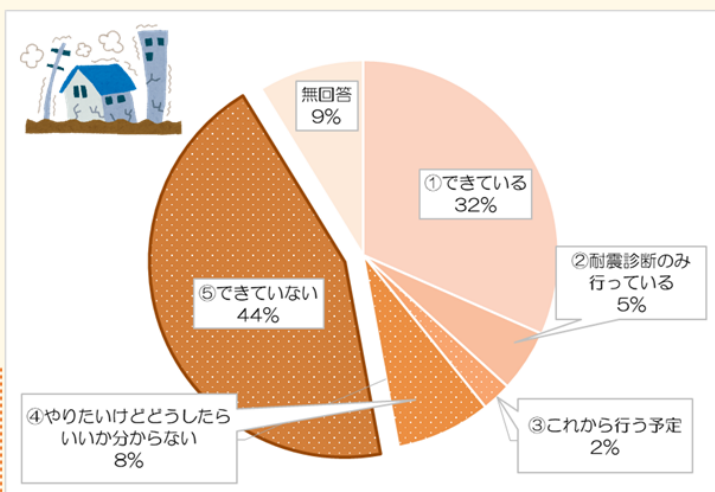
家具の転倒防止については、『できている』『一部出来ている』という方が46%なのに対し、『できていない』『やりたいけどどうしたらいいかわからない』『これから行う予定』という方が51%と半数を超えました。



● ご自宅の耐震化はできていますか？

①できている	141
②耐震診断のみ行っている	23
③これから行う予定	11
④やりたいけどどうしたらいいかわからない	35
⑤できていない	197
無回答	39
	446

自宅の耐震化については、『できていない』及び『やりたいけどどうしたらいいかわからない』という回答が52%と半数を超えています。

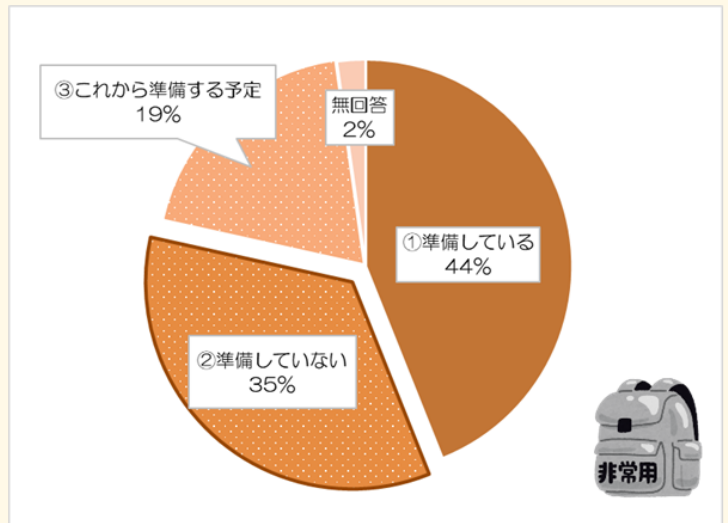


● 非常持ち出し品（津波から避難する際、持ち出す予定の必要最低限のもの）を準備していますか？

①準備している	196
②準備していない	154
③これから準備する予定	86
無回答	10
	446

非常持ち出し品については、『準備している』が44%、『準備していない』『これから準備する予定』があわせて54%でした。

『これから準備する予定』との回答は全体の約2割、『準備していない』との回答は全体の約3割でした。



● 家庭で災害時用の備蓄品を準備していますか？

『①準備している』と回答した場合、何を準備しているか選択してください（複数回答可）。

①準備している	211
②準備していない	139
③これから準備する予定	61
無回答	35
	446

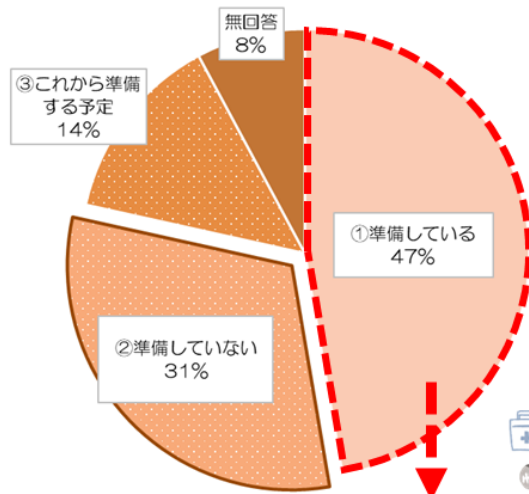
備蓄品については、『準備している』と、『これから準備する予定』『準備していない』の回答がそれぞれ約半数ずつの回答がありました。

『準備していない』との回答は31%、『これから準備する予定』との回答は14%でした。

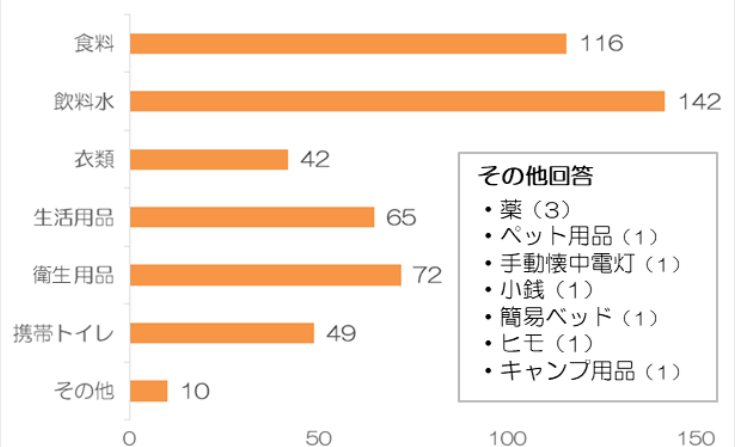
また、備蓄品として何を準備しているかについては、『食料』『飲料水』を備えているとの回答をした方が100人以上いるのに対し『衣類』や『携帯トイレ』を備えているとの回答をした方は50人以下という結果が出ました。

その他の回答では薬やペット用品など、それぞれの生活に合わせた備蓄品、手動懐中電灯やキャンプ用品などライフラインが停止した後の生活をイメージしたものが挙げられました。

家庭で災害時用の備蓄品を準備していますか？



何を準備しているか選択してください（複数選択可）



その他回答

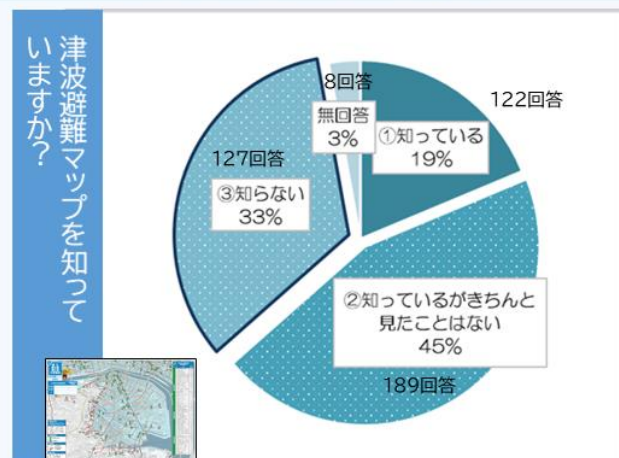
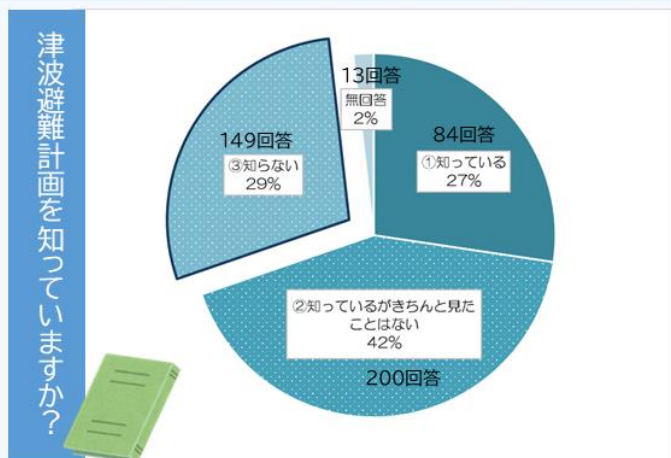
- ・薬（3）
- ・ペット用品（1）
- ・手動懐中電灯（1）
- ・小銭（1）
- ・簡易ベッド（1）
- ・ヒモ（1）
- ・キャンプ用品（1）





津波避難について

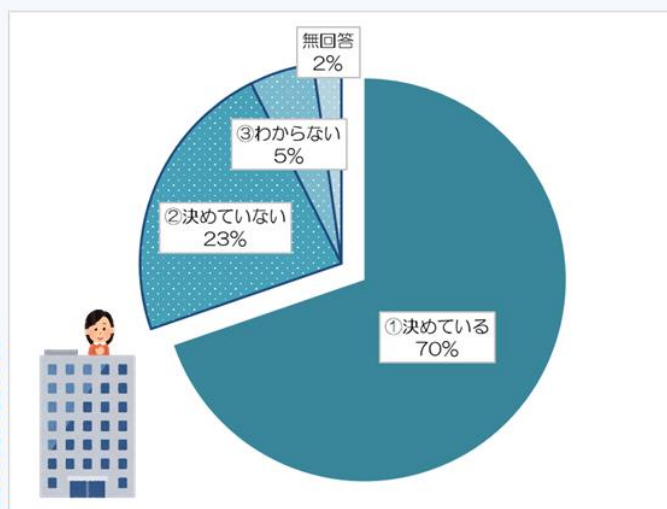
- 潮江南小学校区津波避難計画を知っていますか？
平成27年3月作成「潮江・潮江南・潮江東小学校区津波避難マップ」を知っていますか？



潮江南小学校区の津波避難の指針である津波避難計画、潮江南小学校区の津波避難場所を示した津波避難マップともに『知らない』『知っているがきちんと見たことはない』との回答が7割近くを占めました。

- 津波から逃げるための場所（緊急避難場所）を決めていますか？

①決めている	311
②決めていない	102
③わからない	23
無回答	10
	446



津波から逃げるための避難先について、7割の方が事前に『決めている』との回答でしたが、3割の方は『決めていない』『わからない』との回答でした。

- 決めている緊急避難場所を選択してください（複数選択可）。
どうしてその場所を選びましたか？（複数回答可）

決めている避難場所

①潮江南小学校	172
②近隣の津波避難ビル	69
③自然地形の高台	147
④その他	18

その理由

①自宅との距離が近いから	262
②津波避難誘導標識を見たから	20
③避難所も兼ねた緊急避難場所だから	89
④近くににげられそうな場所がないから	39
⑤防災マップで確認をしたから	19
⑥地域で取り決めているから	27
⑦その他	20



町別集計
詳細は次頁へ

町別

- 決めている緊急避難場所を選択してください（複数選択可）。
 どうしてその場所を選びましたか？（複数回答可）

町名	全回答	建物										
		校区内津波避難ビル					校区外津波避難ビル			自宅	避難場所が不明	
		潮江南小	河川国道	六泉寺ビル	マルハン	パルエー8	北竹島市営	アスパル	潮江中	自宅	詳細不明	指定外ビル
(各ビル収容人数⇒)		1,699人	50人	45人	3,469人	100人	2,480人	1,645人	1,921人	-	-	-
①竹島町	99	57	2	-	1	1	1	1	-	1	7	2
②南竹島町	39	10	1	-	1	-	-	-	-	2	7	1
③六泉寺町	96	33	7	2	-	-	-	-	-	3	8	-
④深谷町	13	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑤孕西町	53	4	2	1	-	-	-	-	-	1	2	1
⑥孕東町	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
⑦南ノ丸町	11	1	-	-	2	1	-	-	-	5	-	-
⑧南中山	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑨北中山	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
⑩高見町	52	24	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
⑪北高見町	12	5	-	-	-	-	-	-	-	2	0	-
⑫北竹島町	60	34	-	-	-	-	5	-	1	1	7	-
⑬その他	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-
	446	172	12	3	4	2	6	1	1	15	35	4

自然の高台		
竹島公園 命山	山	きめていない わからない (無回答)
2	13	23
1	9	18
-	31	27
-	7	5
-	30	14
-	1	0
1	1	4
-	-	-
-	2	2
-	14	13
-	6	2
-	21	11
-	2	2
4	137	121

気になる回答(一部抜粋)

住居 → 行先	理由	考えられる可能性
南竹島町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから ・避難所も兼ねているから ・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある ・「避難所である」という理由で距離のある避難場所を選んでいる
北高見町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから ・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある (山など)
孕西町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから	・近い避難場所がある可能性がある (山など)
深谷町 → 潮江南小学校	・自宅との距離が近いから	・近い避難場所がある可能性がある (山など)
南ノ丸・竹島町 → 河川国道事務所	・避難所も兼ねているから	・近い避難場所がある可能性がある ・避難所の指定はされていないビル
竹島町 → 北竹島市営	・近くに逃げられる場所がない	・近い避難場所がある可能性がある
北竹島町 → 潮江中学校	・防災マップで確認したから	・近い避難場所がある可能性がある

※1 自然の高台の回答は、『麓山』『高見山(皿ヶ峰)』『鷲尾山』『宇津野山』等の回答の集計です。

※2 校区内の津波避難ビルのうち、『吉永工芸ビル』『新高産業社屋』『高知県トラック協会』『戸口協会』については、回答がなかったため省略しています。

※3 指定外ビルの回答内訳・うしおえメディカルビル(1)・六泉寺マンション(1)・マルハンの隣のビル(1)・アルファステイツ棧橋通Ⅳ(1)



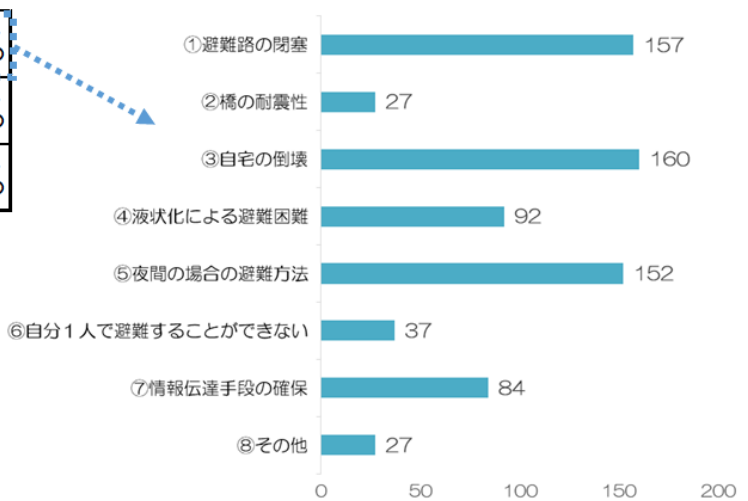
全体的な避難傾向として、北側の町は『潮江南小学校』、南側の町は『河川国道事務所』『自然の高台』への避難を考えているという回答が多い傾向にありました。対して、回答数が0の津波避難ビルも4つあり、避難場所の偏りが見られます。

また、避難場所として『潮江南小学校』を挙げている回答が多くあり、その理由として『自宅との距離が近いから』というものが多数ありました。しかし、中にはそれよりもより近い避難場所がある可能性がある回答(上記『気になる回答(一部抜粋)』参照)もいくつかありました。

また、気になる回答として、実際には津波避難ビルの指定を受けていない建物を津波避難ビルとして避難する予定であるとの回答も4つありました(上記※3参照)。

- 自宅から津波から逃げるための場所に避難するまでに不安を感じることはありますか？
「①ある」と回答した方は、どのようなことに不安を感じますか？（複数回答可）

①ある	327	73%
②ない	91	21%
無回答	28	6%
	446	



避難の際不安なこととして、『避難路の閉塞』『自宅の倒壊』『夜間の場合の避難方法』を課題として挙げている回答が多くありました。また、『自分1人で避難することができない』との回答も37名ありました。

また、その他の回答では、高齢の方や子ども、ペットなど、手助けが必要な家族を心配する意見がいくつか見られました。

回答
その他の

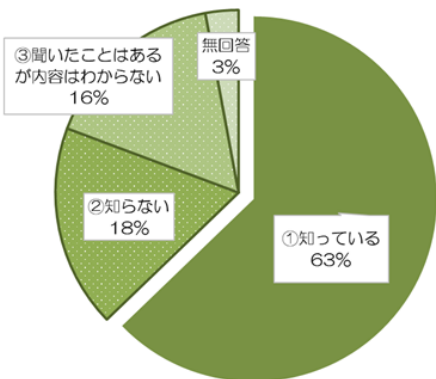
- ・ペットがいる（4）
- ・子どもが小さい（2）
- ・高齢者がいる（4）
- ・手助けが必要な家族がいる（3）
- ・体力や体調に不安がある（4）
- ・避難場所が遠い（3）
- ・道路の状況（4）
- ・状況が分からないため（2）
- ・避難者が多い（1）
- ・橋を渡る最中に津波が来ないか（1）



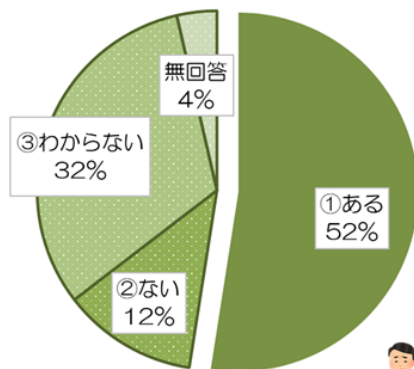
避難生活について

- 潮江南地区が長期浸水エリアであることを知っていますか？
ご自宅は長期浸水エリアにありますか？

長期浸水エリアであることを知っていますか？



ご自宅は長期浸水エリアにありますか？



潮江南地区が、津波が来た後に水がしばらくひかないとされている長期浸水エリアであることを『知らない』『聞いたことはあるが内容はわからない』と回答した方は全体の約3割、また自宅が長期浸水エリアにあるか『わからない』と回答した方も、同じく全体の約3割でした。

- 避難所運営マニュアルを知っていますか？

避難所運営マニュアルを	①知っている	27	6%
	②知っているがきちんと見たことはない	158	35%
	③知らない	245	55%
	無回答	16	4%

大規模災害時に地域の方が避難所を開設・運営するための指針となる避難所運営マニュアルについて、『知っているがきちんと見たことはない』『知らない』との回答は全体の9割、また、『知らない』と答えた方は全体の半数以上でした。

● 津波から命を守った後、避難生活をする場所はどこを考えていますか？
その場所を選択した理由は何ですか？（複数回答可）

		①浸水しないスペースがあるから	②避難した知人が多いと思うから	③市の指定だから	④備蓄品があるから	⑤その他	回答無し	合計	
避難所	指定避難所	73	81	129	72	5	13	373	
	潮江南小学校	25	31	39	27	2	9	133	
	土佐塾中学・高校	2	1	-	-	-	-	3	
	潮江中学校	-	-	-	-	-	1	1	
	※指定避難所以外の建物	1	-	-	-	-	-	1	
	その他の理由	・そこ以外知らない（1） ・他に行く場所がない（1）							
自宅	自宅	69	21	1	24	22	4	141	
	その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・近くなので（1） ・過去の災害・経験から（1） ・ペットがいるため（3） ・遠くに行けない、移動が困難（2） ・浸水想定外だから（4） ・なるべく早く元の生活に戻りたい（1） ・自宅以外は検討中（1） ・障害のため避難所での生活が困難（2） 							
親戚知人	親戚・知人宅（実家を含む）	39	36	1	6	6	42	130	
	その他の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・親戚宅のほうが安心して過ごせそうだから（1） ・ペットがいるため（1） ・津波の影響がないと考えているから（3） ・実家があるのと、避難所は多くの人がいるので（1） 							
その他	その他の場所 その理由	<ul style="list-style-type: none"> ・車内（1） ・近くの畑（1） ・災害の状況によって考える（1） ・近所の高い家か場所（1） ・ペットに負担をかけたくないので、被害のない地域で家を借りる（1） ・指定避難所に行きたいが、行けるかわからない（1） ・わからない、決めていない、考えていない（8） 							23

被災後の生活については、『指定避難所』で過ごすと考えている方が最も多く、中でも『潮江南小学校』を挙げた方が多くいました。また、避難所以外の場所を挙げた方は、ペットを心配して、障害のため避難所での生活が難しい、浸水区域外だから（浸水区域外へ移動する）などの意見が多くみられました。

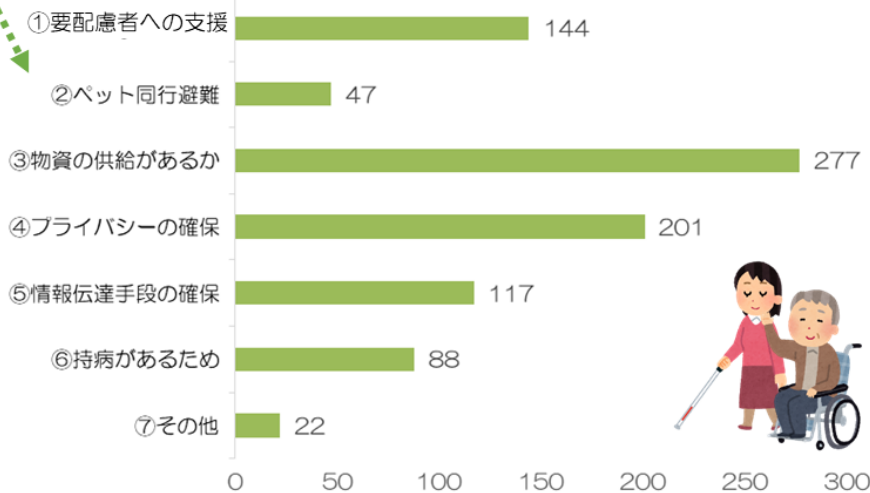


● 避難生活をするうえで不安なことはありますか？
あると回答した方は、どのようなことに不安を感じますか？（複数回答可）

①ある	381	85%
②ない	39	9%
無回答	26	6%
446		

その他回答

- ・トイレ（6）
- ・子どもがいる（5）
- ・衛生面（2）
- ・対人関係（2）
- ・コロナウイルス（2）
- ・年齢的なこと（1）
- ・身体的なこと（1）
- ・避難生活中の医療（1）
- ・不慣れな場所である（1）

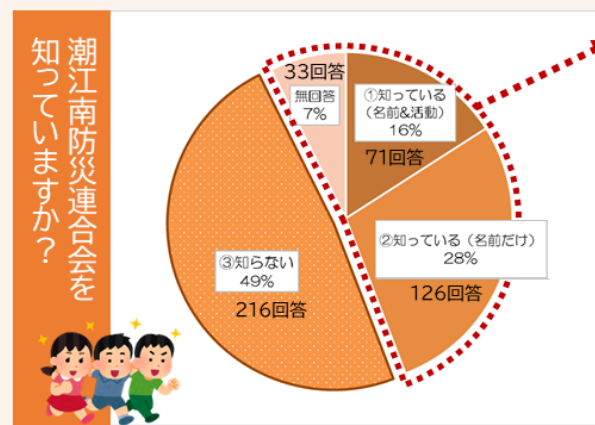


避難生活の中で『不安がある』と回答をした方は、全体の8割以上でした。多く挙げられたのは『物資の供給があるか』『プライバシーの確保』『要配慮者（自分や家族を含む）への支援』でした。その他にも、『持病がある』『避難生活中の医療』『トイレ』など健康面の心配や、『ペット同行避難』が不安である、『子どもがいる』など、家族についてを心配する回答などが見られました。



地域活動について

● 潮江南防災連合会を知っていますか？ どうやって知りましたか？

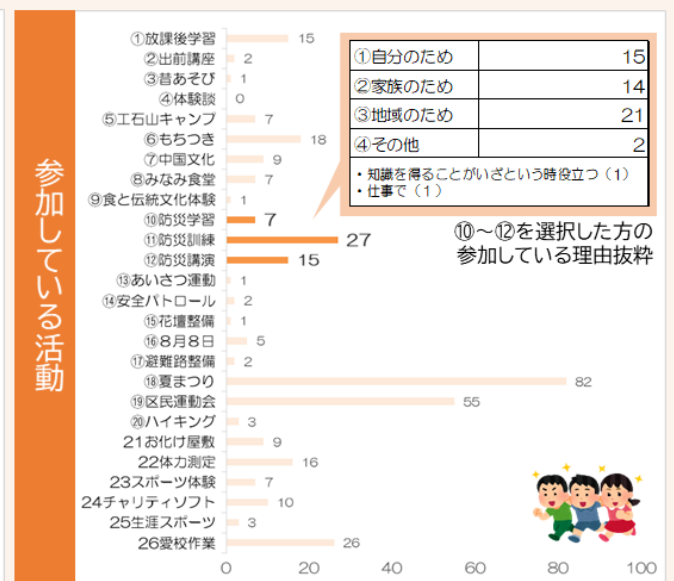
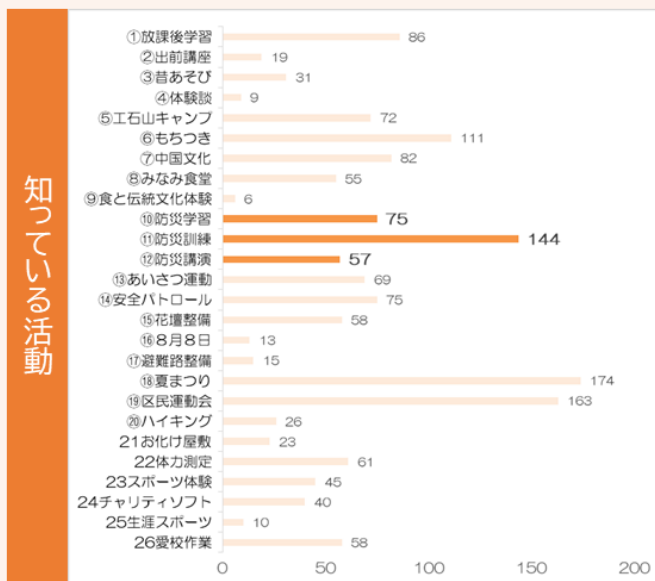


どうやって知りましたか？

①地域活動の中で	65
②人から聞いて	78
③お祭り等地域行事で	51
④学校活動の中で	24
⑤高知市ホームページ	9
⑥その他	4
閲覧で(3) パンフレットで(1)	
無回答	7

潮江南防災連合会について、『名前も活動も知っている』『名前だけ知っている』との回答は全体の約4割でした。どうやって知ったかについては『人から聞いて』との回答が多く続いて『地域活動の中で』『お祭り等地域行事の中で』等実際の地域での取組の中で知った方が多くいました。

● 各種地域団体の取り組みで知っている・参加しているものはどれですか？ 問25に関し、参加している理由・していない理由を選んでください（複数回答可）。



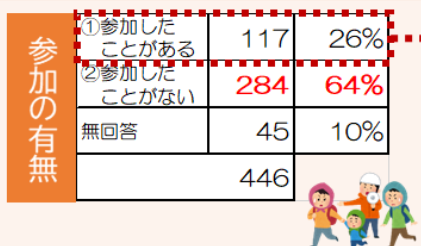
参加していない理由

①知らない	103	④地域と関わるのが苦手	44	⑦一緒に参加する人がいない	44	⑩他の活動をしたほうがいい	0
②興味がない	22	⑤個人情報漏れるのが心配	5	⑧体力的に難しい	59	⑪顔出してなければ参加したい	1
③忙しい	138	⑥きっかけがない	71	⑨開催時期(日程)が悪い	6	⑫その他	4

その他回答
 ・子どもが小さい(2) ・高齢者と暮らしている(1) ・障害があるため助けが必要(1)
 ・訓練とかはもう少し涼しい時期の方がいいよな。9月の体育館は暑く人が集まらない(1)

地域内の活動に参加しない理由について『知らない』『きっかけがない』等が多く挙げられました。

● 防災活動に参加したことがありますか？どのような活動に参加をしたことがあるか選んでください。



どのような活動に

津波避難訓練	50
避難所開設訓練	15
防災講演会	31
講習会	18
消火訓練	29
救急救命訓練	29
その他	0

(連合会・町内会も含む)地域の防災活動については、参加したことがないとの回答が6割を占めました。参加したことがある活動については、最も多いのが『津波避難訓練』、続いて『防災講演会』でした。

● 潮江南地域が今後どうなって欲しいと思いますか？また、アンケートに関する具体的なご意見など、ご自由にご記入ください。（内容の近いものは一部省略しています。）ご了承ください。

■ 防災を強化してほしい・防災に強いまち

地域のつながりの強い街、防災に強い街になって欲しいです。

防災に強い街にすぐ対策を。

防災に強い街、交通安全(高見のバス通りはスピードを出す車や、パトカーがいて、こわい時があるので)

浸水地区なので防災に強い街になって欲しい。

津波が心配なので少しでも不安が減るよう防災に強い街になればいいなと思います。

■ (地域の防災活動・地域の災害情報など)情報が欲しい

日程が合えば、地域の防災について知りたいです。地震・津波の際に、自宅(3階)にいるべきなのか、避難所に行くべきなのかなど、自分の生活にあった情報を知りたいです。

・自分の住んでいる地域がどれくらい危険なのか知りたい。
・防災グッズを準備するにあたって、用意した方が良いものを知りたい。

最近引越して来た為、ハザードマップなどの分かりやすい地図が欲しい。地域の取り組みしている日時、場所などチラシでもポストに入れてほしい。

浸水地区なので防災に興味を持てる様にしなければならない。実感がわからないのでなかなか防災意識がうすい。

防災については不安に感じる事が多くあるもののどのような対策をすればよいのか具体的な内容がわからない。

防災に強い町 平日は仕事に出ているので、情報が入りづらい。
休みの日(時間があいた時に)に情報が分かりやすく目にする事が出来れば、有りがたいです。

■ 避難場所へ行くまでの不安(液状化や家の耐震、道が狭い、一人で避難が難しい…など)

地盤として液状化のおそれがあるということで、耐震化を進める必要があると考える。

家庭の事情でお世話ができませんが地震や台風の時には避難する場所へ行く必要がありますからお世話をして下さいの方があれば有難いです。お願いします。

大きな道路は通りましたが、昔から道が狭く、自転車、徒歩以外では、動きにくいです。
住んでいる方も年配の方が多く、このようなアンケートが届いても、今さら、家を改築できるとも思えません。地震があっても助けあえるように若い世代の方が、この地区に引越しをしてきてもらえるような取組が必要だと思います。

お世話さます。潮江南地域にはまだまだ狭い道が多く、車1台がやっと通れるというところも少なくありません。車の規格サイズが大きくなっている分、通行されている徒歩や自転車のかたの横を通れず、うしろから車についていかなければいけない道も多いです。
今後、防災の面からも道の拡張などが整備されていくといいと思います。(高齢のかたも多いので)

防災に強い街になってほしいです。通学路など高い塀があったり、せまい道で消防車や救急車が入れない道があります。小さい子供もいて不安がいっぱいです。

災害時、年老いた両親(父は車イス使用)が無事避難出来る場所があればいいなと思います。
須崎市で山をけずり避難道を整備、食糧等の備蓄倉庫もありたくさんの人が津波から身を守る場所(高台)が確保されていてすごいと思いました。

■ 避難場所の不安(収容ができるか、耐震性があるのか、逃げる場所が少ない…など)

高齢になったので避難場所の南小学校は遠く感じるため近くにある高層ビルを指定に入れてほしい。

以前は地震が来たら、家族みんなで国土交通省ににげようと思っていました。でも、近所の人達が「避難する人が多すぎて入れないかもしれない」と言っていて不安です。国土交通省に入れなくて潮江南小学校まで再度逃げるのはかなり時間がかかると思います。それと、子供達が竹島公園で遊ぶこともありますが、「いのち山」で大丈夫かどうか心配です。

竹島公園横のいのち山はスロープがありますが、老人や車椅子の方が殺到すると、危険が伴い避難場所としては、不向きだと思います。長い間の空き地の末に出来上がった期待も大きかった場所でしたが、残念です。もっと実用的な避難場所であるべきだと思います。

防災に強い街(南竹島町には避難する場所が少なすぎるので)
いのち山迄行けても山にはたくさんの方がいるので登れないと思う。どこかタワーを建設できないか

・南側の山々は崩れやすそう。下の住民の方々が心配。
・筆山系の山に避難していいものか、きちんと調べて欲しい。



つづく



● 潮江南地域が今後どうなっていて欲しいと思いますか？また、アンケートに関する具体的なご意見など、ご自由にご記入ください。（内容の近いものは一部省略しています。ご了承ください。）

■ 避難生活の不安(避難所の生活, 長期浸水…など)

災害発生時に安心して避難生活がおくれる環境が整ってほしい。
平成10年9月集中豪雨の際、潮江南小での避難生活は劣悪なものでした。
特にトイレ(女性)など。

長期浸水時の交通手段(高見山の旧海道の整備)

■ 災害時の対応全般(避難場所や避難所, 災害時の連絡手段…など)

”顔の見える町内会”として活動すべきと考えていますが、町内の方々は独居老人がほとんどで、しかも活動になかなか参加出来なかつたりするので、そういう方々に防災のしくみ・あり方を理解してもらい、自分でまず身を守る方法を学んで頂き、なおかつ助け合って避難出来る様に取り組めたら良いと思います。
地域の人数が多いので、南小へ避難してもそこで避難生活が出来るか不安。しかも、建物がとても古いので、逃げられるかも解らないので、そういった方々へのフォロー(おおよその避難人数やスペースの広さ、食料備蓄に関する情報や複数の避難経路など)も、やっていけたら良いと思います。

・被災直後の安全確認の方法が明確でないのでは？
・老人、子供等への安全場所への誘導方法が不明確なのは？
・被災情報の伝達方法が不明では？
・若い人が減少し老人が多くなると思いますが、被災時の対応方針が分らない。
・週知事項の不徹底による事項が多い。

地域の方が役員の方だけ知っているやっているではなく、住民が高齢化しているので、誰かがやってくれるではなくて、常に防災意識を高めて、各自が自覚している人々の集合体になれば良いと思う。私達、近所の方々との話しは、挨拶しながら、防災や、避難については、常に楽しく、会話を交わしています。

■ 公助

六泉寺市住は防災の要求にふさわしくない。取り急ぎ改修が必要。市住には500世帯約1000人が住んでいて、政府はその人に責任をもってほしい。

地震、津波のときのサイレン、合図があるといいのですが、聞こえる様な！

■ 災害時、助け合えるようなつながりが必要・コミュニティの強化が必要

非常時に助け合える町になればいいと思う。

お年寄りグループでかたまっていて全てに参加しにくい。あいさつしてもしてくれない。昔から居るという意識が強い。

健康者、お年寄りだけでなく障害のある人達への配慮や知識を持って頂きたい。

地域にどのような人がいるか、仲良くなれるのかはよく分かりませんが、あいさつは良いと思います。
他の人と会話したりする機会がなく、今は活躍の場が少なく困っています。

顔見知りが増え、何かの時に助けて欲しい。

今迄もこれからも高齢化に伴い高齢者がどんどん増えていきます。独居老人への関わり方、他の地域の活動状況を共有化できるようにお願いしたい。空き家が増えており、それについても心配です。若い世代の地域への関わりが積極的に必要。成功事例・体験をお聞かせいただきたいです。

地域の防災活動があまりわからないし、高齢で耳が聞こえにくいので、人と人との関わりに入っていけないので、防災を含めその他行事についても参加できない。

ご近所同士のつき合いがあまりないので、防災の観点から、お互いの顔がわかるコミュニティになれば。

・防災に強い街
・今回のコロナなどの災害で地域のつながりが大事ではないかと感じた。これからは食料の確保が大切、地域で畑を皆でお世話して、地域で作物を作ることも安全な街づくりに貢献できよいのではと考えます。

小さい子供さんから高齢の方もいるので、防災や災害、地震があった時などは地域のみみんなで協力して助けたいです。そのためには日頃から近所の人たちとコミュニケーションや地域のイベントのは積極的に参加したいと思っています。これからは若い方たちの力も必要だと思います。

アンケート回答者内訳

●年齢層 … 10歳代:6人 20歳代:17人 30歳代:82人 40歳代:121人
50歳代:53人 60歳代:46人 70歳代以上:121人

●町別 … 竹島町:99人 南竹島町:39人 六泉寺町:96人 深谷町:13人 孕西町:53人
孕東町:1人 南ノ丸町:11人 南中山:0人 北中山:4人 高見町:52人
北高見町:12人 北竹島町:60人 その他:6人

潮江南防災連合会
令和4年度作成
